2025年度
大学院経営学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

修士課程（昼間）授業科目【X7002】経営学基礎論［福島　英史］春学期授業/Spring 1
修士課程（昼間）授業科目【X7009】人的資源管理特論Ⅰ［藤本　真］春学期授業/Spring 2
修士課程（昼間）授業科目【X7011】経営戦略特論Ⅰ［李　瑞雪］春学期授業/Spring 4
修士課程（昼間）授業科目【X7012】経営戦略特論Ⅱ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 5
修士課程（昼間）授業科目【X7013】国際経営特論Ⅰ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 6
修士課程（昼間）授業科目【X7014】国際経営特論Ⅱ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 8
修士課程（昼間）授業科目【X7015】国際経営研究Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 10
修士課程（昼間）授業科目【X7016】国際経営研究Ⅱ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 12
修士課程（昼間）授業科目【X7019】会計学入門［神谷　健司］春学期授業/Spring 16
修士課程（昼間）授業科目【X7020】財務会計論Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring 17
修士課程（昼間）授業科目【X7021】財務会計論Ⅱ［川島　健司］秋学期授業/Fall 19
修士課程（昼間）授業科目【X7024】経営分析論Ⅰ［福多　裕志］春学期授業/Spring 21
修士課程（昼間）授業科目【X7025】経営分析論Ⅱ［福多　裕志］秋学期授業/Fall 23
修士課程（昼間）授業科目【X7026】財務諸表分析［髙橋　美穂子］春学期授業/Spring 25
修士課程（昼間）授業科目【X7029】ミクロ経済論Ⅰ［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring 26
修士課程（昼間）授業科目【X7030】ミクロ経済論Ⅱ［宮澤　信二郎］秋学期授業/Fall 28
修士課程（昼間）授業科目【X7033】組織経済学［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 30
修士課程（昼間）授業科目【X7036】ファイナンス入門［芝田　隆志］秋学期授業/Fall 32
修士課程（昼間）授業科目【X7037】ポートフォリオ理論入門［芝田　隆志］秋学期授業/Fall 33
修士課程（昼間）授業科目【X7038】デリバティブ入門Ⅰ［山嵜　輝］春学期授業/Spring 34
修士課程（昼間）授業科目【X7039】デリバティブ入門Ⅱ［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 36
修士課程（昼間）授業科目【X7040】コーポレートファイナンス入門Ⅰ［金　瑢晋］春学期授業/Spring 38
修士課程（昼間）授業科目【X7041】コーポレートファイナンス入門Ⅱ［金　瑢晋］秋学期授業/Fall 40
修士課程（昼間）授業科目【X7042】国際経済学Ⅰ［髙橋　理香］春学期授業/Spring 41
修士課程（昼間）授業科目【X7043】国際経済学Ⅱ［髙橋　理香］秋学期授業/Fall 43
修士課程（昼間）授業科目【X7044】国際金融論特論Ⅰ［羅　鵬飛］春学期授業/Spring 45
修士課程（昼間）授業科目【X7045】国際金融論特論Ⅱ［羅　鵬飛］秋学期授業/Fall 47
修士課程（昼間）授業科目【X7046】産業組織論Ⅰ［矢野　智彦］春学期授業/Spring 49
修士課程（昼間）授業科目【X7047】産業組織論Ⅱ［矢野　智彦］秋学期授業/Fall 51
修士課程（昼間）授業科目【X7048】日本経済特論Ⅰ［平田　英明］春学期授業/Spring 52
修士課程（昼間）授業科目【X7049】日本経済特論Ⅱ［平田　英明］秋学期授業/Fall 54
修士課程（昼間）授業科目【X7050】統計学Ⅰ［高橋　慎］春学期授業/Spring 56
修士課程（昼間）授業科目【X7051】統計学Ⅱ［高橋　慎］秋学期授業/Fall 57
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7062】ワークショップ（企業家養成）［近能　善範］春学期授業/Spring 58
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7064】企業家史［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 60
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7065】経営史［韓　載香］秋学期授業/Fall 62
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7066】経営戦略論［吉田　健二］春学期授業/Spring 64
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7067】イノベーション・マネジメント概論［近能　善範］秋学期授業/Fall 65
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7068】企業間関係論［金　容度］秋学期授業/Fall 66
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7071】ワークショップ（人材・組織マネジメント）［長岡　健］秋学期授業/Fall 67
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7072】人的資源管理論［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 69

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7074】人事制度論［奥西　好夫］春学期授業/Spring 71
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7075】労働市場論［藤本　真］秋学期授業/Fall 73
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7076】労使コミュニケーション論［呉　学殊］秋学期授業/Fall 75
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7078】組織行動論［西川　真規子］春学期授業/Spring 77
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7081】組織マネジメント論［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 78
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7082】経営管理論［中西　善信］春学期授業/Spring 80
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7085】ワークショップ（マーケティング）［朝岡　崇史］秋学期授業/Fall..... 81
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7086】マーケティング論［岡田　庄生］春学期授業/Spring . 84
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7087】消費者行動論［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 86
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7088】マーケティング・リサーチ論［西川　英彦］春学期授業/Spring 88
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7089】製品開発論［田路　則子］春学期授業/Spring 90
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7092】流通システム論［木島　豊希］春学期授業/Spring ... 92
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7097】経営学基礎［福島　英史］春学期授業/Spring 93
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7098】財務会計基礎［川島　健司］秋学期後半/Fall(2nd half) 94
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7099】管理会計基礎［福田　淳児］秋学期前半/Fall(1st half)..... 96
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7100】ファイナンス基礎［山嵜　輝］春学期授業/Spring..... 98
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7101】経営分析［福多　裕志］春学期授業/Spring..... 100
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7104】情報学特論［児玉　靖司］秋学期後半/Fall(2nd half) 101
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7111】国際経営論特講Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 102
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7112】国際経営論特講Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 104
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7117】地域経済研究（アジア）［苑　志佳］春学期授業/Spring 108
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7120】基礎ファイナンス［山嵜　輝］春学期授業/Spring..... 110
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7121】経営分析［福多　裕志］春学期授業/Spring 112
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7150】企業家養成演習［近能　善範］春学期授業/Spring 113
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7151】企業家養成演習［近能　善範］秋学期授業/Fall..... 114
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7154】マーケティング演習［長谷川　翔平］春学期授業/Spring 115
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7155】マーケティング演習［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall 116
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7200】企業家養成演習［二階堂　行宣］春学期授業/Spring..... 117
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7201】企業家養成演習［二階堂　行宣］秋学期授業/Fall 118
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7202】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］春学期授業/Spring 119
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7203】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］秋学期授業/Fall..... 120
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7204】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］春学期授業/Spring 121
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7205】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］秋学期授業/Fall..... 122
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7206】アカウンティング･ファイナンス演習［北田　皓嗣］春学期授業/Spring..... 123
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7207】アカウンティング･ファイナンス演習［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 124
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7208】アカウンティング･ファイナンス演習［福田　淳児］春学期授業/Spring..... 125
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7209】アカウンティング･ファイナンス演習［福田　淳児］秋学期授業/Fall 127
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7210】企業家養成演習［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 129
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7211】企業家養成演習［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall..... 130
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7212】企業家養成演習［吉田　健二］春学期授業/Spring 131
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7213】企業家養成演習［吉田　健二］秋学期授業/Fall..... 132
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7216】企業家養成演習［金　容度］春学期授業/Spring..... 133
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7217】企業家養成演習［金　容度］秋学期授業/Fall 134

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7218】人材・組織マネジメント演習［中西　善信］春学期授業/Spring 135
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7219】人材・組織マネジメント演習［中西　善信］秋学期授業/Fall 136
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7220】人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］春学期授業/Spring 137
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7221】人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 138
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7222】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 139
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7223】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 140
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7224】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］春学期授業/Spring 141
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7225】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 142
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7226】マーケティング演習［西川　英彦］春学期授業/Spring 143
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7227】マーケティング演習［西川　英彦］秋学期授業/Fall .. 144
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7228】マーケティング演習［田路　則子］春学期授業/Spring 145
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7229】マーケティング演習［田路　則子］秋学期授業/Fall .. 146
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7230】マーケティング演習［木村　純子］春学期授業/Spring 147
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7231】マーケティング演習［木村　純子］秋学期授業/Fall .. 148
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7232】マーケティング演習［新倉　貴士］春学期授業/Spring 149
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7233】マーケティング演習［新倉　貴士］秋学期授業/Fall .. 150
修士課程（昼間）授業科目【X7236】経営学演習Ⅰ［安藤　直紀］春学期授業/Spring..... 151
修士課程（昼間）授業科目【X7237】経営学演習Ⅱ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall..... 152
修士課程（昼間）授業科目【X7238】経営学演習Ⅰ［李　瑞雪］春学期授業/Spring 153
修士課程（昼間）授業科目【X7239】経営学演習Ⅱ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 154
修士課程（昼間）授業科目【X7240】経営学演習Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring..... 155
修士課程（昼間）授業科目【X7241】経営学演習Ⅱ［洞口　治夫］秋学期授業/Fall..... 157
修士課程（昼間）授業科目【X7242】経営学演習Ⅰ［児玉　靖司］春学期授業/Spring..... 159
修士課程（昼間）授業科目【X7243】経営学演習Ⅱ［児玉　靖司］秋学期授業/Fall..... 161
修士課程（昼間）授業科目【X7244】経営学演習Ⅰ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring..... 163
修士課程（昼間）授業科目【X7245】経営学演習Ⅱ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall..... 164
修士課程（昼間）授業科目【X7246】経営学演習Ⅰ［木村　純子］春学期授業/Spring..... 165
修士課程（昼間）授業科目【X7247】経営学演習Ⅱ［木村　純子］秋学期授業/Fall..... 166
修士課程（昼間）授業科目【X7248】経営学演習Ⅰ［新倉　貴士］春学期授業/Spring..... 167
修士課程（昼間）授業科目【X7249】経営学演習Ⅱ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall..... 168
修士課程（昼間）授業科目【X7250】経営学演習Ⅰ［長谷川　翔平］春学期授業/Spring 169
修士課程（昼間）授業科目【X7251】経営学演習Ⅱ［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall 170
修士課程（昼間）授業科目【X7252】経営学演習Ⅰ［西川　英彦］春学期授業/Spring..... 171
修士課程（昼間）授業科目【X7253】経営学演習Ⅱ［西川　英彦］秋学期授業/Fall..... 172
修士課程（昼間）授業科目【X7254】経営学演習Ⅰ［戎谷　梓］春学期授業/Spring 173
修士課程（昼間）授業科目【X7255】経営学演習Ⅱ［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 175
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7400】博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 177
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7401】博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 178
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7406】博士演習ⅡＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 179
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7407】博士演習ⅡＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall..... 180
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7408】博士演習ⅡＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 181
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7409】博士演習ⅡＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall..... 183
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7410】博士演習ⅢＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 185
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7411】博士演習ⅢＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall..... 186
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7412】博士演習ⅢＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 187
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7413】博士演習ⅢＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall..... 188
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7414】博士演習ⅢＡ［小川　憲彦］春学期授業/Spring 189

博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7415】博士演習ⅢＢ［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 190
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7416】博士演習ⅢＡ［坂上　学］春学期授業/Spring 191
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7417】博士演習ⅢＢ［坂上　学］秋学期授業/Fall 192
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7418】博士演習ⅢＡ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 193
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7419】博士演習ⅢＢ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 194
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7420】博士演習ＩＡ［川島　健司］春学期授業/Spring 195
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7421】博士演習ＩＢ［川島　健司］秋学期授業/Fall 196
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7422】博士演習ＩＡ［戎谷　梓］春学期授業/Spring 197
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7423】博士演習ＩＢ［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 199
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7424】博士演習ＩＡ［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 201
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7425】博士演習ＩＢ［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 203
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7426】博士演習ＩＡ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 205
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7427】博士演習ＩＢ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 206
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7428】博士演習ＩＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 207
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7429】博士演習ＩＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 208
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7430】博士演習ＩＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 209
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7431】博士演習ＩＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 211
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7450】博士コースワークショップＩＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 213
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7451】博士コースワークショップＩＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 214
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7452】博士コースワークショップⅡＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 215
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7453】博士コースワークショップⅡＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 216
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7454】博士コースワークショップⅢＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 217
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7455】博士コースワークショップⅢＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 218

MAN500F1 – 0187（経営学 / Management 500）

経営学基礎論

福島　英史

備考（履修条件等）：**夜間主催「経営学基礎」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得し，論文の読み方（基本的な構成・各研究の問題設定・方法・結論・研究間の関係）を学ぶことにあります。経営学は幅広い研究領域を持ちますが，本年度は，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマに据えます。

【到達目標】
一般に，修士課程学生は大きな問題意識・志はあるものの，論文・リサーチペーパーとしてのフォーカス・問題設定に時間がかかる傾向にあると思われます。そこで先人達の問題設定と答えを見ていくことで，自分の論文の位置づけ，論文構成イメージを構築できることが到達目標です。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では研究の基礎となる文献（英語または日本語の論文等）の輪読を行います。受講者全員が各回文献を読んで、質疑や議論に参加できる準備をお手元にします。ただし自身のレポート担当回には、レジュメを授業開始前迄にHoppiiで公開・共有していただきます。レジュメには内容とディスカッション・ポイントをまとめていただき，授業ではこれらについて議論します。概念と現実の往復を念頭に，現象面の関心事にひき付けて理解し，議論します。教員のコメントや解説が行われます。国内外の学会誌から定評ある論文を読みたいと考えます。以下に，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマとした授業計画を示します。受講生の関心と学力に応じて調整します。各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。文献・論文は受講者の関心も聞いた上で決定したいため，第１回目の授業に必ず参加して下さい。第１回目に参加できなかったが履修意思がある場合は、第２回目当日迄にご相談ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題意識の共有と文献の選定
第2回	新規事業開発	内部開発と買収
第3回	ドミナントロジック	経営層の信念
第4回	多角化戦略	多様化と収益性
第5回	アンビデクスタリティ	イノベーションのための組織
第6回	探索と活用	組織学習
第7回	垂直統合と水平分業	事業の範囲
第8回	イノベーションとステークホルダー	資源依存アプローチ
第9回	イノベーションと認知	資源能力と分業構造
第10回	イノベーションと補完的資産	市場地位への影響
第11回	資源戦略論・動的企業能力	広義のシナジー効果
第12回	オープンイノベーション	ＣＶＣ・スピンオフ
第13回	事業プラットフォーム	多面市場・競争と協調
第14回	まとめ，最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論する論文を事前に読み，レジュメにおいて，要約を書き，疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に4時間・復習に1時間を要します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。教材として論文を輪読します。

【参考書】
イノベーションと戦略に関する基本的な知識を補いたい場合は，以下のテキストをご参照下さい。
Grant, R. M. 2016. Contemporary Strategy Analysis, 9th ed., Wiley.（加瀬公男監訳『現代戦略分析第２版』中央経済社, 2019）
Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（青島 矢一監修『技術とイノベーションの戦略的マネジメント上下』翔泳社, 2007）

【成績評価の方法と基準】
レジュメの評価（35％），授業中の発言（35％），最終課題（30％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時，ディスカッション時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.comへご相談ください.

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009. ・"The Network Structure of Open Innovation and the Creativity in the Semiconductor Manufacturing Equipment Industry," co-author, IIAI-AAI, 2023, IEEE.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of innovation and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of innovation and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on regular assignments (35%), in-class contribution (35%) and semester-end assignment (30%).

MAN500F1 – 0151（経営学 / Management 500）

人的資源管理特論 I

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していきます。
取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人材の配置・異動、評価・賃金制度、能力開発、労働時間管理、労使関係管理、多様化する人材の管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などです。これらの領域について現状と歴史、主要な議論を把握するとともに、参加者は、各領域に対応するケースや論文を取りまとめ、その構造や課題について報告・議論します。
こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人的資源管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としています。

【到達目標】
①人的資源管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。
②人的資源管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
③そのうえで、日本企業における人的資源管理の特殊性について理解・評価する。
④身近な人的資源管理の事例について考察する視点を得る。
⑤人的資源管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．授業は、①人的資源管理の各領域に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題についての報告・ディスカッション、とを組み合わせて進める予定です。毎回、講義形式の部分に加えて、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。
３．およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第2回	オリエンテーション	参加者の問題関心の共有と、人的資源管理の基本枠組みについての説明
第3回	採用のマネジメント	採用の目的、採用管理の基本、新卒採用・中途採用の意義、採用と定着
第4回	配置と異動	配置・異動の目的、初任配置、企業を超えた配転
第5回	昇進と昇格	昇進管理の目的、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、社員の格付け、昇格と昇進
第6回	多様な雇用・就業形態の活用	正社員以外の雇用・就業形態で働く人々の配置と処遇、「同一労働・同一賃金」に向けた取り組み
第7回	働く時間のマネジメント	労働時間管理の基本的枠組み、長時間労働・「サービス残業」の背景、ワーク・ライフ・バランス
第8回	仕事ぶりの評価	人事評価の目的・方法、様々な評価要素（コンピテンシーなど）、人事評価に伴う課題
第9回	賃金管理(１)－賃金決定と福利厚生の枠組み－	賃金の基本的な枠組み、賃金がもつ機能、賃金の総額管理と個別賃金管理、福利厚生
第10回	賃金管理(２)－様々な給与形態－	「年功主義的」賃金の成立過程と課題、近年における評価・賃金制度の模索と課題
第11回	能力開発とキャリア形成のマネジメント(１)	仕事上の能力開発の目的、能力開発の方法、リスキリング、能力開発とキャリア形成・管理
第12回	能力開発とキャリア形成のマネジメント(２)	配置・異動とキャリア形成、「新しい」異動の仕組みと課題、「キャリア自律」に向けた取組み
第13回	女性の仕事とキャリア形成	女性の採用・配置・処遇の現状、性別職域分離とその解消に向けた取組み
第14回	退職のマネジメント	退職管理、早期退職優遇制度、定年制、「70歳までの雇用・就業」に向けての取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。
各回の事前に配布する講義用のレジュメを熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。
また、各回で発表の指名を受けた参加者は、発表課題について内容をまとめたレジュメを作成しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。各回の授業の前に、講義で用いるレジュメを配布します。

【参考書】
各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。
①今野浩一郎、佐藤博樹[2020]『人事管理入門（第3版）』，日本経済新聞社.
②佐藤博樹、藤村博之、八代充史[2023]『新しい人事労務管理（第7版）』，有斐閣.
③平野光俊、江夏幾多郎[2018]『人事管理～人と企業，ともに活きるために』，有斐閣ストゥディア.
④守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著[2018]『価値創発(EVP)時代の人的資源管理』，ミネルヴァ書房.
⑤八代充史[2019]『人的資源管理論～理論と制度(第3版)』,中央経済社.
⑥上林千恵子編著[2012]『よくわかる産業社会学』,ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
１．第２回以降の出席を「授業における学習姿勢」として評価(40%)
２．報告の担当回での報告内容の評価(30%)
３．授業における議論への参加の評価：内容、積極性を評価(30%)
以上の３項目を総合して、最終的な評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
１．人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを挙げる」ための営みと、捉えることができます。授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①～④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、報告・ディスカッションを通じて、検討を行っていきます。
２．この授業は、海外から進学してきた大学院生が多く履修しているため、日本企業の人的資源管理についての理解を深めるとともに、海外企業と日本企業との共通点や違いがなぜ生まれるのかについて、考察できる機会にしていきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理

②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
③転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
④能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編[2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著),労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著[2019]『労働・職場調査ガイドブック』,中央経済社.
○森山智彦／労働政策研究・研修機構編［2022］『70歳就業時代における高年齢者雇用』,労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀編著［2024］『日本企業の能力開発システム』,労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真[2011]「60歳以降の勤続をめぐる実態―企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」,日本労働研究雑誌No.616.
○藤本真[2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」,日本労働研究雑誌No.691.
○藤本真[2023]「日本のデジタル関連スキル養成政策の特徴と課題」,日本労働研究雑誌No.754.

【Outline (in English)】
【Outline】
Students will learn the basic concept of human resource management practiced by Japanese companies and discuss their characteristics through international comparison with overseas companies and systems.
The topics covered in this class are recruitment, placement /transfer, evaluation, wage system, human resource development, working time management, industrial relations, diversification of human resources, retirement, and so on. Participants are required to understand the main issues on these topics, and to report and discuss examples and papers corresponding to each topic.
Through these learning activities, the goal is for participants to acquire the ability to think about the current status and issues of human resource management.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) To understand the breadth of the subject area of human resource management theory and its basic concepts.
(2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management.
(3) To understand and evaluate the particularities of human resource management in Japanese companies.
(4) To gain a perspective from which to examine familiar human resource management case studies.
(5) To gain a viewpoint from which to critically examine papers related to human resource management.
(6) To obtain hints for research themes for master's thesis.
【Learning activities outside of classroom)】
Before each class meeting, students are expected to do the followings. Your required study time is at least two hours for each　class meeting.
(1) Students are expected to read carefully the lecture resume distributed in advance.
(2) International students should be prepared to discuss the differences between the system and the actual situation in their home countries and the future issues.
(3) Participants who are appointed to give a presentation in each session should prepare a resume summarizing the contents of the presentation topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%and in-class contribution：70%.

MAN500F1 － 0153（経営学 / Management 500）

経営戦略特論Ⅰ

李　瑞雪

備考（履修条件等）：**隔年開講**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業はどのように自社の事業範囲を決定し、持続可能な競争優位を競合他社に対して獲得し、効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し、改善していくのか。これらの問題を中心に、企業の全社戦略、競争戦略、サプライチェーン戦略を検討します。ケースメソッドを用いて、具体的な企業事例を分析することで、理論の理解を深めます。

【到達目標】
本授業では、全社戦略、競争戦略（事業戦略）、サプライチェーン戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営戦略とは	経営戦略の定義と階層、戦略と組織、戦略とオペレーション。
第2回	競争優位と一般戦略	戦略と競争優位、一般戦略（コストリーダーシップ、差別化、集中化）、差別化の類型、持続的競争優位のメカニズム。
第3回	ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	SCPモデル、ファイブ・フォース・モデル、参入障壁、戦略グループ、移動障壁。
第4回	ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	バリューチェーン、ピムズ・デル、SWOT分析、戦略策定手順、PPM、ビジネススクリーン。
第5回	１回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第6回	産業構造と戦略的機会(Ⅰ)	集約・統合戦略、先行者優位の戦略、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退戦略、勝者総取り戦略。
第7回	産業構造と戦略的機会（Ⅱ）	トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、先制破壊戦略。
第8回	リソース・ベース・ビュー（RBV）	VRIOフレームワーク、競争戦略と経営資源、コア・コンピタンス、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積メカニズム、イノベーションと競争優位。
第9回	ゲーム論アプローチ（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、コーピティション（競争と協調）、「付加価値」と価値工限度、ネットワークの外部性と競争優位。
第10回	２回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第11回	ゲーム論アプローチ（Ⅱ）	MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止。
第12回	創発戦略と学習アプローチ	創発戦略、学習の「場」の設定、実験による学習、ダイナミック・シナジー。
第13回	競争戦略パラダイムの転換	イノベーション戦略、プラットフォーム戦略、シェアリング・ビジネスの戦略など。
第14回	競争戦略のまとめ、中間テスト	競争戦略のまとめ、中間テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

【テキスト（教科書）】
レジュメ配布。

【参考書】
『企業戦略論』ジェイB. バーニー著、ダイヤモンド社.
『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーグ著、東洋経済新聞社.
『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社.
『戦略経営論』ｶﾞｽ・ｻﾛｰﾅｰほか著、東洋経済新聞社.
Supply Chain Logistics Management, 4th Edition, D. J. Bowersox, D. J. Closs, M. B. Cooper, J. C. Bowersox, McGraw Hill.
Logistics Management &Strategy, 4th Edition, A. Harrison & R. V. Hoek, FT Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加の度合いと貢献度（20％）、ケーススタディの討論と発表（25％）、中間テストの成績（25％）、期末テストの成績（30％）を総合して成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクス・マネジメント論、経営戦略論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略とサプライチェーンマネジメント戦略、ロジスティクスクラスター形成
＜主要研究業績＞『中国物流産業論：高度化の軌跡とメカニズム』白桃書房.
『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房.
『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房など.

【Outline (in English)】
How do companies determine their business scope, acquire sustainable competitive advantages over their rivals, build and improve efficient and effective operational systems? Focusing on these issues, this course will explore and discuss corporate strategy, business strategy, and supply chain strategy. The case method will be used to analyze real-world examples. The goals of this course are to deeply understand the relevant theories and be able to analyze the effectiveness of companies' strategies. Before each class meeting, students are expected to have read the relevant articles assigned by the instructor. The required study time is at least two hours for each class meeting. The final grade will be calculated based on the following components: Mid-term report (25%), term-end examination (30%), and in-class contribution, including presentations and discussions(45%).

MAN500F1 – 0154（経営学 / Management 500）

経営戦略特論Ⅱ

李　瑞雪

備考（履修条件等）：**隔年開講**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業はどのように自社の事業範囲を決定し、持続可能な競争優位を競合他社に対して獲得し、効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し、改善していくのか。これらの問題を中心に、企業の全社戦略、競争戦略、サプライチェーン戦略を検討します。ケースメソッドを用いて、具体的な企業事例を分析することで、理論の理解を深めます。

【到達目標】
本授業では、全社戦略とオペレーションズ戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業戦略の基本	ドメイン、製品・市場ポートフォリオ、シナジー、成長ベクトル
第2回	多角化戦略	多角化戦略の定義、多角化の誘因・動機、多角化の類型、多角化度、多角化ディスカウント、ダイナミックな学習プロセス
第3回	垂直統合の戦略	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第3の取引形態、取引統治メカニズムの類型など
第4回	国際化の戦略	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁、OLIフレームワーク、統合化と適応化、国際企業の類型、CAGEフレームワーク、AAA戦略、ボーングローバル戦略
第5回	M&A戦略とPMI戦略	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、ターゲット企業とビディング戦略の行動規範と原則、買収後のプロセス統合戦略
第6回	戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、提携におけるリスクなど
第7回	第１回のケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表
第8回	サプライチェーン戦略	SCMとサプライチェーン戦略、プロセス管理、効率性指向のサプライチェーンと応答性指向のサプライチェーン、延期化と投機化、マス・カスタマイゼーション
第9回	サプライチェーン・ネットワーク分析	サプライチェーン・ビジネス・プロセス、サプライチェーン・ネットワーク構造、サプライチェーン・マネジメント・コンポーネント
第10回	ロジスティクス戦略の基本要素	トータルコスト、差別的ディストリビューション、混合戦略、コンソリデーション
第11回	ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント組織	サプライチェーン戦略とサプライチェーン組織、サプライチェーン・パフォーマンスとメトリクス
第12回	調達戦略と製造戦略	多様な調達機能、TCO、調達方式の類型、調達戦略のマトリクス、調達組織、オペレーションモデル（生産戦略）、生産プロセス、生産工程の基本タイプ、リーン生産システム
第13回	ビジネスモデルと経営戦略	ビジネスモデルのマジック・トライアングル、事業設計、ビジネスモデルの主要パターン
第14回	ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
『企業戦略論』ジェイB. バーニー著、ダイヤモンド社.
『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーグ著、東洋経済新聞社.
『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社.
『戦略経営論』ガース・サローナーほか著、東洋経済新聞社.
『リーン・スタートアップ』エリック・リース著、日経BP社.

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加の度合いと貢献度（20％）、ケーススタディの討論と発表（25％）、中間テストの成績（25％）、期末テストの成績（30％）を総合して成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクス・マネジメント論、経営戦略論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略とサプライチェーンマネジメント戦略、ロジスティクスクラスター形成
＜主要研究業績＞『中国物流産業論：高度化の軌跡とメカニズム』白桃書房.
『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房.
『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房など.

【Outline (in English)】
How do companies determine their business scope, acquire sustainable competitive advantages over their rivals, build and improve efficient and effective operational systems? Focusing on these issues, this course will explore and discuss corporate strategy, business strategy, and supply chain strategy. The case method will be used to analyze real-world examples. The goals of this course are to deeply understand the relevant theories and be able to analyze the effectiveness of companies' strategies. Before each class meeting, students are expected to have read the relevant articles assigned by the instructor. The required study time is at least two hours for each class meeting. The final grade will be calculated based on the following components: Mid-term report (25%), term-end examination (30%), and in-class contribution, including presentations and discussions(45%).

MAN500F1 – 0155（経営学 / Management 500）

国際経営特論 I

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、オンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	講義概要とオリエンテーション
2	Methodology	社会科学の研究方法の検討
3	The environment of international business (1)	制度的環境に関する検討
4	The environment of international business (2)	文化的環境に関する検討
5	Institutional theory	制度理論の検討
6	Emerging economies	新興経済における制度の検討
7	FDI	FDIの現状と類型に関する検討
8	MNE	多国籍企業とは
9	Theory on internationalization (1)	企業のFDIを説明する理論に関する検討
10	Theory on internationalization (2)	OLIパラダイム、Uppsala Model
11	Strategies of MNEs(1)	Global strategyに関する検討
12	Strategies of MNEs(2)	Multidomestic strategyに関する検討
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（1）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1回　学部で学習したことを復習する
2回　社会科学の方法論に関して調査する
3-4回　多国籍企業が海外で直面する制度的、文化的環境を調査する
5回　Institutional theoryに関して調査する
6回　多国籍企業が新興国で直面する制度的環境に関して調査する
7-8回　FDIの現状について調査する
9-10回　企業の国際化を説明する理論に関して調査する
11-12回　多国籍企業の戦略の類型に関して調査する
13-14回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. &Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. &Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., &Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. &Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. &Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)

Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 – 0156（経営学 / Management 500）

国際経営特論Ⅱ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、オンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Entry mode(1)	参入方式の類型の検討
2	Entry mode(2)	参入方式の選択の検討
3	Transaction cost theory	取引費用理論の検討
4	Intraregional diversification(1)	多国籍企業の地域内拡大に関する検討
5	Intraregional diversification(2)	多国籍企業の地域内拡大とパフォーマンスの関係に関する検討
6	International HRM	海外子会社の人材戦略の検討
7	Agency theory	Agency theoryと海外子会社の人材配置に関する検討
8	Localization	海外子会社の人材現地化の効果に関する検討
9	Language barriers (1)	多国籍企業が直面する言葉の壁の検討
10	Language barriers (2)	言語の壁の克服方法
11	Case analysis (1)	日本企業の海外進出事例の分析
12	Case analysis (2)	外国企業の日本進出事例の分析
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（１）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1-2回　エントリー・モードに関して調査する
3回　取引費用理論に関して調査する
4-5回　多国籍企業の地域内拡大に関して調査する
6回　国際人材戦略に関して調査する
7回　Agency theoryに関して調査する
8回　人材の現地化に関して調査する
9-10回　多国籍企業における言語の役割に関して調査する
11-12回　事例分析で取り上げる企業について調査する
13-14回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. &Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. &Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., &Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. &Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. &Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)

Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 – 0188（経営学 / Management 500）

国際経営研究Ⅰ

洞口　治夫

備考（履修条件等）：**隔年開講，夜間「国際経営論特講Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決するための学問的アプローチの総称です。企業の海外進出は、大企業のみならず中小企業にとっても採用される経営戦略になっています。しかし、本国での戦略やプラクティスを海外で追求しようとしても、本国と外国との様々な相違のために競争優位を得られない場合も多いでしょう。ＭＢＡ学生諸君が国際経営論を学ぶことによって、企業経営の国際化に伴うどのような課題があるのかを理解することができます。

【到達目標】

修士課程の学生が、国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけることができます。参加学生は、多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立てます。ＭＢＡの共通言語としての経営戦略論・経営組織論・経営管理論の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。学生は自らの研究関心に応じて、『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、Journal of International Business Studies、Strategic Management Journal、Research Policyなど、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指すことができるようになります。学生諸君には、修士論文作成のための様々な研究手法を紹介し、具体例とともに研究の手順を説明していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義、ケースの読解、論文の読解、学生相互の議論、学術的な研究方法の紹介、ビデオ教材の理解といった内容から構成されています。国際経営を理解するために必要な理論を講義した後、ケースや論文の内容を確認し、意思決定課題を学生相互で議論します。講義の中盤では、学生が課題についてプレゼンテーションを行い、それについて議論する場合があります。参加学生の英語力に応じて、それを高める形式での会話やリスニングも随時行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要と国際経営論のオリエンテーション。教科書、資料の紹介。評価方法の説明。
2	国際経営の研究方法	質的調査方法と量的調査方法。近年の話題と研究アプローチの特色。英語学習の方法。
3	国際経営を研究するための経済理論	取引コスト理論、限定された合理性、エージェンシー理論、モラルハザード、機会主義。
4	国際経営を研究するための経営理論	リソース・ベースト・ビュー、経営資源、制度理論。
5	企業の国際化理論	内部化理論、OLIパラダイム、PLC理論、ボーングローバル。
6	エントリー戦略としての輸出・輸入	インボイス、輸出信用状と取引費用の関係性、ロジスティックス産業の役割。
7	直接投資とコーポレート・ガバナンス	エントリー・モードの類型、グリーンフィールド、Ｍ＆Ａ、エントリー・タイミング。
8	ライセンシングとＯＥＭ	特許、フランチャイズ、ブランド・マネジメント、コンテンツビジネス。
9	国際経営とリスク	国家と政治体制。テロリズム、気候変動、パンデミック。貸借対照表と損益計算書。
10	競争と協力	ゲーム理論入門。ジョイント・ベンチャー、出資比率の意味、商社の役割、現地企業の配当政策。
11	国際提携戦略	グローバル戦略的提携のマネジメント、アライアンス、ネットワーク構築。
12	投資意思決定	フィージビリティ・スタディ、経済環境、収益性評価、ＮＰＶ、ＩＲＲ。参考書(4)洞口・行本『入門経営学』第7章。
13	国際Ｍ＆Ａ	国際Ｍ＆Ａの動機、デューデリジェンス、Post Merger Integration、減損、参入と退出。
14	資産評価と収益性評価	有形資産、無形資産、不確実性とリスク、ＲＯＥ、ＲＯＡ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各200分間を標準とします。半期集中の授業のため、準備学習を夏休み期間に行うことをお薦めします。準備学習としては、①教科書の購入と構成の理解、②国際経営戦略の研究に活用される理論に関する文献の講読、③指定文献・配布ケースの講読、④グローバル戦略的提携に関する事前調査、⑤統計学の学習、などが必要となります。復習としては、毎回の講義の後と、試験前の全講義の復習などが必要となります。

【テキスト（教科書）】

(1)洞口治夫・行本勢基『入門　経営学』第2版、同友館、2012年。
(2)原田順子・洞口治夫編著(2025)『企業経営の国際展開』放送大学教育振興会。
＜上記二冊を教科書として用います。アマゾンなどで購入できます。＞
(3)Hofstede, Geert. "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?", Organizational Dynamics, Volume 9, Issue 1, Summer 1980, Pages 42-63. 法政大学のサーバーに接続してGoogle Scholarで論文名を検索するとＰＤＦファイルへのリンクから論文をダウンロードできます。

【参考書】

(1)ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：Levendary Café: The China Challenge。著者 Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号4357. このケースを購入するためには、http://hbr.org/storeのサイトからcaseを選択し、タイトルを記入して検索します。7ドル前後でＰＤＦを購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。登録ユーザーとなるにはhttp://cb.hbsp.harvard.edu/cb/registerのサイトからHigher Education Individualに必要事項を記入してregisterをします。その後、上記のタイトルを入力し、show detailからＰＤＦを購入します。著作権が保護されていますのでコピーは避けて下さい。また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。
(2)洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
(3)洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
(4)洞口治夫『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
(5)洞口治夫『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
(6)John Daniels, Lee Radebaugh, Daniel Sullivan, International Business: Environments and Operations, 2011, Pearson Education; Global ed of 14th revised ed版, 2012.
(7)東北大学統計グループ『これだけは知っておこう！ 統計学』有斐閣、2002年。
(8)岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社、1983年。
(9)P.G.ホーエル『初等統計学』培風館、1981年.
(10)星野匡郎・田中久稔『Rによる実証分析 ―回帰分析から因果分析へ―』オーム社、2016年.

(11)山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Ｒによるやさしい統計学』オーム社、2008年.
(12)フィリップ・コトラー他著『ＡＳＥＡＮマーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マグロウヒル・エデュケーション、2007年.
(13)Ａ．Ｃ．チャン、Ｋ．ウエインライト『現代経済学の数学基礎（上)』シーエーピー出版、2010年。
＜図書館で借りて、内容を確認して下さい。＞

【成績評価の方法と基準】
授業参加（出席と議論への参加）：28％
宿題ないしプレゼンテーションなどクラスへの貢献：12％
中間試験：20％
期末試験：40％
中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパーないしレポートによって行います。その評価にはペーパー自体の評価だけでなく、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからの示唆を要約すると、より高度な理論をよりわかりやすく講義し、学生相互のディスカッションの時間をとることによって記憶に定着させることが要望されているようです。英語での講義、輪読やディスカッションを望む声と、それを難しいと感ずる声が混ざっています。英語でのディスカッションを増やしていきたいと思いますが、同時に、基礎的な英語の学力を錬成して応用に結びつけていくことを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットを検索・閲覧できるスマホ、授業支援システムにワード・ファイルやパワーポイント・ファイルをアップロードできるパソコンなど。

【その他の重要事項】
この授業を履修する学生諸君には経営学基礎、統計データ解析、経営戦略論、経営組織論の授業を履修することをお薦めします。また、本授業を通じて英語のリスニング、スピーキングの能力養成を試みていきます。
洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞ Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
④『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
⑤『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
⑥『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
＜論文＞
⑦Organization philosophy: a study of organizational goodness in the age of human and artificial intelligence collaboration, AI &Society (2024). DOI https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6
⑧ "Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds", Review of Behavioral Finance, (2023), Vol. 15 No. 5, pp. 652-671. https://doi.org/10.1108/RBF-09-2021-0176

【Outline (in English)】
【Course outline】"International Business" is a general term for academic approaches to solve various problems associated with internationalization of corporate management. The overseas expansion of companies is a management strategy adopted not only for large companies but also for small and medium enterprises. However, even if you try pursuing strategies and practices overseas, there are many cases where competitive advantages can not be obtained due to various differences between home country and foreign country.
【Learning Objectives】
You can learn international management theory and understand what challenges are associated with internationalization of corporate management.
【Learning activities outside of classroom】
The recommended time for preparation and review for this class is 200 minutes each. Since this is an intensive half-year course, we suggest that you complete your preparation during the breaks. Preparation will include: (1) purchasing the textbook and familiarizing yourself with its structure; (2) reading literature on the theories related to international business strategy; (3) reviewing the assigned readings and case studies; (4) conducting preliminary research on global strategic alliances; and (5) studying statistics. For review, it is important to go over all lectures after each class and before the exam.
【Grading Criteria /Policy】
Class participation (attendance and participation in discussions): 28
Contribution to class, such as homework or presentations: 12
Mid-term exam: 20
Final exam: 40
Both the mid-term and final exams will be in the form of written exams, term papers, or reports. The evaluation will assess not only the content of the paper itself but also the presentation of the paper.

MAN500F1 － 0189（経営学 / Management 500）

国際経営研究Ⅱ

洞口　治夫

備考（履修条件等）：**隔年開講，夜間「国際経営論特講Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際化を続ける企業経営が直面する問題を理解し、その動因となっている企業経営の力学を理解する。国際化を牽引するどのような機構（メカニズム）が存在し、どのような駆動力（エンジン）が存在するのかを理解します。学術的論文が、実学の基礎となっていることを説明し、経営学による企業経営の理解が、企業経営の実践につながっていることを理解していきます。大学院にふさわしい英語力、数学力、統計学の基礎、日本語読解力と論理的思考を養うことも目的としています。

【到達目標】

修士課程の学生が、国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけることができます。参加学生は、多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立てます。ＭＢＡの共通言語としての経営戦略論・経営組織論・経営管理論の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。学生は自らの研究関心に応じて、『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、Journal of International Business Studies、Strategic Management Journal、Research Policyなど、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指すことができるようになります。学生諸君には、修士論文作成のための様々な研究手法を紹介し、具体例とともに研究の手順を説明していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業では、企業活動の国際化にともなう諸問題を可能なかぎり包括的に取り扱います。経営学の一般的な体系を、経営戦略・経営組織・経営管理と捉える立場から、外国市場への参入戦略、国際化戦略に適合した組織の構築、国際的な経営管理の諸問題について議論していきます。

講義と論文、ケース（英文による事例）の読解、また、それらを補うためのビデオ教材や日本語学術論文などを使用しながら授業を進めます。参加学生相互の議論も重要である。討論の課題とする論文やケースは、予習、復習を重視して、複数の回で議論することがあります。

なお授業内容・ケースともに、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・国際経営の範囲と対象－経営学とは何か－	○講義―――授業の進め方とルールの説明。 経営学の系譜。経済学と経営学。経営学の問題領域。経営学の古典。テイラー、ホーソン実験と産業社会学。マズローの欲求段階説。コンティンジェンシー理論。ウッドワード、バーンズ＝ストーカー、ローレンス＝ローシュ。限定された合理性とフレーミングの理論。バーナード、サイモン、ウィリアムソンと取引費用の経済学。機会主義と内部化理論。ポーターの経営戦略論、リソースベースドビューとペンローズ。野中・竹内の知識創造企業。国際経営論の役立ち方。貿易論・国際金融論と国際経営論。企業経営と国籍。「日本的経営」。産業集積と競争優位。 ○検討する論文――― 洞口治夫「二つの社会科学の２０世紀－経営学と経済学－」『社会科学研究』（東京大学社会科学研究所）第50巻第１号、1998年８月. ○ビデオ―――Ford ○討論の課題―――経営学説史からみて、企業としてのFordはどのような普遍的特徴を備えていたか。
2	第Ⅰ部・外国市場への参入戦略 １．直接投資の理論	○講義―――海外直接投資の理論．学説史の展開．経営資源と取引費用．７つの参入形態．所有の方法(買収・合併とグリーンフィールド)。ハイマー＝キンドルバーガー＝ケイブス、コース＝ウィリアムソン、ペンローズ＝小宮の諸学説。日本企業の直接投資の歴史．対アメリカ、アジア、ヨーロッパ．戦略の「意図」と事後的な分析. ○ビデオ―――MacDonald's ○検討する論文―― ①Horaguchi, H. and Toyne, B.[1990] ②Pitelis, Christos.[2006] ○討論の課題―――１．フランチャイズ・ビジネスの収益源は何か。それが国際化するとき、どのような形態をとるか。 ２．Horaguchi and Toyne[1990]には、何が書かれていたか。 ３．(復習)洞口治夫「二つの社会科学の２０世紀－経営学と経済学－」『社会科学研究』（東京大学社会科学研究所）第50巻第１号、1998年８月．から何が言えるか。

3	２．企業家精神と外国市場	○講義―――プロダクトライフサイクル（ＰＬＣ理論）とボーングローバル。シュンペーターによる「起業家の群生」。クラスターと国の競争優位。シリコンバレーと企業家の要件。新規事業開発の課題と問題点―日本とアメリカ―．ファミリービジネスとしての企業家と経営者． ○ビデオ―――リチャード・ブランソン ○討論の課題―――リチャード・ブランソンと類似した戦略の採用によって成功したと考えられる企業の例をあげて、その理由を説明せよ。
4	３．Ｍ＆Ａ、デューデリジェンスとフィージビリティ・スタディ	○講義―――投資決定の理論．ＮＰＶ．ＩＲＲ．フィージビリティ・スタディの調査項目．コストと「よりよいＦＳ」．経験と調査．暗黙知と形式知．リアルオプション。二項分布とブラウン運動。 ○討論の課題 多国籍企業はＦＳにいくらを支出していると推定されるか。また、それはＦＳとして過大か、過少か。
5	４．戦略類型と国際戦略提携	○講義―――出資の意味．コーポレート・ガバナンス．輸出・直接投資・ライセンシングとＯＥＭ・ＪＶ・プラント輸出．情報技術の発達による説明．間接部門肥大化の論理．集合知のマネジメントと技術移転．知識創造理論・個人的知識・提案制度・産官学連携．暗黙知と形式知、ポランニーの『個人的知識』、暗黙知の腐敗．集合知と自己組織化、創発 ○討論の課題―――アライアンスを組んだ相手企業の意思決定が、常に２ヶ月ほど自社の意思決定よりも遅れる場合、どのような方策をとることができるか。
6	５．経済政策と立地選択	○講義―――グローバリズムとディグローバリゼーション。地域統合と多国籍企業。ＮＡＦＴＡの解体。ＥＵとＡＦＴＡ、ＴＰＰ。スパゲッティ効果、享楽的国際化。農業生産の労働力不足。不法外国人労働対策。 ○討論の課題―――１．地域統合の観点からみて、過剰投資となっている拠点はあるか。 ２．アメリカの通商政策と日本のＦＴＡ戦略を評価せよ。
7	第Ⅱ部・組織の構築と文化 ６．組織構造の革新と進化	○講義―――職能部門、事業部制、マトリックス組織、分社化、カンパニー制、持株会社．大企業組織の通弊．プロジェクト・チームと委員会．負担の公平．個人の能力不足（隠し）．組織改革を阻むもの．
8	７．組織文化とは何か	○この回には、中間試験としてレポート試験を行う可能性がある。行う場合には、６０分程度の筆記試験である。 ○講義―――ホフステッドの４つの尺度．文化研究の問題点．「尺度」における距離の心理依存性． ○討論の課題―――次のアンケート調査を比較して、その意義を考えなさい。 Ａ．以下の質問に、１．気にならない、２．さほど気にならない、３．気になる、の三段階で答えて下さい。 問い１．あなたは自分の配偶者のために、肝臓を３分の１切り取り、移植手術のためのドナーになることにしました。 １．気にならない　２．さほど気にならない　３．気になる 問い２．あなたが中華料理のレストランで注文したものは、３５分たっても出てきません。 １．気にならない　２．さほど気にならない　３．気になる
9	８．国際企業の社会的責任	○講義―――社会的倫理観．環境、児童労働、女性．経済的倫理観．雇用の維持．顧客満足の提供．株主利益の維持．組織的倫理観．「こんにちは」、「さようなら」の挨拶．５分はやい出社、年賀状、忘年会． ○検討資料――[翻訳]マイケル・Ｅ・ポーター「企業戦略―新たな知見―」、（原タイトル・Company Strategy: The New Learning） ○討論の課題―――児童労働を禁止することは、彼らの生活の糧をとりあげることである。この立論の是非を論ぜよ。
10	第Ⅱ部・国際経営管理 ９．生産管理の国際的波及	○講義―――フォードとトヨタ．生産システムの革新．技能の摘出．生産技術者の地位． ○ビデオ―――日本の自動車産業戦後史．
11	10．海外派遣要員と多国籍企業の年金システム	○講義―――「人生設計」とは何か。海外派遣に準備期間がないのはなぜか。４年ローテーションを受け入れる現地従業員の意識は。単身赴任か、家族帯同か。最適な派遣時期はあるのか。多国籍企業の年金システムはどのようなものか。確定拠出年金は誰の得になるのか。日本の厚生年金基金はどうなるのか。 ○討論の課題―――あなたの勤務する会社は、メキシコ、マレーシア、上海に子会社を持っている。あなたは人事部長であり、現地に派遣予定の何人かの営業課長に、スペイン語、マレー語、中国語を勉強させたい。どのような手続きが必要か。また、どのような反対論が予想されるか。

12	11．マーケティングの基礎理論	○講義―――価格決定の理論．需要の価格弾力性．セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング．4つのＰ．顧客満足．営業の位置づけ． ○討論の課題―――企業が自社新製品の価格設定をする際に、どのような方法を採用しているか。例を挙げよ。
13	12．技術開発と特許戦略	○講義―――AIとイノベーション。特許戦略。マーケット・リーダー、マーケット・チャレンジャー、マーケット・フォロワー、マーケット・ニッチャーの技術戦略。日本の飛行機産業。新規発明の発生確率。ポワソン分布と正規分布。 ○討論の課題―――「イノベーションとは顧客の想定を超える商品の提供である」という言明は正しいか。
14	14．国際財務管理と情報管理システム	○講義―――情報管理システムの適用範囲．システム・エンジニアと業務部門．財務分析と企業競争力。移転価格。外国為替とリスクヘッジ。為替先物による利益確保。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＜授業外に行うべき学習活動＞

本授業の準備学習・復習時間は、各200分を標準とします。指定された文献の購読と理解には時間的な余裕をもって取り組みましょう。授業支援システムにアップロードされる文献、授業内で配布される文献は、該当する授業の前に読了してから参加するように心がけましょう。また、授業支援システムにアップロードされる参考文献は図書館などで探し、読むことを心がけましょう。レポートないしプレゼンテーションの課題については、時間をかけた取り組みが高く評価されます。

【テキスト（教科書）】

(1)洞口治夫・行本勢基『入門　経営学』第2版、同友館、2012年。
(2)原田順子・洞口治夫編著(2025)『企業経営の国際展開』放送大学教育振興会。
＜上記二冊を教科書として用います。アマゾンなどで購入できます。＞
(3)ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：Levendary Café: The China Challenge。著者Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号4357．このケースを購入するためには、http://hbr.org/storeのサイトからcaseを選択し、タイトルを記入して検索します。7ドル前後でＰＤＦを購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。登録ユーザーとなるにはhttp://cb.hbsp.harvard.edu/cb/registerのサイトからHigher Education Individualに必要事項を記入してregisterをします。その後、上記のタイトルを入力し、show detailからＰＤＦを購入します。著作権が保護されていますのでコピーは避けて下さい。また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。
(4)Hofstede, Geert. "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?", Organizational Dynamics, Volume 9, Issue 1, Summer 1980, Pages 42-63.
(5)[翻訳]マイケル・Ｅ・ポーター「企業戦略―新たな知見―」、（原タイトル・Company Strategy: The New Learning）大学経営学部創設50周年記念事業、マイケル・Ｅ・ポーター教授特別講演会講演録（講演日、2009年12月9日）、『経営志林』第47巻第1号、2010年4月.
(6)Horaguchi, H. and Toyne, B.[1990] “Setting the Record Straight: Hymer, Internalization Theory and Transaction Cost Economics,” Journal of International Business Studies,vol.21, no.3.
(7)Pitelis, Christos.[2006] “Stephen Herbert Hymer and/on the (theory of the) MNE and inter-national business, International Business Review, vol.15, pp.103-110.

(4)～(7)の文献は、法政大学のサーバーに接続してGoogle Scholarで論文名を検索するとＰＤＦファイルへのリンクから論文をダウンロードできます。

【参考書】

J.D.Daniels, L.H.Radebaugh, and D.P.Sullivan, International Business: Environments and Operations, 11th ed. (Peason Prentice Hall).
C.A.Bartlett, S.Ghoshal, and J. Birkinshaw, Transnational Management: Text, Cases, and Readings in Cross-Border Management, 4th ed., (Irwin, 2003).
C.A.Bartlett and S.Ghoshal, Transnational Management, 3rd ed., (Irwin, 2000).
洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年.
洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年.
フィリップ・コトラー他著『ＡＳＥＡＮマーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マグロウヒル・エデュケーション、2007年.
小池和男・洞口治夫編著『経営学のフィールド・リサーチ―「現場の達人」の実践的調査手法―』日本経済新聞社、2006年.

【成績評価の方法と基準】

授業参加（出席と議論への参加）：28％
宿題ないしプレゼンテーションなどクラスへの貢献：12％
中間試験：20％
期末試験：40％
中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパーないしレポートによって行います。その評価にはペーパー自体の評価だけでなく、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業を通じて、研究とは何か、についての気づきを得ている。リサーチペーパー、修士論文、博士論文、学術雑誌掲載論文には、それぞれの違いがあるが、それを理解するには、それらを読んでみる必要がある。「プリンと茶碗蒸しの違いを言葉だけで説明することは難しい。」味わってみることが理解への早道である。

【学生が準備すべき機器他】

授業内のテストに回答するためのスマホ、Wi-Fiの利用できるパソコン、ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードかつアップロードできるパソコンないしスマホ。

【その他の重要事項】

リサーチペーパー作成のためには、下記の文献を推奨する。
洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント―学部ゼミナール編―』白桃書房、2008年.
特に第６章、第７章、第11章を読み、学部学生の水準を追い越すような修士論文の作成に向けて努力してもらいたい。
研究方法のガイダンスとしては、
小池和男・洞口治夫編著『経営学のフィールド・リサーチ―「現場の達人」の実践的調査手法―』日本経済新聞社、2006年.
を参照されたい。第７章、第６章、第２章が、修士論文作成の手引きとなる。
洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
④『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。

⑤『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
⑥『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
＜論文＞
⑦Organization philosophy: a study of organizational goodness in the age of human and artificial intelligence collaboration, AI &Society (2024). DOI https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6
⑧ "Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds", Review of Behavioral Finance, (2023), Vol. 15 No. 5, pp. 652-671. https://doi.org/10.1108/RBF-09-2021-0176

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class, you will gain an understanding of the challenges facing corporate management in the context of ongoing globalization, as well as the dynamics driving this process. We will explore the mechanisms that promote internationalization and the key driving forces behind it.
【Learning Objectives】
The course will highlight the importance of academic papers as a foundation for practical learning and demonstrate how studying business administration can inform and enhance the practice of corporate management. Additionally, the course aims to develop essential skills for graduate-level study, including English communication, mathematical and basic statistical skills, Japanese reading comprehension, and logical thinking.
【Learning activities outside of classroom】
The recommended time for preparation and review for this class is 200 minutes each. Since this is an intensive half-year course, we suggest that you complete your preparation during the breaks. Preparation will include: (1) purchasing the textbook and familiarizing yourself with its structure; (2) reading literature on the theories related to international business strategy; (3) reviewing the assigned readings and case studies; (4) conducting preliminary research on global strategic alliances; and (5) studying statistics. For review, it is important to go over all lectures after each class and before the exam.
【Grading Criteria /Policy】
Grading Criteria /Policy
Class participation (attendance and participation in discussions): 28
Contribution to class, such as homework or presentations: 12
Mid-term exam: 20
Final exam: 40
Both the mid-term and final exams will be in the form of written exams, term papers, or reports. The evaluation will assess not only the content of the paper itself but also the presentation of the paper.

MAN500F1 – 0127（経営学 / Management 500）

会計学入門

神谷　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では財務会計の基礎と財務諸表分析の基礎について学んでいく。まず財務会計の基礎理論として、会計公準論、概念フレームワーク、会計基準といった体系について理解してもらい、その後に貸借対照表、損益計算書についての全体的な理解の上、各項目についての会計基準、会計処理の検討を行う。さらにそのような知識をベースに財務諸表分析の基本的な部分を検討していきたい。

【到達目標】
　財務会計理論の体系、基本的財務諸表の理解、財務諸表の基本的分析分析について一定の知識を身に付けることを目標とする。受講生が身に付けた知識を自身の経営学研究に役立ててもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
　講義を行い、途中でいくつかの質問を提示して議論を行うという形で進めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会計の法的制度、会計の基本構造	我が国の会計制度、財務会計の基本構造について検討する。
第2回	資産会計（1）現金・預金等と有価証券の会計	現金預金、金銭債権の会計処理、有価証券の評価等について検討する。
第3回	資産会計（2）棚卸資産の会計	棚卸資産会計の基本的論点を検討する。
第4回	資産会計（3）有形固定資産の会計（その1）	有形固定資産の減価償却、リース会計等の基本論点を検討する。
第5回	資産会計（4）有形固定資産会計（その2）	減損会計、資産除去債務等について検討する。
第6回	資産会計（4）無形資産と繰延資産の会計	のれん、法律上の権利としての無形固定資産を検討する。
第7回	負債の会計	負債の意義と分類、引当金、社債の処理、および繰延資産項目について検討する。
第8回	純資産の会計	資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式等についての会社法上の規程、および会計処理について検討する。
第9回	収益と費用の会計	新しい収益認識基準を中心として理論的な側面を検討する。
第10回	財務諸表分析（1）収益性の分析	資本利益率、ROAの分析、資本利益率の分解等について検討する。
第11回	財務諸表分析（2）生産性、安全性の分析、	付加価値の分析、労働生産性の分析、および支払い能力の分析、キャッシュ・フロー計算書の分析等について検討する。
第12回	財務省分析（3）成長性の分析	成長性の指標、1株当たり利益の成長，サステイナブル成長率等について検討する。
第13回	財務諸表分析（4）株式価値評価モデル	各種の株式価値評価モデルについて検討する。
第14回	有価証券報告書を用いた総合的分析	今まで学んだ知識を基に、実際の企業について総合的に分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝『財務会計講義（第25版）』2024年、中央経済社
桜井久勝『財務諸表分析（第9版）』2024年、中央経済社

【参考書】
伊藤邦雄『新・現代会計入門（第6版）』2024年、日経BP日経新聞出版
伊藤邦雄『企業価値経営（第2版）』2023年、日経BP日経新聞出版
佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計論：基本論点編（第18版）』2025年、中央経済社

【成績評価の方法と基準】
　レポートを3回程度提出してもらう事（50％）と、授業中の議論の内容（50％）を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当なので、特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞財務会計論
＜研究テーマ＞我が国会計基準変遷の分析、学校校法人会計基準の検討
＜主要研究業績＞
「私立大学の会計と経営のあり方について」『産業経理』第80巻第3号（2020年）
「私立大学会計の本質と課題」菊谷正人編『会計学と租税法の現状と課題』（税務経理協会、2019年）
（分担執筆）佐藤信彦他編『スタンダードテキスト財務会計 I 基本論点編(第18版)』（中央経済社、2025年）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn basic knowledges of financial accounting and financial statement analysis. We will study the basic theory of financial accounting and the accounting standards related to each item of the balance sheet and income statement. Next, based on the understanding of the basic parts of financial accounting, we will learn the basic methods of financial statement analysis. Before/after each class meeting,students will be expected to spend two hours to understand our course contents. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term reports(50%),in class contribution(50%).

MAN500F1 – 0128（経営学 / Management 500）

財務会計論Ⅰ

川島　健司

備考（履修条件等）：**学部主催「財務会計論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、財務会計の実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、各項目について詳細に解説することには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、財務会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
②日本の会計基準、およびIFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面方式とオンラインによるオンデマンド方式を併用する。教室での対面授業では、必ず隣を1座席空けて着席すること。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。本授業の題材として扱う会社の創業者が執筆された書籍を受講前に一読することをお勧めする（吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話ー困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社, 2024年）。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、時価簿価比率(PBR)、経済的付加価値(EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
第2回	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。
第3回	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
第4回	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
第5回	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
第6回	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
第7回	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
第8回	利益計算の会計	損益法と財産法の特性を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
第9回	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
第10回	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
第11回	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
第12回	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
第13回	CFOとの対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
第14回	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業のIR資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年.
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】
1 吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話ー困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社, 2024年.
2 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2025年4月現在の最新版.
3 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2025年4月現在の最新版.
4 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993年.
5 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第17版, 中央経済社, 2024年.同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第17版, 中央経済社, 2024年.
6 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版, 白桃書房, 2010年.
7 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』（新版）中央経済社, 2022年.
8 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
9 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の5点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。
①対面授業の出席、授業動画の視聴状況（10％）
②各回の確認テスト（20％）
③各回の課題作文（20％）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
④指定教科書の書き込み状況（20％）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
⑤期末試験（30％）
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

【その他の重要事項】
・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC,大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】
< Course Description >
This course provides an overview of the financial accounting system, its theoretical foundations, and practical applications. To effectively learn financial accounting, it is essential to understand both how to prepare and how to analyze financial statements. This course takes a dual perspective — both that of financial statement preparers and users — to develop a well-rounded understanding of accounting practices.
For the preparation of financial statements, we will cover fundamental accounting principles and standards. Topics include the objectives of financial accounting, the function of double-entry bookkeeping, profit measurement concepts, accounting regulations, asset valuation principles, and the qualitative characteristics of accounting information. We will also discuss key financial statement elements such as assets, liabilities, income, and expenses.
For financial statement analysis, we will explore alternative accounting methods, the motivations behind different accounting choices, and how to interpret published financial data. Additionally, we will introduce key financial indicators and analytical techniques to assess a company's financial health using real-world financial statements.
< Course Objectives >
By the end of this course, students will:
- Develop the ability to analyze and explain how transactions should be accounted for using appropriate accounting terminology and concepts.
- Gain an understanding of Japanese accounting standards and the fundamental principles needed to interpret IFRS (International Financial Reporting Standards).
- Learn to recognize the intent behind financial statement figures from the perspective of preparers.
- Acquire the skills to assess a company's actual financial position using its financial statements.
< Study Expectations >
Students should plan to spend approximately 2 hours on preparation and review for each class session.
< Grading Criteria >
Grades will be based on the following components (percentages indicate weight):
- Class Participation (10%) – Attendance at in-person sessions and viewing of lecture videos.
- Quizzes (20%) – Short confirmation tests for each class.
- Essay Assignments (20%) – After each class, students will submit questions and reflections via Google Forms. Responses will be anonymized and shared with the class.
- Textbook Notes Submission (20%) – Students will submit images of their handwritten notes and share them with peers.
- Final Exam (30%) – A comprehensive assessment covering all course materials.

MAN500F1 – 0129（経営学 / Management 500）

財務会計論Ⅱ

川島　健司

備考（履修条件等）：**学部主催「財務会計論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを目指すが、この財務会計論Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面方式とオンラインによるオンデマンド方式を併用する。教室での対面授業では、必ず隣を1座席空けて着席すること。

秋学期の全体を「財務諸表分析」（秋学期・第1回～第7回）と「会社の価値分析」（秋学期・第8回～第14回）の2つのパートに分割する。会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。本授業の題材として扱う会社の創業者が執筆された書籍を受講前に一読することをお勧めする（吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話ー困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社, 2024年）。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
第2回	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
第3回	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第4回	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。
第5回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを評価する。
第6回	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
第7回	起業ストーリーⅣ：ポストIPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポストIPO）に関するケースから理解を深める。
第8回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。
第9回	DCFモデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。
第10回	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。
第11回	価値分析の実践	実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。
第12回	財務分析・価値分析の歴史	財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。
第13回	経営者との対話実践	実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する
第14回	まとめ	本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書やIR資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年.
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

・吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話ー困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社, 2024年.
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2025年9月現在の最新版.

・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社, 2025年9月現在の最新版.
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005年.
・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版, ネットスクール出版, 2023年.
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第12版, 白桃書房, 2014年.
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫, 2016年.
・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス, 2019年.

【成績評価の方法と基準】
以下の5点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。
①対面授業の出席、授業動画の視聴状況（10％）
②各回の確認テスト（20％）
③各回の課題作文（20％）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
④指定教科書の書き込み状況（20％）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
⑤期末試験（30％）
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

【その他の重要事項】
・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC,大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】
< Course Description >
This course provides an overview of the financial accounting system, its theoretical foundations, and practical applications. To effectively learn financial accounting, it is essential to understand both how to prepare and how to analyze financial statements. This course takes a dual perspective — both that of financial statement preparers and users — to develop a well-rounded understanding of accounting practices.
For the preparation of financial statements, we will cover fundamental accounting principles and standards. Topics include the objectives of financial accounting, the function of double-entry bookkeeping, profit measurement concepts, accounting regulations, asset valuation principles, and the qualitative characteristics of accounting information. We will also discuss key financial statement elements such as assets, liabilities, income, and expenses.
For financial statement analysis, we will explore alternative accounting methods, the motivations behind different accounting choices, and how to interpret published financial data. Additionally, we will introduce key financial indicators and analytical techniques to assess a company's financial health using real-world financial statements.
< Course Objectives >
By the end of this course, students will:
- Develop the ability to analyze and explain how transactions should be accounted for using appropriate accounting terminology and concepts.
- Gain an understanding of Japanese accounting standards and the fundamental principles needed to interpret IFRS (International Financial Reporting Standards).
- Learn to recognize the intent behind financial statement figures from the perspective of preparers.
- Acquire the skills to assess a company's actual financial position using its financial statements.
< Study Expectations >
Students should plan to spend approximately 2 hours on preparation and review for each class session.
< Grading Criteria >
Grades will be based on the following components (percentages indicate weight):
- Class Participation (10%) – Attendance at in-person sessions and viewing of lecture videos.
- Quizzes (20%) – Short confirmation tests for each class.
- Essay Assignments (20%) – After each class, students will submit questions and reflections via Google Forms. Responses will be anonymized and shared with the class.
- Textbook Notes Submission (20%) – Students will submit images of their handwritten notes and share them with peers.
- Final Exam (30%) – A comprehensive assessment covering all course materials.

MAN500F1 – 0130（経営学 / Management 500）

経営分析論 I

福多　裕志

備考（履修条件等）：**学部主催「経営分析論 I 」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】
本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析 I では、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本的な枠組み（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標 – 流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標 – 自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標 – 総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標 – ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固変分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析 – 短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析 – 短期利益計画への応用：その2	エクセル上での損益分岐点分析の展開
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第2版』東洋経済新報社, 2006年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
・期末筆記試験60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。
関連科目：管理会計論 I / II、経営管理論 I / II、基礎統計学 I / II

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN500F1 – 0131（経営学 / Management 500）

経営分析論Ⅱ

福多　裕志

備考（履修条件等）：**学部主催「経営分析論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】
本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（1）株価関連指標、（2）総合評価の方法、（3）リスクおよび不確実性の下での意思決定モデル、（4）創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第2版』東洋経済新報社, 2006年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
・期末筆記試験60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis Ⅱ' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN500F1 – 0132（経営学 / Management 500）

財務諸表分析

髙橋　美穂子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業が公表する財務諸表を用いて、収益性・安全性・成長性の側面から企業を分析する方法を学びます。授業では、はじめに財務諸表の見方を説明し、続いて企業特性を把握するための各種の財務比率の内容とその計算方法を解説します。さらに、主要な財務比率が株主価値にどのような影響を与えるのか、すなわち財務比率と株主価値の理論的関係についての理解を促すため、株主価値評価モデルの基礎理論を説明します。これにより、学生が財務諸表を用いた企業分析の方法を理解し、実践できるようになることを目的とします。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次の３つです。
１．企業活動と関連付けて財務諸表が理解できる
２．財務比率の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
３．財務比率と株主価値の理論的関係が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・授業は対面で実施します
・授業に関する連絡は学習支援システムのお知らせで行います。履修希望者は初回授業開始前に確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方，財務諸表の役割と仕組みを理解する
第2回	財務諸表の入手方法	財務諸表の入手方法、決算発表の仕組みを理解する
第3回	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方を理解する
第4回	損益計算書の見方	損益計算書の見方を理解する
第5回	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方を理解する
第6回	会計方針の注記	注記事項の種類と主要な注記事項の内容を理解する
第7回	財務諸表分析の視点と手法・収益性の分析①	財務諸表分析の視点と手法を理解する。収益性を分析するための指標や比率を理解する
第8回	収益性の分析②	収益性を分析するための指標や比率を理解する
第9回	安全性の分析	安全性を分析するための指標や比率を理解する
第10回	成長性の分析	成長性を分析するための指標や比率を理解する
第11回	株式価値評価モデル①	株式価値評価の基礎理論を理解する
第12回	株式価値評価モデル②	株式価値評価の基礎理論を理解する
第13回	レポートの個人発表①	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック
第14回	レポートの個人発表②	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に該当する教科書の章を読んでください。授業の後は理解を定着させるために授業内容を復習してください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著，『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.

【参考書】
指定しない。受講生からの質問に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート内容の発表（50％）と提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
レポートの作成および報告を行う際は，WordやPowerPointなどを使用してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
Akio Hoshi, Mioko Takahashi, Clémence Garcia (2025). Shareholders' Equity and Dividend Regulation in Japan: How Can Financial Reporting and Capital Maintenance Be Reconciled? Accounting, Economics and Law: A Convivium, 15(s1), 349-383.
福井義高・髙橋美穂子（2023）「平均回帰-経済的実質なき統計的必然」『企業会計』第75号第1巻，97-103頁.
髙橋美穂子（2021）「会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－」高田敏文編著『会計・監査研究の展開』同文舘出版，57-71頁.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, students will learn how to analyze business firms using financial statements. After learning how to read financial statements, students will learn financial ratios to understand the underlying corporate characteristics. In addition, the basic stock valuation models will be explained in order to promote understanding of the theoretical relationship between financial ratios and shareholder value.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students are expected to do the following:
1.Understand financial statements in relation to corporate activities
2.Understand and utilize financial ratios
3. To understand how financial ratios relate to shareholder value
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to read the relevant chapter of the textbook before class and review the material afterward. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.
（Grading Criteria）
Grades will be based on presentation (50%) and submission of a term paper (50%).

ECN500F1 – 0163（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済論Ⅰ

宮澤　信二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（2）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（4）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（5）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。春学期のミクロ経済論Ⅰでは、市場の働きとその背後にある消費者の生産者の意思決定の基礎について扱う。
講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけ与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論する。
第2回	需要・供給と市場均衡(1)	教科書4章に基づいて，需要と供給の振る舞いおよび取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第3回	需要・供給と市場均衡(2)	教科書4章の内容を復習し，問題演習を行います。
第4回	消費者の理論(1)	教科書5章に基づいて，消費者の意思決定に関する理論の基礎について学びます。
第5回	消費者の理論(2)	教科書5章の内容を復習し，問題演習を行います。
第6回	生産者の理論(1)	教科書6章に基づいて，企業による生産に関わる費用と企業の生産量決定について学びます。
第7回	生産者の理論(2)	教科書6章の内容を復習し，問題演習を行います。
第8回	市場の効率性	教科書7章に基づいて，市場の効率性について学びます。
第9回	貿易の理論	教科書8章に基づいて，貿易の利益について学びます。
第10回	外部性と公共財	教科書9章に基づいて，外部性や公共財による市場の失敗について学びます。
第11回	政府の役割	教科書10章に基づいて，税と規制の影響と政府の役割について学びます。
第12回	復習と問題演習	教科書7章から10章の内容を復習し，問題演習を行います。
第13回	生産要素の市場	教科書11章に基づいて，生産要素の市場における需要・供給と均衡について学び，問題演習を行います。
第14回	期末テスト	春学期に学習した内容に関するテストを実施し，その後，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを使用する予定である。ただし，受講者が求める場合には，もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本監訳）『ミクロ経済学』東洋経済新報社，2020年，3,800円+税

【参考書】
［1］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013年
［2］マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』東洋経済新報社　2025年
［3］芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣，2009年
［4］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［3］と［4］は上記教科書よりも難しいテキストで，易しい順になっています。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献）30％，宿題・問題演習30％，期末テスト40％

【学生の意見等からの気づき】
これまでにこの科目を担当した経験を踏まえて，ミクロ経済学を初めて勉強する学生向けの内容で実施することを想定しています。ただし，受講者の要望によっては，より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので，これを使うために必要な情報端末（PC，タブレットなど）と通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] “Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance” 経営志林 第55巻第2号，49-58頁，2018年.
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第53巻第4号，25-52頁，2017年.
[3]「EU国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[4]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168頁，2013.
[5] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, pp434-453, 2012.
[6]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第62巻第2号，55-79頁，2011年.

[7]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」（藤澤治奈氏との共著），新世代法政策学研究　第10号，351-369頁（担当部分），2011年．（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[8]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第24号，229-257頁，2009年．
[9] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, pp1-8, 2008.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course will provide an introduction to the basics of microeconomics theory, covering market function, consumer behavior, and producer behavior.
（Learning Objectives）By the end of the course, students should laearn individuals' decision-makings and those interactions, and acquire the ability to analyze economic phenomena around them.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）：Final grade will be calculated according to the following process; Homework and quizzes (30%), Term-end examination (40%), and in-class contribution.

ECN500F1 – 0164（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済論Ⅱ

宮澤　信二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（2）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（4）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（5）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。春学期のミクロ経済論Ⅱでは、市場の効率性と市場の失敗の仕組みについて扱う。講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけ与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済論Ⅰで学習した内容を確認したのちに、この授業で扱う内容について概観します。
第2回	独占（1）	教科書12章に基づいて，独占企業の生産量決定について学びます。
第3回	独占（2）	教科書12章の内容の続きを学習し，問題演習を行います。
第4回	ゲーム理論（1）	教科書13章に基づいて，戦略的状況における意思決定の理論であるゲーム理論を学習します。
第5回	ゲーム理論（2）	教科書13章の内容の続きを学習し，問題演習を行います。
第6回	寡占と独占的競争（1）	教科書14章に基づき，企業が2社以上で少数の場合や製品に違いがある場合の企業行動と競争結果について学びます。
第7回	寡占と独占的競争（2）	教科書14章の内容の続きを学習し，問題演習を行います。
第8回	時間とリスク	教科書15章に基づいて，時間やリスクを考慮した場合の意思決定について学びます。
第9回	情報の経済学	教科書16章に基づいて，情報の非対称性がある場合に生じる諸問題について学びます。
第10回	復習と問題演習（1）	教科書15・16章の内容を復習し，問題演習を行います。
第11回	オークションと交渉	教科書17章に基づいて，オークションと交渉に関する理論の基礎を学びます。
第12回	社会経済学	教科書18章に基づいて，社会における人々の行動の特徴について学びます。
第13回	復習と問題演習（2）	教科書17・18章の内容を復習し，問題演習を行います。
第14回	期末テスト	学習した内容に関するテストを実施し，その後，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを使用する予定である。ただし，受講者が求める場合には，もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本監訳）『ミクロ経済学』東洋経済新報社，2020年，3,800円+税

【参考書】
［1］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013年
［2］マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』東洋経済新報社　2025年
［3］芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣，2009年
［4］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［3］と［4］は上記教科書よりも難しいテキストで，易しい順になっています。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献）30％，宿題・問題演習30％，期末テスト40％

【学生の意見等からの気づき】
これまでにこの科目を担当した経験を踏まえて，ミクロ経済学を初めて勉強する学生向けの内容で実施することを想定しています。ただし，受講者の要望によっては，より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので，これを使うために必要な情報端末（PC，タブレットなど）と通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
・「ミクロ経済論Ⅰ」を履修済みであること，あるいは同等の内容を学習済みであることを前提として授業を進める予定です。
・学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] “Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance” 経営志林 第55巻第2号，49-58頁，2018年.
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第53巻第4号，25-52頁，2017年.
[3]「EU国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[4]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168頁，2013.
[5] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, pp434-453, 2012.
[6]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第62巻第2号，55-79頁，2011年.

[7]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」（藤澤治奈氏との共著），新世代法政策学研究　第10号，351-369頁（担当部分），2011年．（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[8]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第24号，229-257頁，2009年．
[9] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, pp1-8, 2008.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course will provide an introduction to the basics of microeconomics theory, covering market function, consumer behavior, and producer behavior.
（Learning Objectives）By the end of the course, students should laearn individuals' decision-makings and those interactions, and acquire the ability to analyze economic phenomena around them.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）：Final grade will be calculated according to the following process; Homework and quizzes (30%), Term-end examination (40%), and in-class contribution.

ECN500F1 – 0125（経済学 / Economics 500）

組織経済学

奥西　好夫

備考（履修条件等）：**学部主催「組織経済学」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1回、課題提出を行い、それらと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
· Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
· Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
· Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.
· The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

ECN500F1 – 0133（経済学 / Economics 500）

ファイナンス入門

芝田　隆志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，金融資産への投資に関する重要な概念，債券投資や株式投資についての基礎的事項に関して講義します．具体的には，「時間価値」「名目金利」「実行金利」「複利効果」などの基本概念を学び，債券投資において重要な「デュレーション」，株式投資において重要な「割引配当モデル」について学習します．

【到達目標】
本講義での到達目標は，経済主体が資産形成を行う際における投資に関する知識・知見を習得することにあります．そのためには，次の点を理解する必要があります．
1. 貨幣の時間価値，将来価値，現在価値について理解する．
2. 複利効果とそのメカニズムについて理解する．
3. デュレーションやイールドカーブについての基礎的知識を習得する．
4. 株式についての基礎的な知識を習得する．
5. 効率的市場仮説についての基礎的な知識を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法について説明
第2回	貨幣の時間価値	利子率，将来価値，現在価値
第3回	投資の意思決定	内部収益率
第4回	さまざまな複利期間に関する金利計算	月利複利下での現在価値と将来価値
第5回	金利計算の実例	住宅ローンや投資信託における利回り効果
第6回	債券の基礎知識(1)	債券市場，債券の種類
第7回	債券の基礎知識(2)	債券価格とその利回り計算
第8回	債券の基礎知識(3)	債券投資のリスク
第9回	債券の基礎知識(4)	デュレーション
第10回	債券の基礎知識(5)	コンベクシティ
第11回	金利の期間構造	イールドカーブ
第12回	株式価値評価(1)	割引配当モデル
第13回	株式価値評価(2)	リアルオプション
第14回	効率的市場仮説	効率的市場仮説に沿って情報と証券 価格について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸，2019, 入門・証券投資論，有斐閣

【参考書】
参考書については，講義中に適宜お伝えします．

【成績評価の方法と基準】
期末試験80%，小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ファイナンス
＜研究テーマ＞コーポレートファイナンス動学モデル
＜主要研究業績＞
Journal of Corporate Finance, Journal of Banking and Finance に論文を発表

【Outline (in English)】
（Course outline）Introduction to Finance
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

ECN500F1 – 0134（経済学 / Economics 500）

ポートフォリオ理論入門

芝田　隆志

備考（履修条件等）：**学部主催「ポートフォリオ理論入門」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、平均分散分析と呼ばれるポートフォリオ理論の基礎的事項について講義します。

いま、皆様の日常生活での意思決定を考えると、失敗をしたくないが、自分の満足度を出来るだけ大きくしたいという状況に直面していませんか。この現象は、リスクとリターンが、互いに衝突しあっている状態で、いわゆるハイリスク・ハイリターン現象と呼ばれます。

実社会において、私たち経済主体が金融市場にて資金運用を試みるならば、経済主体はその運用においてハイリスク・ハイリターン現象に直面します。そこで、本講義では、そのハイリスク・ハイリターンの状況下での経済主体の最適化行動について考えます。具体的には、資金運用の際におけるリターンをある一定水準以上を確保する仮定の下、そのリスクを最小化する方法について、数学を用いて理論的に導出します。また、その経済主体の最適行動の下で、市場均衡について考察し、資金運用の際に成立するリスクとリターンの関係について学習します。

【到達目標】
本講義の到達目標は、最適ポートフォリオ理論や資本資産評価モデルを用いて、資金を運用する場合におけるリスクとリターンの相互作用、またそのメカニズムについて理解することにあります。そのためには、次の点を理解する必要があります。
1．ポートフォリオの収益率、その期待値、標準偏差、共分散を計算できる。
2．ポートフォリオの分散減少効果、そのメカニズムについて理解する。
3．ファイナンスにおける完全競争市場の条件とその意味について理解する。
4．CAPMを用いて、リスク資産のリスク量に応じた期待収益率を計算できる。
5．実際の個別株価データを用いて、その株価に対する市場評価について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式です。授業時間中に演習を取り入れます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	収益率の期待値，分散，標準偏差（1）	収益率，確率変数を説明した後，期待値，分散，標準偏差について学習します
第2回	収益率の期待値，分散，標準偏差（2）	引き続き，期待値，分散，標準偏差，それらの性質について学習します
第3回	共分散	共分散，その性質について学習します
第4回	相関係数	相関係数，その性質について学習します
第5回	ポートフォリオ理論（1）	資産分散効果，その理論の仮定について学習します
第6回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率，分散，標準偏差について学習します
第7回	ポートフォリオ理論（3）	安全資産と危険資産について，また安全資産が存在しない場合の投資機会集合について学習します
第8回	ポートフォリオ理論（4）	引き続き，安全資産が存在しない場合の投資機会集合について学習します
第9回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します
第10回	ポートフォリオ理論（6）	安全資産が存在する場合の投資機会集合について学習します
第11回	ポートフォリオ理論（7）	引き続き，安全資産が存在する場合の投資機会集合について学習します
第12回	ポートフォリオ理論（8）	安全資産が存在する場合の最適ポートフォリオについて学習します
第13回	資本資産評価モデル（1）	資本資産評価モデルについて学習します
第14回	資本資産評価モデル（2）	引き続き，資本資産評価モデルについて学習します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義スライドについて予習と復習

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸、2019、入門・証券投資論、有斐閣

【参考書】
参考書について、適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
学期末試験が70％、講義で実施する演習および講義参加が30％

【学生の意見等からの気づき】
図解にて視覚的に理解できるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
EXCEL演習を取り入れます

【関連科目】
ファイナンス入門，投資入門，コーポレートファイナンス入門I/II，デリバティブ入門I/II，Excelで学ぶファイナンス理論I/II

【Outline (in English)】
The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of portfolio theory called the mean-variance analysis. The goal of this course is to understand the interaction between risk and return when managing funds using optimal portfolio theory and the capital asset pricing model (CAPM). Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (70%) in class contribution (30%).

ECN500F1 – 0135（経済学 / Economics 500）

デリバティブ入門Ⅰ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**学部主催「デリバティブ入門Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。
さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値
第13回	先渡取引（3）	金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、ファイナンス基礎、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス

＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 – 0136（経済学 / Economics 500）

デリバティブ入門Ⅱ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**学部主催「デリバティブ入門Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。
さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。
本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
（4）オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Iの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件
第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」から ダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、ファイナンス基礎、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 – 0190（経済学 / Economics 500）

コーポレートファイナンス入門Ⅰ

金　瑢晋

備考（履修条件等）：**学部主催「コーポレートファイナンス入門Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待を取り組む必要があります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】
・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになるます。
・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
・資金調達手段の選択について理解が深まります。
・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
・財務リスクについて理解が深まります。
・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
第2回	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
第3回	キャッシュフローの時間価値1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
第4回	キャッシュフローの時間価値2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、割引現在価値計算の応用、表計算ソフトを用いた計算例
第5回	債券と株式の評価	債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
第6回	投資の意思決定1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
第7回	投資の意思決定2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
第8回	投資の意思決定2	リアルオプション価値の考慮、標準的NPV法との比較
第9回	証券のリターンとリスク1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
第10回	証券のリターンとリスク2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
第11回	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
第12回	企業価値評価1	DCF法（WACC法）
第13回	企業価値評価2	APV法、FTE法、RI法
第14回	企業価値評価3	EVA、MVA、諸企業価値評価手法の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著 (著)『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、クイズ20％

【学生の意見等からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】
授業では、初歩的な計算を行いますが、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.
By the end of the course, students should be able to:
A. understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
B. understand the relation between management and investors.
C. understand the difference between financing choices.
D. understand how to estimate the cost of capital.
E. understand how to value the firm.
F understnad how to pay out profits to shareholders.

G. understand how to cope with financial risks.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN500F1 – 0191（経済学 / Economics 500）

コーポレートファイナンス入門Ⅱ

金　瑢晋

備考（履修条件等）：**学部主催「コーポレートファイナンス入門Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待を取り組む必要があります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】
・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになるます。
・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
・資金調達手段の選択について理解が深まります。
・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
・財務リスクについて理解が深まります。
・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本構成理論1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MMの命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
第2回	資本構成理論2	節税効果、修正MMの命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、トレードオフ理論
第3回	資本構成理論3	資金調達意思決定とエージェンシ費用、ペッキングオーダー仮説、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
第4回	ペイアウト政策1	内部留保vs.ペイアウト 配当vs.自社株買い
第5回	ペイアウト政策2	ペイアウト政策に関するMMの無関連命題
第6回	ペイアウト政策3	現金保有のメリット・デメリット 最適ペイアウト政策
第7回	エクイティファイナンス1	ベンチャーファイナンス、新規株式公開
第8回	エクイティファイナンス2	公募増資、 エクイティファイナンスの直接費用と間接費用
第9回	デットファイナンス	社債発行vs.借入 デットファイナンスの費用
第10回	合併・買収	M&Aの経済的メリット、M&Aの意思決定
第11回	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスの仕組み、株主と利害関係者
第12回	財務リスク管理	財務リスクの管理、ヘッジ
第13回	国際財務管理	海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際資金調達
第14回	総括	補足と纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著 (著)『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、クイズ20％

【学生の意見等からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】
授業では、初歩的な計算を行いますが、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.
By the end of the course, students should be able to:
A. understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
B. understand the relation between management and investors.
C. understand the difference between financing choices.
D. understand how to estimate the cost of capital.
E. understand how to value the firm.
F understnad how to pay out profits to shareholders.
G. understand how to cope with financial risks.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN500F1 – 0137（経済学 / Economics 500）

国際経済学Ⅰ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：**学部主催「国際経済論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化の在り方が大きく変化し、国際取引の構造やその取引を支えるルール・枠組みも大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間でどのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われてきたのかを考察することで、グローバル化とは何か、グローバル化は私たちの暮らしや社会をどう変えるのか、理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の概要とルール
2	日本の貿易の特徴	データで学ぶ日本の貿易
3	貿易と市場1	市場メカニズム（需要・供給分析）
4	貿易と市場2	市場の資源配分（余剰分析）
5	貿易と市場3	貿易による利益と市場競争
6	技術の違いと貿易パターン1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
7	技術の違いと貿易パターン2	比較優位理論
8	技術の違いと貿易パターン3	比較優位と貿易
9	新しい貿易理論と日本の貿易1	消費の多様性と貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易2	生産工程の細分化と貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易3	企業の技術力の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動1	日本の外国人労働
13	生産要素の国際間移動2	生産要素の国際移動の理論
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんには、別途、問題演習とそのディスカッションの機会（Zoom）を設ける場合があります。詳細は、第1回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか1冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第1回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
阿部顕三・寳多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」　第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート：40％
期末テスト：60％
宿題・レポート・期末テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpointやそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。また、オフィスアワーはZoomで行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、併せて履修することを勧めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究

＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40％
Final Examination: 60%

ECN500F1 – 0138（経済学 / Economics 500）

国際経済学Ⅱ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：**学部主催「国際経済論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化の在り方が大きく変化し、国際取引の構造やその取引を支えるルール・枠組みも大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間でどのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われてきたのかを考察することで、グローバル化とは何か、グローバル化は私たちの暮らしや社会をどう変えるのか、理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つ、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策1	関税政策の理論
4	関税政策2	日本と外国の関税政策の実態
5	非関税障壁1	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁2	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	国内不完全競争政策1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	国内不完全競争政策2	国内不完全競争政策と関税政策の比較
9	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
10	ダンピング1	ダンピングの不当性
11	ダンピング2	日米関係におけるアンチダンピング政策
12	国際経済システム1	多角間交渉（GATT/WTO）
13	国際経済システム2	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP)
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんとは、別途、問題演習や問題の解き方に関するディスカッション（Zoom）の機会を設ける場合があります。詳細は、第1回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか1冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第1回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
阿部顕三・寳多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」　第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート：40％
期末テスト：60％
宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpointやそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。また、オフィスアワーはZoomで行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

【担当】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究
＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday.　Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40 %
Final Examination: 60%

ECN500F1 – 0169（経済学 / Economics 500）

国際金融論特論 I

羅　鵬飛

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、国際金融の理論と実証分析を体系的に学ぶ。国際金融市場の構造、国際資本移動、為替レートの決定要因、金融政策と資本フローの関係、国際金融システムの安定性など、主要なトピックを扱う。特に、開放経済マクロ経済学、最新の国際金融理論、グローバルリスクが金融市場に及ぼす影響について理解を深める。
理論的枠組みの習得と実証分析を通じて、政策的な含意を考察し、国際金融市場の動向を分析する能力を養う。対象は大学院生で、経済学・金融論の基礎知識を前提とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は、大学院レベルの国際金融の理論的枠組みを理解し、実証分析の手法を習得するとともに、政策的な視点を養うことである。具体的には、開放経済マクロ経済学や為替レート理論、国際資本移動のメカニズムを学び、国際金融市場に関するデータを用いた実証分析を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は対面形式を基本とし、パワーポイントを用いて進める。資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。
受講者の人数や理解度に応じて、内容や進行方法を適宜調整することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の紹介、講義の進め方、国際金融の基本概念
第2回	国際収支	国際収支表の構成要素と対外資産・負債
第3回	外国為替相場	名目・実質為替レート、外国為替市場の構造
第4回	購買力平価	一物一価、絶対・相対購買力平価
第5回	実証分析１	購買力平価の実証分析による理論の検証
第6回	金利平価	カバー付き・カバーなし金利平価
第7回	実証分析２	金利平価の実証分析による理論の検証
第8回	前半の総括	前半の総括
第9回	伸縮価格マネタリー・アプローチ	モデルの概要と理論的特性
第10回	硬直価格マネタリー・アプローチ	モデルの概要と理論的特性
第11回	ポートフォリオアプローチ	モデルの概要と理論的特性
第12回	実証分析３	マネタリー・アプローチとポートフォリオ・アプローチの実証分析
第13回	為替相場制度	金本位制、ブレトンウッズ体制、現行の様々な為替相場制度
第14回	期末総括	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は担当教員が作成したもの（レジュメ、資料等）を授業システムに配付する。使用テキストは初回授業に詳細を説明する。
テキスト：小川英治・川崎健太郎、『MBAのための国際金融論』、有斐閣、2007。図書館蔵書。

【参考書】
M.Melvin and S.C.Norrbin, International Money and Finance, 9th Edition, Elsevier, 2017.
佐々木百合、『国際金融論入門』、新世社、2017年
清水順子・大野早苗・松原・川崎健太郎、『徹底解説　国際金融（第2版）』日本評論社、2024年

【成績評価の方法と基準】
レポートに加え、授業中の積極的な参加と貢献度を評価し、総合的に判断する。評価配分はレポート50％、授業中の参加・貢献度50％とする。
受講者が多い場合、評価方法を期末試験またはグループ研究報告に変更する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融
＜研究テーマ＞
新興市場国の為替レート決定、国際資本移動、グローバルリスク
＜主要研究業績＞
Macroeconomic effects of global policy and financial risks, International Journal of Finance &Economics, 29(1),177-205.（共著）
『ポストコロナの世界経済: グローバルリスクの構造変化 』、東京大学出版会、2023.　（共著）
『グローバルリスクと世界経済 : 政策不確実性による危機とリスク管理 』、東京大学出版会、2021.（共著）
Diversifying reference currency basket and decreasing degree of flexibility in exchange policy of China,Japanese Journal of Monetary and Financial Economics, 6(1),1-18,2018　（単著）

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course systematically examines the theories and empirical analysis of international finance. Key topics include the structure of international financial markets, international capital flows, exchange rate determinants, the relationship between monetary policy and capital flows, and the stability of the international financial system. Special emphasis is placed on open economy macroeconomics, recent international finance theories, and the impact of global risks on financial markets.
The course integrates theoretical frameworks with empirical analysis using real-world data to derive policy implications. Through this approach, students will develop the ability to analyze international financial market trends and evaluate economic policies. Designed for graduate students, this course requires prior knowledge of economics and finance.
(Learning Objectives)
This course aims to deepen students' understanding of international finance at the graduate level, equip them with empirical analysis techniques, and develop a policy-oriented perspective. Students will study open economy macroeconomics, exchange rate theories, and the mechanisms of international capital flows while gaining the ability to conduct empirical analyses using international financial market data.
(Learning Activities Outside the Classroom)
Students are expected to review lecture materials before each class and revisit the previous session's content. The estimated time for preparation and review is approximately two hours each.

(Grading Criteria /Policy)
Evaluation consists of a report (50%) and class participation (50%). If enrollment is high, assessment may be adjusted to a final exam or group research presentation.

ECN500F1 – 0170（経済学 / Economics 500）

国際金融論特論Ⅱ

羅　鵬飛

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、国際金融の理論と実証分析を体系的に学ぶ。国際金融市場の構造、国際資本移動、為替レートの決定要因、金融政策と資本フローの関係、国際金融システムの安定性など、主要なトピックを扱う。特に、開放経済マクロ経済学、最新の国際金融理論、グローバルリスクが金融市場に及ぼす影響について理解を深める。
理論的枠組みの習得と実証分析を通じて、政策的な含意を考察し、国際金融市場の動向を分析する能力を養う。対象は大学院生で、経済学・金融論の基礎知識を前提とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は、大学院レベルの国際金融の理論的枠組みを理解し、実証分析の手法を習得するとともに、政策的な視点を養うことである。具体的には、開放経済マクロ経済学や為替レート理論、国際資本移動のメカニズムを学び、国際金融市場に関するデータを用いた実証分析を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は対面形式を基本とし、パワーポイントを用いて進める。資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。
受講者の人数や理解度に応じて、内容や進行方法を適宜調整することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の紹介、講義の進め方、国際金融の基本概念
第2回	開放マクロ経済学（1）：基本モデル	IS-LMモデル、マンデル・フレミング・モデル
第3回	国際マクロ経済学（2）：変動相場制における経済政策効果	開放マクロ経済モデルを用いて変動相場制における財政政策・金融政策効果の説明
第4回	国際マクロ経済学（3）：固定相場制における経済政策効果	開放マクロ経済モデルを用いて固定相場制における財政政策・金融政策効果の説明
第5回	為替介入とその有効性	為替介入の目的、方法、効果
第6回	人民元	通貨バスケット相場制、人民元為替相場制度、Frankel-Weiモデルによる実証分析
第7回	前半の総括	前半の総括
第8回	通貨危機	通貨危機のメカニズム、経済危機の対応、IMF体制、国際協調の仕組み
第9回	通貨統合と共通通貨圏	通貨統合の便益と費用、共通通貨圏理論、ユーロ圏
第10回	決済通貨と為替パススルー	貿易決済の通貨選択、為替パススルーを解説
第11回	国際金融の最新動向	暗号通貨と国際金融、ビットコイン、ステーブルコイン、中央銀行デジタル通貨 (CBDC) の台頭
第12回	研究報告１	学生研究報告、教員からの評価、討論
第13回	研究報告２	学生研究報告、教員からの評価、討論
第14回	研究報告３	学生研究報告、教員からの評価、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は担当教員が作成したもの（レジュメ、資料等）を授業システムに配付する。使用テキストは初回授業に詳細を説明する。
テキスト：小川英治・川崎健太郎、『MBAのための国際金融論』、有斐閣、2007。図書館蔵書。

【参考書】
M.Melvin and S.C.Norrbin, International Money and Finance, 9th Edition, Elsevier, 2017.
佐々木百合、『国際金融論入門』、新世社、2017年
清水順子・大野早苗・松原・川崎健太郎、『徹底解説　国際金融（第2版）』日本評論社、2024年

【成績評価の方法と基準】
レポートに加え、授業中の積極的な参加と貢献度を評価し、総合的に判断する。評価配分はレポート50％、授業中の参加・貢献度50％とする。
受講者が多い場合、評価方法を期末試験またはグループ研究報告に変更する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融
＜研究テーマ＞
新興市場国の為替レート決定、国際資本移動、グローバルリスク
＜主要研究業績＞
Macroeconomic effects of global policy and financial risks, International Journal of Finance &Economics, 29(1),177-205.（共著）
『ポストコロナの世界経済: グローバルリスクの構造変化』、東京大学出版会、2023.　（共著）
『グローバルリスクと世界経済：政策不確実性による危機とリスク管理』、東京大学出版会、2021.（共著）
Diversifying reference currency basket and decreasing degree of flexibility in exchange policy of China,Japanese Journal of Monetary and Financial Economics, 6(1),1-18,2018　（単著）

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course systematically examines the theories and empirical analysis of international finance. Key topics include the structure of international financial markets, international capital flows, exchange rate determinants, the relationship between monetary policy and capital flows, and the stability of the international financial system. Special emphasis is placed on open economy macroeconomics, recent international finance theories, and the impact of global risks on financial markets.
The course integrates theoretical frameworks with empirical analysis using real-world data to derive policy implications. Through this approach, students will develop the ability to analyze international financial market trends and evaluate economic policies. Designed for graduate students, this course requires prior knowledge of economics and finance.
(Learning Objectives)

This course aims to deepen students' understanding of international finance at the graduate level, equip them with empirical analysis techniques, and develop a policy-oriented perspective. Students will study open economy macroeconomics, exchange rate theories, and the mechanisms of international capital flows while gaining the ability to conduct empirical analyses using international financial market data.
(Learning Activities Outside the Classroom)
Students are expected to review lecture materials before each class and revisit the previous session's content. The estimated time for preparation and review is approximately two hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Evaluation consists of a report (50%) and class participation (50%). If enrollment is high, assessment may be adjusted to a final exam or group research presentation.

ECN500F1 – 0171（経済学 / Economics 500）

産業組織論Ⅰ

矢野　智彦

備考（履修条件等）：**学部主催「産業組織論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。
この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。
Ⅰでは、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学びます。カルテルや寡占競争など市場で実際に見られる現象についても理論的に分析すると共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。
学習内容の確認のために期末試験を行います。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	産業組織論とはどのような分野であるか 授業の方式・評価方法
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	ミクロ経済学の復習（主に企業の利潤最大化と完全競争） 産業組織論Ⅰで取り扱うトピックの紹介
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか
第4回	寡占競争(1)	企業が生産・販売の数量を決定して競争を行う場合（クールノー競争）に、企業の数の変化に応じて競争がどのように変わるのか
第5回	寡占競争(2)	消費者が企業間の差異を質的に区別できないような財・サービスの市場（同質財市場）において、企業が生産・販売の数量の代わりに価格を決定して競争を行う場合（ベルトラン競争）にはクールノー競争とどのように競争が異なるか
第6回	寡占競争(3)	消費者が企業間の差異を質的に区別できる財・サービスの市場（製品差別化市場）におけるベルトラン競争
第7回	競争の実務 (1)	競争法・競争政策の概要
第8回	競争の実務(2)	独禁法違反事件や独禁法違反に関わる訴訟・紛争の実務
第9回	合併	企業が合併したら消費者と企業それぞれに何が起きるか
第10回	ゲーム理論(1)	ゲーム理論とは何か
第11回	ゲーム理論(2)	最適反応とナッシュ均衡
第12回	ゲーム理論(3)	ゲーム理論による寡占市場の理論（第4回から第6回）の整理
第13回	復習	期末試験に向けて本講義で扱ったトピックを整理
第14回	問題演習	期末試験のための問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第2版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞産業組織論
＜研究テーマ＞独禁法と経済学
＜主要研究業績＞Essays on Third Digree Price Discrimination

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN500F1 – 0172（経済学 / Economics 500）

産業組織論Ⅱ

矢野　智彦

備考（履修条件等）：**学部主催「産業組織論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。
この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。
Ⅱでは、春学期で学んだ産業組織論Ⅰを前提として、価格差別、製品差別化など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶと共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。
学習内容の確認のために期末試験を行います。
学習支援システムの掲示板を活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期に扱うトピックの概要
第2回	産業組織論Ⅰの復習	産業組織論Ⅰで扱ったトピックの中で、Ⅱでも重要な内容について復習
第3回	価格差別(1)	価格差別の考え方
第4回	価格差別(2)	第1種価格差別、第2種価格差別、第3種価格差別
第5回	価格差別(3)	価格差別(2)で扱えなかった残りのトピック
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	製品差別化(1)	差別化の源泉と経済モデル
第8回	製品差別化(2)	製品差別化の経済モデルの紹介
第9回	特許と知的財産	技術開発・特許制度と市場競争との関係
第10回	ネットワーク外部性とプラットフォーム（1）	ネットワーク外部性とプラットフォーム（1）
第11回	ネットワーク外部性とプラットフォーム（2）	直接ネットワーク効果と間接ネットワーク効果
第12回	再販価格維持	再販価格維持とは
第13回	復習①	秋学期に学んだ内容について総復習
第14回	復習②	秋学期に学んだ内容について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第 2 版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・ 川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【担当教員の専門分野等】
専門：産業組織論・独禁経済学
研究テーマ：企業結合審査における経済分析

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN500F1 – 0139（経済学 / Economics 500）

日本経済特論Ⅰ

平田　英明

備考（履修条件等）：**学部主催「日本経済論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。

なお、この科目は経営学部の「日本経済論」とのコードシェア科目です。本科目を履修する大学院生には、学部生には課さない課題を課します。詳しくは授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明	授業計画の紹介
	マクロ的視点からの経済の捉え方1	1－3章について講義します。
第2回	マクロ的視点からの経済の捉え方2	1－3章の続きを講義します。
第3回	マクロ的視点からの経済の捉え方GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	日本の企業とその特徴1	4章について講義します。
第5回	日本の企業とその特徴2	4章の続きを講義します。
第6回	日本の企業とその特徴GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第7回	日本の労働とその特徴1	5章について講義します。
第8回	日本の労働とその特徴2	5章の続きを講義します。
第9回	日本の労働とその特徴GS	労働に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第10回	わが国の財政の特徴1	7章について講義します。
第11回	わが国の財政の特徴2	7章の続きを講義します。
第12回	わが国の財政の特徴GS	財政に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第13回	講演	ゲストスピーカーをお呼びする予定です。
第14回	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験（とＧＳ）によって評価を行います。なお、＋αとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の１の通りです。

１．単位の評価はａまたはｂの方法で行います（期末試験時に学生が学生が【1】【2】【3】より選択）。詳細は授業にて説明します。

ａ．Ｓ～Ｄの評価（【１】or【２】）

【１】（期末試験７０％＋ＧＳ３０％）＋α

【２】期末試験１００％＋αで成績評価を行います。

ｂ．Ｃ～Ｄの評価（【３】）

【３】問題数を絞った期末試験

２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

３．単位取得率は例年95％程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
　オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】
　担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】
　Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. You should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.
At the time of the final exam, you can choose one of the following options.
(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN500F1 – 0140（経済学 / Economics 500）

日本経済特論Ⅱ

平田　英明

備考（履修条件等）：**学部主催「日本経済論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。

なお、この科目は経営学部の「日本経済論」とのコードシェア科目です。本科目を履修する大学院生には、学部生には課さない課題を課します。詳しくは授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明	授業計画の紹介
	日本の社会保障とその特徴1	6章について講義します。
第2回	日本の社会保障とその特徴2	6章の続きを講義します。
第3回	日本の社会保障とその特徴GS	日本の社会保障に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	データ経済1	経済を理解する上でのデータの重要性について解説します。
第5回	データ経済2	データの経済分析における使われ方を紹介します。
第6回	日本の金融とその特徴1	8章について講義します。
第7回	データ経済GS	データ経済に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第8回	日本の金融とその特徴2	8章の続きを講義します。
第9回	日本の金融とその特徴GS	日本の金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第10回	国際貿易と国際金融の特徴1	9章とそれに関する国際金融の基本について講義します。
第11回	国際貿易と国際金融の特徴2	9章の続きとそれに関する国際金融の基本を講義します。
第12回	国際貿易と国際金融の特徴GS	国際貿易と国際金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。または、ゲストスピーカーをお呼びします。
第13回	景気の国際的連動	景気変動が世界的に波及するメカニズムとその背景にあるグローバル化の動向を考えます。
第14回	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入して
ください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してくだ
さい。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

1．成績の評価は以下の方法で行います。
　　期末試験（ウエイト50％）＋GS（ウエイト20%）＋レポート（30%）
2．レポートについては、授業内で説明を行います。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価を複数軸で行い、学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. You should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

Grades will be evaluated in the following manner

Final exam (50%weight) + GS (20%weight) + Report (30%weight)

2. The report will be explained in class.

ECN500F1 – 0173（経済学 / Economics 500）

統計学Ⅰ

高橋　慎

備考（履修条件等）：**学部主催「経営のための統計学Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経営／ビジネスの現場において統計学とデータ分析のニーズが非常に高まっています。経営／ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎的な理論と統計モデリングを学ぶとともに、それを経営分野のデータに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・統計理論および様々な統計モデルを習得し、他の人に説明できる。
・統計ソフトRの使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・講義資料に沿って進めます。
・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。
※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／Rのインストール	講義概要について説明します。また、統計ソフトRのインストールについて紹介します。
第2回	記述統計／Rの基本操作(1)	データの特徴を見るための、平均・分散・標準偏差などを学びます。また、統計ソフトRの基本的な使い方を勉強します。
第3回	相関／Rの基本操作(2)	複数の変数間の関係性を分析する共分散や相関について学習します。また、統計ソフトRの基本的な使い方を勉強します。
第4回	確率変数と確率分布	確率変数と主要な確率分布について学習します。
第5回	統計的推定	母集団と標本について学習します。また、点推定と区間推定について学習します。
第6回	仮説検定(1)	母平均と母比率の仮説検定について学びます。
第7回	仮説検定(2)	2つの母集団の母平均と母比率の差の検定について学びます。
第8回	単回帰分析(1)	単回帰分析と母数の推定法である最小2乗法について学びます。
第9回	単回帰分析(2)	回帰係数の検定と決定係数について学びます。
第10回	重回帰分析(1)	重回帰分析について学びます。
第11回	重回帰分析(2)	多重共線性や変数選択について学びます。
第12回	ロジスティック回帰分析(1)	2値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
第13回	ロジスティック回帰分析(2)	ロジスティック回帰分析の予測値や的中率の算出方法、AICなどについて学びます。
第14回	まとめ	本授業の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本橋永至(2015)「Rで学ぶ統計データ分析」オーム社

【参考書】
・小暮厚之(2009)「Rによる統計データ分析入門」朝倉書店.
・金明哲 (2017)「Rによるデータサイエンス -データ解析の基礎から最新手法まで　第2版」森北出版.

【成績評価の方法と基準】
・演習レポート：50%
・期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
データを用いた演習に重点を置き、より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフトRを利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
履修希望者が教室の定員を超えた場合は、抽選になります。抽選は初回授業に行いますので、履修希望者は必ず授業に参加してください。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
経営のための統計学Ⅱ

【Outline (in English)】
[Course outline]
In recent years, the skills of Statistics and data analysis are required even in the management /business field. In addition, to properly make decisions in the management /business context, it is necessary to make objective judgments based on statistical theory and data, and that requires knowledge of statistics. In this course, we will learn about basic theory of Statistics and some statistical modeling, and apply them to data in the management field. In addition, we sill acquire practical skills by performing actual data analysis using free statistical software R.
[Learning Objectives]
Students learn statistical theory and various statistical models, and can explain them to others.
Students learn how to use the statistical software R, and can perform actual data analysis.
Students can interpret the results of analysis and explain them to others.
[Learning activities outside of classroom]
Students are required to submit reports on the exercises given in the class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Exercise reports: 50%.
Final report: 50%.

ECN500F1 – 0174（経済学 / Economics 500）

統計学Ⅱ

高橋　慎

備考（履修条件等）：**学部主催「経営のための統計学Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経済・ファイナンスデータに特化した時系列分析の理論と応用方法を学びます。具体的には、時系列データの基本的な特性、分析手法、予測モデルの構築方法について習得します。また、実際の経済・ファイナンスデータを用いた分析実習を通じて、理論と実践の統合的な理解を深めることを目指します。

【到達目標】
・自己相関、自己回帰、移動平均などを用いた実証研究の論文などを読解できる。
・無料の統計ソフトウェアRを用いて簡単な実証研究を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、Rによる演習を行い理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/時系列分析の基礎	講義概要について説明します。また、時系列データ、時系列分析の目的、基本統計量について学びます。
第2回	Rの使い方	Rによる数値計算と統計分析について学びます。
第3回	時系列分析の基礎概念	定常性、ホワイトノイズ、時系列プロット、自己相関について学びます。
第4回	ARMA過程1	MA過程、AR過程、ARMA過程について学びます。
第5回	ARMA過程2	ARMA過程の定常性と反転可能性、ARMAモデルの推定について学びます。
第6回	ARMA過程3	ARMAモデルの選択について学び、実証分析を行います。
第7回	予測1	予測の基礎、AR過程の予測、区間予測について学びます。
第8回	予測2	MA過程の予測、ARMA過程の予測について学び、実証分析を行います。
第9回	VARモデル1	弱定常ベクトル過程、VARモデルの性質、VARモデルの推定について学びます。
第10回	VARモデル2	グレンジャー因果性、インパルス応答関数について学びます。
第11回	VARモデル3	分散分解、構造VAR モデルについて学びます。
第12回	ボラティリティ変動モデル1	ボラティリティ、ARCH 型モデル、SVモデルについて学びます。
第13回	ボラティリティ変動モデル2	ARCH型モデルの拡張、SVモデルの拡張について学びます。
第14回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・Rによる実証分析を行い授業内容の復習と知識の定着を図ります。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店

【参考書】
・渡部敏明『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店
・授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間課題：50%
期末課題：50％

【学生の意見等からの気づき】
発展的な内容も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフトウェアR（またはクラウドサービスPosit Cloud）を利用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
・基礎統計学I/IIおよび経営のための統計学Iの知識を前提とします。
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
・統計学入門
・基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
・経営のための統計学Ⅰ

【Outline (in English)】
In this course, we will study the theory and application methods of time series analysis specialized in economic and finance data. Specifically, we will learn about the basic characteristics of time series data, analysis techniques, and how to construct forecasting models. Additionally, through practical analysis exercises using actual economic and finance data, we aim to deepen an integrated understanding of theory and practice.
—
Learning activities outside of classroom:
- Conduct empirical analyses using R to review the course content and reinforce knowledge.
- The standard time for preparation and review for this course is set at 2 hours each.
—
Grading Criteria:
- Midterm Assignment: 50%
- Final Assignment: 50%

MAN500F1 – 0043（経営学 / Management 500）

ワークショップ（企業家養成）

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業家養成ワークショップでは、さまざまな企業家をお招きして、設定したテーマに関する講演とその後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家活動についての理解を深めます。今年度のテーマは「企業家と挑戦」です。

【到達目標】
企業や事業を起こされた経緯や動機と、そのときの苦労や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについてのゲストの講演と、その後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家の挑戦、ならびに事業の構築・成長のマネジメントについて理解することが本ワークショップ授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
開講は対面を基本とします。何か異例事項が生じた場合には、学習支援システムの「お知らせ」、および同システムに登録されているメールアドレス宛メールにてお知らせいたします。
今年度のワークショップは、新たな企業を立ち上げた経営者はもちろん、既存企業内で新規事業を立ち上げた方、スタートアップ企業の支援に携わる方など、多彩な「企業家」をゲスト・スピーカーとしてお招きしてお話をうかがい、その後に質疑応答やディスカッションを行うことによって、「企業家活動」についての理解を深めます。ワークショップでは、学生が積極的に質問して、ゲスト・スピーカーの生の声を聞き出すようにしてください。
なお、ワークショップで学んだことを、課題レポートとして次週までに提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション①	授業の概要と進め方等の説明
第2回	イントロダクション②	ゲスト・スピーカーの概要等についての説明
第3回	ゲスト・スピーカー①	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー①の講演
第4回	ゲスト・スピーカー①	ゲスト・スピーカー①との質疑応答、ディスカッション
第5回	ゲスト・スピーカー②	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー②の講演
第6回	ゲスト・スピーカー②	ゲスト・スピーカー②との質疑応答、ディスカッション
第7回	ゲスト・スピーカー③	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー③の講演
第8回	ゲスト・スピーカー③	ゲスト・スピーカー③との質疑応答、ディスカッション
第9回	ゲスト・スピーカー④	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー④の講演
第10回	ゲスト・スピーカー④	ゲスト・スピーカー④との質疑応答、ディスカッション
第11回	ゲスト・スピーカー⑤	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー⑤の講演
第12回	ゲスト・スピーカー⑤	ゲスト・スピーカー⑤との質疑応答、ディスカッション
第13回	ゲスト・スピーカー⑥	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー⑥の講演
第14回	ゲスト・スピーカー⑥	ゲスト・スピーカー⑥との質疑応答、ディスカッション
第15回	ゲスト・スピーカー⑦	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー⑦の講演
第16回	ゲスト・スピーカー⑦	ゲスト・スピーカー⑦との質疑応答、ディスカッション
第17回	ゲスト・スピーカー⑧	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー⑧の講演
第18回	ゲスト・スピーカー⑧	ゲスト・スピーカー⑧との質疑応答、ディスカッション
第19回	ゲスト・スピーカー⑨	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー⑨の講演
第20回	ゲスト・スピーカー⑨	ゲスト・スピーカー⑨との質疑応答、ディスカッション
第21回	ゲスト・スピーカー⑩	「企業家と挑戦」に関するゲスト・スピーカー⑩の講演
第22回	ゲスト・スピーカー⑩	ゲスト・スピーカー⑩との質疑応答、ディスカッション
第23回	ディスカッション①	ゲスト・スピーカー①～⑤についての振り返りとディスカッション
第24回	ディスカッション②	ゲスト・スピーカー⑥～⑩についての振り返りとディスカッション
第25回	まとめ①	「企業家と挑戦」についてのまとめ
第26回	まとめ②	授業のまとめ
第27回	修士論文の中間発表①	企業家養成コース2年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表
第28回	修士論文の中間発表②	企業家養成コース2年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しません。

【参考書】
参考書は特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】
配分：レポート提出（50％）、質疑応答やディスカッションなどの授業への貢献（50％）
評価基準：単位取得のためには、6回以上のレポート提出が求められます。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
ゲスト・スピーカーや具体的な講義スケジュールは、第1回目の授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年10月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65巻1号, 2017年6月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。

5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002年3月。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】
In the Workshop in Entrepreneurship, ten entrepreneurs lecture on their experience and thinking as well as discuss specific topics on the lectures with participants of workshop. The objective of this workshop is to acquire the ability to see through the essence of entrepreneurship.
The theme of the Workshop in Entrepreneurship in 2025 is "Entrepreneurs and Challenges".
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on a total of the following: Report (50％) + Ordinary points &Contribution to the discussion (50%)

MAN500F1 – 0045（経営学 / Management 500）

企業家史

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。
・J. シュンペーターは『経済発展の理論』(1912年)において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらにA. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと(創造的破壊)だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程(競争)によって経済発展が生み出されると論じた。
・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

【到達目標】
・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。
・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。
・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定している。
　①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
　②学習の到達度を確認するため、定期的に対面またはWeb上でディスカッションを実施する。その際、参加者は自身の論点や疑問点を明確にしたレジュメを用意する。
　③最終評価にあたっては、特定の起業家に関するレポートを提出していただくことを想定している。
・初回授業の際に、参加者の確定と、授業のスケジュールを決定する。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点 ※対面で実施予定
第2回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第4回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第5回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第6回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第7回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命
第8回	第一次世界大戦期の経営	・概説：第一次大戦ブーム
第9回	第一次世界大戦期の経営	・大戦ブームと商社 ・好況時のリスク管理
第10回	両大戦間期の経営	・概説：1920～30年代の日本経済
第11回	両大戦間期の経営	・都市型産業の登場 ・新興コンツェルンの成長
第12回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：戦時統制経済から戦後改革へ ・概説：高度経済成長と大衆消費社会
第13回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・流通革命 ・東海道新幹線
第14回	授業内容の復習	・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧　補訂版』（東京大学出版会）
③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
④三和良一（2012）『概説日本経済史　近現代（第3版）』（東京大学出版会）
⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2023）『日本経営史［第3版］』（有斐閣）
⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
・現時点では、①定期的に実施されるディスカッションでの発言・資料内容(40％)、②最終レポートの内容（60％）、の2点で評価することを想定している。
・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。
・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】
・なし

【その他の重要事項】
・定期的なディスカッションは、教室での対面形式で実施する予定である。ただし、感染状況や受講者の希望によっては、Web上でのディスカッションに切り替える可能性がある。
・初回授業では、授業の概要説明、参加者の確定、授業スケジュールの決定を予定している。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・ゼミ形式という授業の性格上、参加者数は最大でも8名程度を想定している。そのため、履修登録に際しては、企業家養成コースの学生を優先する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史
・日本経済史

＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第56巻第4号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史4（近代2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
・The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.
・In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.
【Learning Objectives】
・Acquire knowledge about the history of modern Japanese economy and business development, and clearly grasp the economic environment of each era, which is the premise of entrepreneurial activities.
・On top of that, use case studies to think about where entrepreneurs have found business opportunities and how they tried to seize them in the background of the times and the external environment.
・Through the above, learn what strategic behavior is based on a long-term perspective and acquire a historical way of thinking.
【Learning activities outside of classroom】
・The standard preparatory study /review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Evaluation will be made based on two points:
(1)Remarks and material content in regular discussions
(2)Final report content.
・When evaluating grades, prioritize the ability to systematize entrepreneurial activities from a long-term, bird's-eye view and position them historically, rather than acquiring knowledge about entrepreneurs.

MAN500F1 – 0008（経営学 / Management 500）

経営史

韓　載香

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営史学に関する基礎的且つ体系的知識を身につけることを目的とします。多様性を重視する経営史学ですが、企業、組織、企業家、技術、産業、システムなど様々な内容を対象としながら、地域や分野を超えて共通してみられる組織内の編成やその方向性、市場・産業内で影響しあいながら環境自体を変えていく企業活動のダイナミズムを注視します。
具体的には、19世紀から20世紀までにおける欧米及び日本の企業や、それらを取り巻く環境、制度・システムに注目し、組織の在り方の多様性を通じてみえる原理を理解します。加えて、市場の秩序を変えてきた特筆すべき変化を捉え、それが何故起き、どのように展開し、どのような影響を残したかを考えていきます。

【到達目標】
1.多様性(特徴)及び共通性を区別しながら、地域(国)の組織原理を解説することができる。
2.大企業への成長に伴われる組織編成の変化について、要因とともに説明することができる。
3.企業活動について、制度の束としてのシステムとの関連で理解できる具体例を提示することができる。
4.国を超えて影響が広がった企業の在り方やシステムについて、事例を挙げて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
指定テキストに内容に即して進めていきます。教員による簡単なポイントの解説、受講者による論点提示の後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。受講者には【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】に説明するような要領で発表をしていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	第一に、「経営史を学ぶとは？ －今における『新しい』を発見する」というトピックで授業の意義について解説します。 第二に、テキスト及び学習方法や、受講者の参加の仕方などその他の概要を説明します。
第2回	第2回～第6回 市場経済の発達とビジネス	資本主義の発祥地であるヨーロッパを対象として、19世紀における市場経済の発展やビジネスを動かした動因について学びます。 工業化と多元的発展(鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。以下同様)：近代工業、在来産業、金融―サービスの台頭について学びます。
第3回	市場経済の発達とビジネス	市場経済とビジネスの発展方向：専門化・産業地域・競争について考えます。
第4回	市場経済の発達とビジネス	19世紀の金融・サービス：株式会社の登場と金融の在り方に注目します。
第5回	市場経済の発達とビジネス	19世紀の労働と雇用：近代工業と在来産業の管理にみる働く姿はどのようなものだったでしょうか。
第6回	市場経済の発達とビジネス	大量生産体制のへの途：19世紀アメリカにおける試みから、20世紀を展望します。
第7回	第7回～第13回 大企業の形成(20世紀初頭)	19世紀末から20世紀初頭においてアメリカで台頭した大企業に光を当て、各地の勃興についてみます。製造業における大量生産がいかに組織の在り方を変え、どのような新しい手法のマネジメントが定着したか、その影響はどのようなものであったかについて学びます。 垂直統合とアメリカの現代企業：大量生産と大量販売の時代を切り開いたアメリカの大企業の経営を取り上げます。
第8回	大企業の形成	アメリカ企業と経営階層組織：専門経営者に登場してもらい、マネジメントが要求した変化を吟味します。
第9回	大企業の形成	アメリカにおける経営者企業の成立：多角化戦略における部門間調整とは何でしょうか。
第10回	大企業の形成	ヨーロッパにおける現代企業の登場：大企業の展開において政府はどのように関わったのでしょうか。
第11回	大企業の形成	ヨーロッパ大企業の組織と管理：持株会社とは？ その管理に注目します。
第12回	大企業の形成	日本における大企業の登場：産業革命期における日本のビジネス
第13回	大企業の形成	日本の企業と財閥：両大戦間期、産業構造の変化に対する日本の企業の対応
第14回	受講者の発表①	研究書の批評発表
第15回	第15回～23回　大企業体制のビジネス	各地に出現した大企業体制とは何かを理解しつつ、そのもとで展開したビジネスの在り方を比較しながら、地域別の特徴について考えていきます。 アメリカの大企業体制：大企業・大労組・大きな政府
第16回	大企業体制のビジネス	新産業の誕生と先端技術開発：先端技術産業と政府の役割
第17回	大企業体制のビジネス	戦後ヨーロッパの大企業：揺れる大企業体制
第18回	大企業体制のビジネス	金融センターの興亡：大企業体制下の金融・サービス
第19回	大企業体制のビジネス	中小企業、産業地域、クラフト：大企業体制下において消える存在？
第20回	大企業体制のビジネス	日本の大企業(1)：戦略と発展類型における日本の特殊性
第21回	大企業体制のビジネス	日本の大企業(2)：組織と雇用にみる特徴
第22回	大企業体制のビジネス	日本のビジネス・システム：市場と組織の在り方（いわゆる日本的経営の再検討）
第23回	大企業体制のビジネス	日本の企業間競争と市場：競争的市場と中小企業、産業集積、在来産業

第24回	第24回～第27回 大企業体制後のビジネス	大企業の地位における揺らぎなど、ビジネス界に見られた変容は、今を理解するうえでも興味深いものです。1960年から80年までのアメリカ、欧州、日本での動きは多様ですが、時期を異にしながらも大きな流れとして共通点を導き出すことができます。大企業淘汰の背景と実態とともにその意味についていくつかの見解を理解しましょう。 経営者企業の動揺：国際競争力の低下とM&A
第25回	大企業体制後のビジネス	アメリカ企業の復活：半導体とパーソナル・コンピュータ
第26回	大企業体制後のビジネス	金融・サービスの復活：金融・サービスセンターの競争
第27回	受講者の発表②	研究書の批評発表
第28回	アジア経営史	「第12章アジア」（佐々木聡編『グラフィック経営史』新世社、2022年）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出していただきます。
課題：受講者には教員が提示した【参考文献】リストから1冊を選び、内容紹介および批判の発表(1回)をしていただきます。＊この報告のため、受講者の参加人数により、講義計画は調整されます。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年

【参考書】
鈴木良隆『経営史――イギリス産業革命と企業者活動』同文館出版、1982年
S.ポラード（鈴木良隆・春見濤訳）『ヨーロッパの選択』有斐閣、1990年
小野塚知二『クラフト的規制の起源』有斐閣、2001年
D.A.ハウンシェル（和田一夫ほか訳）『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998年
A.D.チャンドラー, Jr.（鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳）『経営者の時代――アメリカにおける近代企業の時代』上・下、東洋経済新報社、1979年
A.D.チャンドラー, Jr.（三菱経済研究所訳）『経営戦略と組織――米国企業の事業部制成立史』実業之日本社、1967年（『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004年）
L.ハンナ（湯沢威・後藤伸訳）『大企業経済の興隆』東洋経済新報社、1987年
大河内暁男・武田晴人編『企業者活動と企業システム』東京大学出版会、1993年
A.D.チャンドラー, Jr.（安部悦生・川辺信雄・工藤章ほか訳）『スケール・アンド・スコープ』有斐閣、1993年
石井寛治『情報・通信の社会史』有斐閣、1994年
武田晴人『財閥の時代』新曜社、1995年
S.ハイマー（宮崎義一編訳）『多国籍企業論』岩波書店、1979年
兵藤釗『日本における労使関係の展開』東京大学出版会、1971年
M.ピオリ＝C.セーブル（山之内靖・永易浩一・石田あつみ訳）『第二の産業分水嶺』筑摩書房、1993年
橋本寿朗『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会、1996年
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991年
米国商務省（室田泰弘訳）『ディジタル・エコノミー2002/2003』東洋経済新報社、2002年
J.C.アベグレン（井尻昭夫訳）『日本の企業社会』晃洋書房、1989年
R.P.ドーア（山之内靖・永易浩一訳）『イギリスの工場・日本の工場』筑摩書房、1987年
J.P.ウォマック＝D.ルース＝D.T.ジョーンズ（沢田博訳）『リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える』経済界、1990年
L.H.リン（遠田雄志訳）『イノベーションの本質：鉄鋼技術導入プロセスの日米比較』東洋経済新報社、1985年

【成績評価の方法と基準】
論点提示、議論への参加度(60％)及び研究書の批評発表(40％)

【学生の意見等からの気づき】
進行方法については、学期中に一度参加者の意見を収集し、改善します。
議論に求められることは何かわからない、という学生の意見を聞きます。議論の目的について丁寧に説明し、新しい発見につながり、力を向上する方法について提案いたします。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do following:
To explain the organizational principles of a region (country) by distinguishing between diversity (characteristics) and commonality
To explain the changes in organizational structure along with the growth of a company, and factors.
To be able to give an example that can be understood in relation to the system as a bundle of systems regarding corporate activities.
To present an example the ideal way and system of a company whose influence has spread across countries.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do an academic review and give a presentation once in class.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated according to the following process.
・In-class contribution (discussion etc.) 50 percent
・Presentation regarding bibliography 50 percent

MAN500F1 – 0046（経営学 / Management 500）

経営戦略論

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面授業形式で行います。
授業の前半では文献のレビューに努め、後半ではそれらが実際にどのように企業において応用されているのかを学生に発表してもらったり、ビデオを見たりします。その後、皆でディスカッションを行います。
授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念と企業ドメイン	経営理念、企業ドメイン
第5回	外部環境分析（1）	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析（2）	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略（1）	3つの基本戦略
第9回	事業戦略（2）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（3）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（2）	垂直統合戦略
第13回	企業戦略（3）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定された部分を事前に読むこと。
発表者は、発表の準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
②沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔第3版〕』有斐閣、2023年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経ＢＰ社、2007年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013年。
④ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版]企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021年。
⑤マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 ＜改訂新版＞』センゲージラーニング、2014年。
⑥M.E.ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。
⑦M.E.ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。
①②④⑤は経営戦略論のテキストで、③は100年の経営戦略論の流れを描いた本で、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
配分：クラス参加(15%)、プレゼンテーション(25%)、レポート(60%)
評価基準：4回以上欠席した場合には、単位は与えられません。プレゼンテーションは、テキストの要約と自分の会社（組織）のケースを発表します。レポートは、自分の会社の経営戦略を分析します。詳細は、第1回目に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、学生の発表時間をコントロールすることなどによって、授業の時間管理に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm

【Outline (in English)】
This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.
At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(15%), presentations(25%) and term-end report(60%).

MAN500F1 – 0048（経営学 / Management 500）

イノベーション・マネジメント概論

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味します。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。
こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。
そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていただきたいと考えています。

【到達目標】
イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生の発表と全員参加の議論を行う、という構成にする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメントについて学ぶ
3	モティベーションとインセンティブのマネジメント	モティベーションとインセンティブのマネジメントについて学ぶ
4	人的ネットワークのマネジメント	人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
5	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ
6	組織構造と組織デザインのマネジメント	組織構造と組織デザインのマネジメントについて学ぶ
7	組織学習と知識創造のマネジメント	組織学習と知識創造のマネジメントについて学ぶ
8	組織文化と組織変革のマネジメント	組織文化と組織変革のマネジメントについて学ぶ
9	競争戦略のマネジメント	ポジショニング戦略と資源・能力ベースの戦略について学ぶ
10	新製品開発のマネジメント	新製品開発のマネジメントについて学ぶ
11	企業間関係のマネジメント	企業間関係のマネジメントについて学ぶ
12	イノベーションのプロセス／パターン	イノベーションが、どのようなプロセスを経て、どのようなパターンを描きながら発展していくのかを学ぶ
13	イノベーションと企業の競争力	さまざまなタイプのイノベーションと企業の競争力について学ぶ
14	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルのイノベーションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新版』, 新世社, 2024年。
その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

【参考書】
参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
(1)下記の合計で、成績を評価する予定です。
①毎回のレポート提出（A4で1～2枚程度の簡潔なもの）が70％
②授業内でのディスカッション参加（毎回）が30％
(2)3分の2以上の出席を最低ラインとします。

【学生の意見等からの気づき】
タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は、原則として法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
上記「授業計画」に記載したスケジュールは2024年度のものであり、本年度は変更される場合があります。授業の詳細なシラバスは第1回目の講義の際に配布します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年10月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65巻1号, 2017年6月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002年3月。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, business cases and discussions, etc.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on a total of (1) submission of reports (70%), and (2) contribution to class discussions (30%).

MAN500F1 – 0051（経営学 / Management 500）

企業間関係論

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業間関係の歴史と現状、日本、米、ドイツの企業間関係の比較についての論文を読むと共に、関連論点の講義とディスカッションを行う。それによって、それによって、企業間関係についての理解を深めると共に、各国の企業間関係の現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】
①多様な産業、世界各国の企業間関係の現状と歴史事例を比較検討することによって、企業間関係の多様性と共通点を統一的に理解できるようにする。
②現実の企業経営において企業間関係がどのような意味をもつかを立体的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎週授業は、論文の要約報告、質疑応答、講義、論点のディスカッションを織り交ぜて進められる。毎週授業の冒頭で、取上げられる論文の理論的・実証的背景について解説する。なお、毎週の報告者は、論文の要約と(ディスカッションのための)論点の提示を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、企業間関係の概要	授業の進め方を案内する。また、企業間関係を取り上げる趣旨と分析視点について講義する。
2	企業間取引の理論検討(1)	テキスト第2章(企業間取引の経済理論)
3	企業間取引の理論検討(2)	テキスト第3章(市場性と組織性の絡み合いの理論)
4	日本の鉄鋼の企業間取引史	テキスト第4章2(戦後日本の鉄鋼の企業間取引)
5	自動車部品の企業間取引	テキスト第8章1(戦後日本自動車産業の企業間取引の特徴)
6	半導体ICの企業間取引	テキスト第5章(部品の企業間取引の歴史：半導体ICの事例)
7	工作機械の企業間取引	テキスト第6章(資本財の企業間取引の歴史：工作機械の事例)
8	鉄鋼の企業間取引の日米比較	テキスト第7章2(鉄鋼企業と自動車企業の間の企業間関係)
9	自動車部品の企業間取引の日米比較	テキスト第8章2～4
10	ドイツの自動車部品の企業間取引	岡室博之「ドイツ自動車産業における部品取引関係の展開」『経営史学』38巻2号、2003年
11	米タイヤ産業の販売、調達をめぐる企業間関係史	金容度「アメリカタイヤ産業史序説(1) 」『経営志林』55巻2号、2018年
12	銀行と企業の関係(メインバンクシステム)の日独比較	金容度『日本経営論』博英社、2023年第14章
13	自動車メーカーと鉄鋼メーカーの企業間取引	テキスト第10章(素材の企業間取引の現状：鉄鋼の事例)
14	デジタル素材の企業間取引	テキスト第11章(部材の企業間取引の現状：液晶部材の事例)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業支援システムにアップロードされる毎週の事例論文を必ず事前に読むと共に、その論文の重要論点について考えてみてから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】
金容度『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年

【参考書】
金容度『日本経営論』博英社、2023年
金容度「アメリカタイヤ産業史序説(1) －販売及び調達をめぐる企業間関係と垂直統合－」『経営志林』(法政大学経営学会)55巻2号、2018年
岡室博之「ドイツ自動車産業における部品取引関係の展開」『経営史学』38巻2号、2003年

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、授業及び議論への参加（40％）、授業での報告（60％）である。試験やレポート提出は行わず、授業での報告及び議論への参加を重視する。特に、報告に関しては、授業で取り扱う文献を要約するだけでなく、自分の視点から企業間関係についての問題提起を行う報告が高い評価を得られる。単位取得のための最低授業出席数は授業回数の3分の2である。

【学生の意見等からの気づき】
今年度の授業では、ディスカッションの時間をより増やす。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞企業間関係論、日本経営論、日本経営史
＜研究テーマ＞企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など
＜主要研究業績＞
①『日本経営論』博英社、2023年
②『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年
③The Dynamics of Interfirm Relationships:Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd..2015
④"Inter-firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry,1960s-1970s."Business History Review (Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.2012
⑤『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, presentation,Q&A and discussion on the history and status quo of interfirm relationships.
【Learning Objectives】The learning objectives of this course are to enhance the ability to think logically interfirm relationships on the perspective of international comparisons and to increase basic knowledge on interfirm relationships.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the article in a textbook.It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Presentation(60 percent),participation in class(40 percent).

MAN500F1 – 0066（経営学 / Management 500）

ワークショップ（人材・組織マネジメント）

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材と組織のマネジメントにおいて、「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模で「変化への対応」が絶えず要求されている。この授業では、実務家や研究者をゲスト講師として招き、様々なビジネス分野における事例や、実践的研究について紹介してもらう。そして、「ビジネス環境の変化にいかに対応するか」という問題意識を起点として、これらの事例／実践的研究に対する検討を進める。今年度は、「組織変革の戦略と方法」、「ダイバーシティ推進の可能性と課題」、「人材／組織マネジメントの新潮流を探る」という３つの視点から、今日の人材／組織マネジメントが直面する諸問題に対する洞察力を磨いていくことをめざす。

【到達目標】
1）授業で取り上げた「組織変革戦略／方法」の事例を分析し、組織マネジメント上の可能性と課題を理解する。
2）授業で取り上げた「ダイバーシティ推進」の事例を分析し、人材マネジメント上の可能性と課題を理解する。
3）授業で取り上げた事例の分析／検討を通じて、人材／組織マネジメントの今日的課題の所在を知ると共に、背後にある社会環境の変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
〈ゲスト講義〉〈担当教員の講義〉の基本的な進め方は以下の通り。

・ゲスト講義（事例の紹介）　：100分
・検討課題についてのグループ討議　：40分
・グループ討議の結果報告＆全体討議　：40分
・教員による総括（まとめ講義）　：20分

〈グループ発表〉では、少人数のグループで「ゲスト講義の要約」「興味深かった点」「議論すべき問い」を検討し、20分程度の発表を行う。加えて、クラス全体でのディスカッション、及び、担当教員による関連する理論の解説を通じて考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入講義	〈担当教員の講義1〉 ・授業のねらいと進め方 ・ビジネスにおける実践と研究の関係
第2回	組織変革の戦略と方法(1)	〈ゲスト講義1〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第3回	組織変革の戦略と方法(2)	〈ゲスト講義2〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第4回	組織変革の戦略と方法(3)	〈ゲスト講義3〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第5回	組織変革の戦略と方法(4)	〈ゲスト講義4〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第6回	中間報告会(1)	〈グループ発表1〉 ゲスト講義１～４についてのグループ発表とまとめ講義
第7回	ダイバーシティ推進の可能性と課題(1)	〈ゲスト講義5〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第8回	ダイバーシティ推進の可能性と課題(2)	〈ゲスト講義6〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第9回	ダイバーシティ推進の可能性と課題(3)	〈ゲスト講義7〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第10回	ダイバーシティ推進の可能性と課題(4)	〈ゲスト講義8〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第11回	中間報告会(2)	〈グループ発表2〉 ゲスト講義５～８についてのグループ発表とまとめ講義
第12回	人材／組織マネジメントの新潮流を探る(1)	〈ゲスト講義9〉 人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
第13回	人材／組織マネジメントの新潮流を探る(2)	〈ゲスト講義10〉 人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
第14回	まとめ講義	〈担当教員の講義2〉 ・ゲスト講義の総括 ・研究の進め方に関する講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）授業内での検討をもとに、ゲスト講義に関する気づきをまとめ、「振り返りレポート」を個人で作成する。
2）ゲスト講義について、授業時間外にグループで議論を行い、「中間報告会」において，グループ発表を行う。
2）全授業終了後、授業全体を振り返った上で、気づきをまとめ、「最終レポート」を個人で作成する。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。

【参考書】
講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）振り返りレポート（10回）　：50％
（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；考察内容の深さ.
2）中間報告会（2回）　：20％
（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；；表現の明快性.
3）最終レポート（1回）　：30％
（評価基準）考察内容の妥当性/新規性/進歩性；表現の明快性.

【学生の意見等からの気づき】
「参加型」の授業運営を進めるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
1）資料配布や課題提出のために、授業支援システムを利用する。
2）受講者グループによる中間発表を行う。

【その他の重要事項】
受講者の人数、関心、理解の進度を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成を修正する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
《専門領域》
組織社会学、
経営学習論、
ポストモダン・エスノグラフィー
《研究テーマ》
組織と学習、

組織エスノグラフィー、
創造的なコラボレーションのデザイン
《主要研究業績》
『みんなのアンラーニング論』（単著）
『越境する対話と学び』（共著）
『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
『企業内人材育成入門』（共著）

【長岡研究室ウェブサイト】
（1）プロフィール
http://www.tnlab.net/profile.html
（2）ゼミ活動
http://www.tnlab.net/seminar/
（3）FACEBOOK
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
（4）X（旧twitter）
https://twitter.com/TakeruNagaoka

【Outline (in English)】
[Couse Outline]
In the areas of human resource management and organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organisational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of organisation studies
In this course, 10 guest speakers, including university-based researchers, business persons, and practitioners of NPO, deliver lectures on “organisational change” in various aspects, as they relate to the cases and/or the studies that the guest speakers are involved in. By discussing and analysing those cases and studies, we try to deepen our understanding of “organisational change”, and to find practical lessons learnt about how to cope with “change” issues in business organisations.
[Leearning Objectives]
The main objectives of this course are to deepen our understanding of the following three points, 1) strategies and methodologies for organisational change, 2) diversity management in business organisations, and 3) new trend in the areas of human resource management and organisation management.
[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to complete the required assignments, as well as to attend the class meetings. The required assignments are the term-end academic essay, short academic essays about 10 guest lectures, and team presentations about learning objective 1) and 2) mentioned above.
[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on term-end academic essay (20%), short academic essays about 10 guest lectures (50%), team presentations about 2 learning objectives (20%), and in-class contribution (10%).

MAN500F1 – 0067（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

【到達目標】
①人事管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を得る。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業時間（月曜6限・7限）に対面形式での授業を行います。授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（ＨＲＭ）のちがいや「理論」について学ぶ
第2回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第3回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第4回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる用件、格付け基準の多様性について理解する
第5回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第6回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択およびＲＪＰの理考え方について検討する
第7回	人的資源管理のなかの人材育成（ＨＲＤ）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人材育成機能について理解する
第8回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第9回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第10回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第11回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第12回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第13回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割(人事部門との連携関係)について総括的に検討する
第14回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割(ライン・マネジャーとの連携関係)について総括的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に課題論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。これをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また各回について、1～2名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。このほか、最終レポート課題として、身近な組織の事例をもとにした人的資源管理に関わるレポートの準備も必要となります。
基礎の確実な理解に向けては、各自、各回のテーマに合わせて、佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房、にて対応する章を読んで学ぶことを推奨します。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに掲載するパワーポイント資料（PDF形式にて配布）をもとに授業を進めます。
ただし人的資源管理の基礎をしっかり理解するうえで、授業での進捗にあわせて下記のテキストの各章を読んで学ぶことを推奨します。
佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②日本労働研究雑誌（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）
③藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20点）、文献・事例の報告（30点）、議論への貢献（30点）、最終レポート（20点）
授業への参加度、報告の担当回での報告内容のほか、授業内での議論への貢献度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、学習支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思います。基礎知識の習得に向けてテキストを紹介してほしいという意見を受講者から受けることがあるので、今年度の授業から講師の執筆によるテキストを読むことを推奨することにしました。

【その他の重要事項】
授業で利用するパワーポイント資料は、学習支援システムにて事前に入手できるようにします。適宜、プリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
【Course outline】
Our objective is to learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.
【Learning Objectives】
(1) To understand the breadth of the subject area and basic concepts of human resource management theory. (2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management. (3)To learn how to consider familiar cases based on the above. (4) To learn how to critically review articles related to human resource management. (5) To obtain hints for the theme of research for the master's thesis, etc.
【Learning activities outside of classroom】
A paper on an issue related to the theme of each session will be presented in class. Students are expected to read the papers in advance, understand the issues, and come to class with questions and comments. These will be discussed in class to deepen understanding of the topic. For each session, one or two representatives will be asked to prepare resumes for the assigned papers. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Participation in class (20 points), reports on literature and case studies (30 points), contribution to discussions (30 points), final report (20 points)
Students will be assessed on their participation in the class, the quality of their reports in the sessions for which they are responsible, and their contribution to the discussions in the class. At the end of the course, students will be asked to submit a report on human resource management that is in line with their own problematic interests. The final evaluation will be based on the above factors.

MAN500F1 – 0070（経営学 / Management 500）

人事制度論

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に経済学的手法による日本企業の人事制度概論である。学生は、人事制度を設計、運用、評価するために必要な基礎理論（ミクロ経済学、社会心理学など）を簡単に学んだ上で、採用、訓練、昇進、賃金、人事評価、退職・定年、職務設計など人事制度の各パーツについて学ぶ。さらに、各パーツ相互の補完性を強調する戦略的、システム的なモノの見方、考え方を学ぶ。

【到達目標】
現実の人事制度が運用面も含めて、「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、そして（いっそう難しいことだが）「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
大きく「基礎理論」（①～④回）、「各論」（⑤～⑫回）、「応用」（⑬～⑭回）の3部からなる。「基礎理論」の授業は講義中心に行う。「各論」、「応用」の授業は、原則として、講義と受講者による報告・討論を合わせて行う。報告のノルマ、分担等については、受講者数や受講者の希望を勘案して決める。報告者は要点を記した簡単なハンドアウトを用意すること。
また、これらとは別に、学期末に各人の研究報告をレポートとして提出してもらう。この最終レポートは、受講者が本講義で学んだことの成果を総括するものとして、重要な位置を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	人事制度論の概要	・人事制度論の概要 ・関連領域、方法論の紹介
②	個人の行動原理	・経済合理性 ・経済非合理性 ・不完全情報
③	取引の効率性	・効率性 ・取引費用 ・コースの定理
④	組織の公正性、人々の福祉	・さまざまな公正観 ・組織内公正性 ・いくつかの福祉指標
⑤	雇用関係と労働市場	・雇用関係の特徴 ・雇用関係、労働市場の経済モデル
⑥	雇用形態・区分の多様化	・形態・区分多様化の背景 ・政策課題
⑦	採用・退職・定年	・採用量・質の決定 ・効率的な離職理論 ・定年制の理論と実際
⑧	人的資本と訓練	・一般訓練と特殊訓練 ・OJTとキャリア
⑨	昇進	・昇進の機能 ・トーナメント、アップ・オア・アウト ・キャリア・コンサーンズ
⑩	人事評価	・人事評価の目的 ・評価者、評価項目・方法 ・結果のフィードバック
⑪	賃金	・賃金決定要素 ・賃金水準・格差 ・賃金プロファイル ・福利厚生
⑫	職務設計と多様性管理	・職務設計の重要性 ・職務設計のポイント ・多様性管理
⑬	雇用システムの一貫性と多様性	・雇用システムの一貫性 ・雇用モデルの多様性
⑭	日本の雇用・人事制度の課題	・全体のまとめ ・最近の話題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
単一のテキストは用いない。各回の講義内容のレジュメ等は学習支援システムを用いて事前に配付する。

【参考書】
講義全体にわたる参考書として、次の文献がある。ただし、講義ではこれらの逐語的な解説をする予定はなく、各自が購入する必要もない。
①ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』（NTT出版、1997年）
②ラジアー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』（日本経済新聞出版社、2017年）
③ Baron, James N. and David M. Kreps. Strategic Human Resources（John Wiley and Sons, 1999）
なお、日本企業の人事管理に関する基本知識を得るには例えば次がある、
④今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）
ただし、本講義では現状がどうであるかよりも、その背後にあるロジックや変化をもたらす要因に力点を置く。

【成績評価の方法と基準】
全講義のうち出席が半分に満たない場合は、自動的に「未受講扱い」とする。成績評価は、授業参加（20%）、口頭報告（20%）、最終レポート（60%）に基づく。最終レポートの評価は、【授業の到達目標】で掲げた3つの目標（「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力）がどの程度達成されているかで判断する。

【学生の意見等からの気づき】
過去の経験では、内容が難しいとの評価が比較的多い。そこで、四則演算を超える数学は一切用いず、抽象的な概念は身近な実例を交えて説明するなどの努力をしているが、不明な点は講義中に（事後を含む）ぜひ積極的に質問して欲しい。率直で気軽な質問こそ、対面授業のメリットの一つと思っている。
また、本講義で採用する人事制度、人事管理に関する経済学的アプローチは、労働法、社会学、心理学などと比べ後発分野であり、単純明快ではあるが人間心理や社会関係の複雑性を軽視する傾向がある。しかし、「木を見るより森を見る」には有用であり、個別事案に関する判断でも有益な視点を提供すると考えている。この講義を通じて、それを伝えることができれば幸いである。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを授業外でのコミュニケーション・ツールとして多用するので、事前にシステムに授業登録するとともに（事務上の履修登録とはラグがあることに注意）、各自の連絡先メールアドレスも登録すること。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　労働経済学、人事制度論
＜研究テーマ＞　人事制度、労働市場の統計分析、国際比較。特に雇用形態、賃金格差など。
＜主要研究業績＞大学の「学術研究データベース」サイトを参照されたい。

【Outline (in English)】
First, students study basic theories such as microeconomics and social psychology which are required to design, practice and evaluate HR policies. Then, they learn various aspects of HR policies such as hiring, training, promotion, wages, performance evaluation, separation, and job design. Furthermore, they learn strategic or systematic views to synthesize the above various aspects which may well be complementary each other.
It is required that students make a presentation and submit a report on a topic which is relevant to this course.
The grade of this course depends on class participation (20%), the presentation (20%), and the report (60%).

MAN500F1 – 0071（経営学 / Management 500）

労働市場論

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから解明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。
現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものでは決してなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

【到達目標】
現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かおうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．第１回から第４回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。
３．第５回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（６時限目）と「演習」（７時限目）を行ないます。
４．「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
５．「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。
６．授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています（「授業計画」には、2024年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第２回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
＜取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外＞
○国際労働力移動に関わる諸制度と課題
○中小企業の人手不足とマッチング支援
○労働市場における都市と地方
○社会保障・社会福祉・所得保障と労働市場
○NPO・NGOセクターの労働市場
７．授業期間中、マッチングや採用、労働市場の諸制度に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第2回	ガイダンス(６時限目)・労働市場論の基礎①「労働市場とは」(７時限目)	ガイダンス－参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①－「労働市場」を捉える3つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第3回	労働市場論の基礎②「日本における人口・労働力人口・就業雇用機会」	日本における雇用・就業機会、総人口と生産年齢人口、労働供給制約社会
第4回	労働市場論の基礎③「日本の賃金」、労働市場の基礎④「労働市場をめぐる制度と政策」	労働市場論の基礎③－賃金の推移、男女間・年齢層別の賃金の違い 労働市場論の基礎④－職業安定行政、雇用保険制度、雇用対策法／雇用対策基本計画、積極的雇用政策、職業紹介・労働者派遣事業の自由化
第5回	日本の労働市場の現状と課題①「高卒・大卒の新卒労働市場」	新卒一括採用、就職協定、「就活」と「就活」エリート、エントリーシート、学校紹介制度、1人1社制、「売り手」市場の影響
第6回	日本の労働市場の現状と課題②「ホワイトカラー労働市場とマッチングビジネス、再就職支援ビジネス」	中途採用の増加、ミドル層ホワイトカラーの転職、リファラル採用／アルムナイ(alumni)、エンプロイヤビリティ、キャリア自律、リスキリング、職業紹介
第7回	日本の労働市場の現状と課題③「専門職の労働市場と専門性評価のための社会的制度・慣行」	様々な専門職のキャリアと労働市場、企業内プロフェッショナル、博士人材、日本の職業資格制度の特徴、技能検定制度
第8回	日本の労働市場の現状と課題④「女性就業者をめぐる労働市場」	M字カーブ、マミートラック、パートタイム労働、103 万円の壁・130 万円の壁、男女間賃金格差、女性の大学進学率、性別職域分離、統計的差別、男女雇用機会均等法、コース別採用、女性活躍推進法、アファーマティブ・アクション、ファミリー・フレンドリー、ワークライフバランス
第9回	日本の労働市場の現状と課題⑤「高齢化する労働市場」	高年齢者雇用安定法、年金制度改革、70歳までの就業確保措置、長澤運輸事件、出向・転籍、早期退職、アウトプレースメント、産業雇用安定センター、シルバー人材センター
第10回	日本の労働市場の現状と課題⑥「新たな就業形態と労働市場」	在宅勤務、テレワーク、副業／兼業／複業、フリーランス、クラウドワーク、雇用類似の働き方、プラットフォーム労働、ギグワーク／ギグエコノミー
第11回	日本の労働市場の現状と課題⑦「非正規化の進展と格差対策」	パートタイム労働者、社会保険の適用拡大、「柔軟な企業」モデル、「雇用ポートフォリオ」、非正規労働者の賃金／キャリア形成、正社員転換制度、無期転換ルール、同一労働・同一賃金

第12回	日本の労働市場の現状と課題⑧「技術の変化・進化・革新と労働市場」	IT化／IT化と仕事・職場、IoT／ビッグ・データ、AI／生成系AI、DX、RPA、HRテクノロジー、インダストリー4.0／Society5.0、デジタル人材、技術革新と人間の仕事
第13回	日本の労働市場の現状と課題⑨「労働市場のセーフティネット～生計・健康の維持とキャリア形成の支援」	雇用保険制度、雇用調整助成金、最低賃金制度、ベーシック・インカム、労災保険制度、過労死、労働時間規制、教育訓練給付制度、在職者訓練、離職者訓練、求職者支援制度、就職困難者に対する支援
第14回	日本の労働市場の現状と課題⑩「労働市場における「差別」の問題	採用差別、賃金差別、昇進・昇格差別、直接差別／間接差別、思想・信条による差別、ダイバーシティ・マネジメント、障がい者差別、雇用率制度、「合理的配慮」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】
毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】
1．各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。
（第2回以降。2点×出席回数）
2．第4回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。
（3点×提出回数）
3．出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。
（15点×担当教員の指名により授業内で報告した回数）
以上の３つの評価項目において
●「授業における学習姿勢」（上限26点）
●「演習時のレポート全提出」（上限30点）
●３回の「レポート報告」(45点)
を達成すれば、100点に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】
1．「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。
2．「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
③中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
④環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編[2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著),労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著[2019]『労働・職場調査ガイドブック』,中央経済社.
○藤本真・田中秀樹・清原悠[2022]『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』,労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀編著[2024]『日本企業の能力開発システム』,労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真[2012]「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動－サービス改善に向けた活動を規定する要因」,日本労働研究雑誌619号.
○藤本真[2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」,日本労働研究雑誌691号.
○藤本真[2019]「中小企業セクターで働くシニア労働者」,日本政策金融公庫論集44号.
○藤本真[2023]「日本のデジタル関連スキル養成政策の特徴と課題」,日本労働研究雑誌No.754.

【Outline (in English)】
【Outline】
The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.
In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to understand the followings:
(1) How the Japanese government has been involved in the Japanese labor market to date.
(2) How the labor market is changing as a result of government involvement.
(3)How the Japanese labor market will change with economic and social changes.
【Learning activities outside of classroom)】
Students are required to prepare a short report on the topics to be covered in each class meeting. Your required study time is at least two or three hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 45%and in class contribution ： 55%

MAN500F1 – 0072（経営学 / Management 500）

労使コミュニケーション論

呉　学殊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

【到達目標】
企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。
社会の望ましいあり方を考える力を得る。
There are 4 goals of this class as follows. The first is to gain the ability to think about the actual state of labor-management communication in a company.
The second is to to understand the contents of management resources in labor-management communication.
The third is to accurately recognize the ideal state of companies, labor unions, and countries. focused on labor-management communication,
The fourth is to gain the ability to think about the desirable way of society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業形式は、オンライン授業(リアルタイム配信型)を予定している。ただし、受講生の要望や状況によって変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（1）	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第2回	オリエンテーション（2）	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第3回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（1）	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第4回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（2）	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第5回	日本の労使コミュニケーションの方向性（1）	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第6回	日本の労使コミュニケーションの方向性（2）	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第7回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（1）	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第8回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（2）	労働組合結成効果を考える
第9回	パートタイマーの組織化と意見反映システム（1）	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第10回	パートタイマーの組織化と意見反映システム（2）	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ
第11回	CSRと企業別組合の役割（1）	CSRの内容と動向
第12回	CSRと企業別組合の役割（2）	企業別組合がCSRにおけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第13回	企業グループ連結経営と人事労務管理（1）	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第14回	企業グループ連結経営と人事労務管理（2）	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第15回	純粋持株会社企業グループの労使関係（1）	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第16回	純粋持株会社企業グループの労使関係（2）	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第17回	企業グループの労使関係の望ましい姿（1）	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第18回	企業グループの労使関係の望ましい姿（2）	企業グループの労使関係の望ましい姿についての討論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第19回	中小企業の労使コミュニケーション（1）	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第20回	中小企業の労使コミュニケーション（2）	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める
第21回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（1）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第22回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（2）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第23回	個別労働紛争の実態と解決（1）	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第24回	個別労働紛争の実態と解決（2）	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について討論を通じて理解度を高める
第25回	事例発表（1）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第26回	事例発表（2）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第27回	労使コミュニケーションの経営資源性（1）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第28回	労使コミュニケーションの経営資源性（2）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に発表する論文等を読むこと

To read the recommended papers for next week's class

【テキスト（教科書）】
呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価3500円。
労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

【参考書】
下記、講師の勤め先HP
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【成績評価の方法と基準】
授業発表内容（30％）
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30％）
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40％）
Content of class presentation (30%)
Contribution to class: Attendance, positive remarks (30%)
Report (based on own case study) (40%)

【学生の意見等からの気づき】
今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
ない。

【労使コミュニケーション論】
＜専門領域＞労使関係論、産業社会学
＜研究テーマ＞労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編
＜主要研究業績＞次のサイトをご参照
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【Outline (in English)】
This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

MAN500F1 – 0074（経営学 / Management 500）

組織行動論

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織という場における個人の態度や行動、人と人との関係性において生じるさまざまな問題・課題について、心理学、社会心理学、社会学等の学際的なアプローチを用いて理解を深め、解決・改善をはかるのが組織行動論である。この授業の目的は、このような組織行動論の基本的アプローチを理解し、組織行動に関わる主要概念・理論を学習した上で、組織の現場へ応用する力を身に着けていくことにある。

【到達目標】
①組織の現場で生じる「ひと」に関わる現象について、社会科学の概念・理論を通じて客観的に捉えられるようになる
②自らの職場における組織行動上の課題・問題を抽出し、関連する先行研究を参照し、課題・問題を分析（診断）できる
③②の分析（診断）結果をもとに、職場の「ひと」に関わる課題・問題の有効な改善・解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は以下3つの活動によって構成される
①　講義や専門文献の読解を通じて組織行動に関する基礎理論や応用を学ぶ
②　受講者自らの組織体験、他の受講生の体験の共有をはかり、これらに対する討議を通じて、現場での「ひと」に関わる現象を組織行動の視点から客観的に振り返る
③　受講者自らが所属する組織の「ひと」に関わる課題・問題について先行研究を参考にしつつ分析し、解決・改善策をレポートとしてまとめる
尚、授業で取り上げる専門文献は英語の文献であるが、授業（講義や発表、議論）、レポートは日本語を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは
2	社会科学のアプローチ	社会科学（特に社会心理学、社会学）のアプローチを理解する
3	リーダーシップ	リーダーシップの主要論文を取り上げ読解・議論
4	モチベーション１	モチベーションの主要論文を取り上げ読解・議論
5	モチベーション２	モチベーションの主要論文を取り上げ読解・議論
6	中間発表	これまでの学習を踏まえて自らの課題を分析
7	集団	集団メンバーとしての個人のふるまいについて考察
8	集団間関係	集団間関係についての主要論文を読解・議論
9	チーム	チームについての主要論文を読解・議論
10	集団からの影響	集団が個人に及ぼす影響について分析
11	集団と個人の関係性	集団と個人の関係性について主要論文を読解・議論
12	パワーと影響力	パワーと影響力について主要論文を読解・議論
13	組織変革	組織変革に関する主要論文を読解・議論
14	まとめ レポート発表	これまでの学習のまとめ 自らの職場の課題についての分析結果と改善策を提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 専門文献（論文）の読解：発表担当者を指定するので、担当者は資料を事前に準備する。担当者以外も事前に予習の上、分からない箇所、質問等を準備して討議に備える。
② 各回の学習内容を生かし、自らの組織課題の改善策を適宜修正する。
以上の準備や復習に必要な学習時間は４時間程度とする（但し、発表担当の場合はこれ以上の時間を要する）。

【テキスト（教科書）】
Classic Readings in Organizational Behavior, 4th edition by J. Stenven Ott, Sandra J. Parkes &Richard B. Simpson, Wadworth, 2008
(ISBN-10: 0495-09474-9 ISBN-13: 978-0-495-09474-6)
上記テキストの入手方法ついては、授業開始前にHoppiiを通じてのお知らせを参照のこと

【参考書】
（以下は参考書であり購入の必要はない）
『社会心理学キーワード』、山岸俊男(編)、有斐閣双書、2001年
『組織学説の偉人たち』、デリック・ピュー、デービッド・ヒクソン（著）、北野利信（訳）、有斐閣、2003年
『はじめての組織行動論』、西川真規子(著)、新世社、2021

【成績評価の方法と基準】
担当箇所の準備・発表・討議への参加(授業への貢献)　50点
レポート50点（レポートは、組織で生じる事象を客観的に捉えられているか、理論・概念を正確に理解・応用しメカニズムの解明がなされているか、メカニズムの解明に沿って実践可能な解決策が提示されているか、にて評価。）

【学生の意見等からの気づき】
専門知識の理解にとどまらず応用力が身につくという本授業のメリットをさらに強化していく。進行速度が速いとの指摘を受け、受講生の習熟度に合わせより丁寧な講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に授業支援システムを利用するので受講者は授業開始後速やかに授業支援システムへ登録のこと。

【その他の重要事項】
この授業は就業経験を有する社会人院生を対象とする。授業では受講生のこれまでの就労体験の振り返りや実際の就労現場での生きたデータの参照を必要とする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　組織行動論、経済社会学
＜研究テーマ＞　ジェンダーと労働、労働と生活の質、職務態度
＜主要研究業績＞
①“(Re)defining Care Workers as Knowledge Workers”, *Gender, Work and Organization*, Vol.18 No.1 January 2011
②『ケアワーク 支える力をどう育むか：スキル習得の仕組みとワークライフバランス』日本経済新聞出版社 2008年
③「感情労働とその評価」『大原社会問題研究所雑誌』2006年 No.567

【Outline (in English)】
Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the approaches of organizational behavior, by studying concepts and theories mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. Students will also acquire the knowledge and skills to analyse problems found in their organizations and to propose prospective solutions to the problems. Before/after each class meeting, students will be expected to read the relevant paper(s). Required self-study time will be more than four hours each class. Evaluation will be based on 1) class contribution, including text-based presentation and discussion (50%), and 2) interim and final reports presentation /submission (50%)

MAN500F1 – 0192（経営学 / Management 500）

組織マネジメント論

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、受講者自身が現代組織の管理課題について理解した上で、学術論文の輪読を通じて組織運営における理論と実践的なスキルを学びます。授業で取り上げる論文は、組織構造や文化、リーダーシップ、意思決定、モチベーション、チームマネジメントなど様々なテーマから選ばれるため、受講者は、組織が効果的に機能するための基本的な理論を体系的・学術的に学ぶことができます。さらに、組織の変革やイノベーション、グローバルな視点を取り入れたマネジメント方法を探求し、現代の組織が直面する課題やその対処への理解を深めることができます。

【到達目標】
本授業の履修を通して、受講者には以下の達成が期待されます：
(1) 良質な学術論文を読んで理解することにより、科学的根拠のある情報に基づいてテーマを理解することができる。
(2) ケーススタディやグループディスカッションを通じて、理論を実際の組織運営に応用する力を養うことができる。
(3) 組織を効果的に運営するための戦略的思考力や問題解決能力を高め、実務に役立つスキルを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は、2コマを1セットとする形式で進められます。初回授業で、現代組織の抱える課題について受講者自身の経験に基づいてブレインストーミングし、それらの解決の糸口となる情報が載せられている論文を輪読していきます。各論文には発表者が割り当てられ、毎回の授業でまず論文の内容に基づくプレゼンテーションがなされます。その後、論文の内容やそれがどのように現代組織の課題解決へと繋がり得るかについてディスカッションを行います。受講者の人数にもよりますが、1名の受講者につき、日本語と英語それぞれにおいて、少なくとも1本ずつのプレゼンテーションを準備することが求められます。また、最終授業では、初回授業でリスト化した現代組織の課題を解決に導く方法についてレビューします。
質問やフィードバックは、毎回の授業で適宜行うと共に、必要に応じてメールその他の方法でも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コースの概要、目的、評価基準について知る。また、組織マネジメントの基礎的な概念を確認する。
第2回	ブレインストーミング	現代組織が直面する課題についてリスト化し、その背景や要因についてディスカッションする。
第3回	日本語論文(1)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第4回	英語論文(1)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第5回	日本語論文(2)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第6回	英語論文(2)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第7回	日本語論文(3)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第8回	英語論文(3)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第9回	日本語論文(4)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第10回	英語論文(4)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第11回	日本語論文(5)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第12回	英語論文(5)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第13回	日本語論文(6)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第14回	英語論文(6)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第15回	日本語論文(7)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第16回	英語論文(7)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第17回	日本語論文(8)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第18回	英語論文(8)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第19回	日本語論文(9)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第20回	英語論文(9)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第21回	日本語論文(10)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第22回	英語論文(10)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第23回	日本語論文(11)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第24回	英語論文(11)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第25回	日本語論文(12)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第26回	英語論文(12)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第27回	リフレクション(1)	学びの振り返りと実務における活用方法の検討
第28回	リフレクション(2)	学びの振り返りと実務における活用方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、発表を割り当てられている受講者は、発表日までにプレゼンテーション資料も準備しておく必要があります。事前準備や復習、プレゼンテーション準備などのために授業外で必要な週ごとの平均時間は、2-3時間です。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】
授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション：30%
プレゼンテーション：40%
リフレクションエッセイ：30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等の際に学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞

国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about the theory and practical skills of organizational management through reading academic papers, after first gaining an understanding of the management issues facing modern organizations. The papers covered in classes are chosen from a variety of themes, including organizational structure and culture, leadership, decision-making, motivation, and team management, so students can learn the basic theories for ensuring that organizations function effectively in a systematic and academic way. Furthermore, by exploring organizational change and innovation, as well as management methods that incorporate a global perspective, students can deepen their understanding of the issues facing modern organizations and how to deal with them.

Students in this course are required to read the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class and understand the content. In addition, students who have been assigned to give a presentation are also required to prepare their presentation materials by the presentation date. The average weekly time required outside of class for preparation, review, presentation preparation, etc. is 2-3 hours.

In this course, grades will be based on the following indicators: discussion (30%), presentation (40%), reflection essay (30%).

MAN500F1 – 0193（経営学 / Management 500）

経営管理論

中西　善信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（仕事など）の実態を参照する。
また，適宜，経営学研究の考え方や方法についても学ぶ。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。
3.（分野が該当する場合）自身の研究テーマを，経営管理論の中に位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする（予定））。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に，どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第15回	組織デザイン	分業と調整
第16回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第17回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第18回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第19回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第20回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第21回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第22回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第23回	知識創造	アイディア創造と「場」
第24回	事例①	スリーエム社における知識創造
第25回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第26回	経営管理論の研究法①	面接調査とグラウンデッドセオリーアプローチ
第27回	経営管理論の研究法②	質的比較分析（QCA）
第28回	まとめ	講義全体の振り返りと，経営管理論の論文執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。
準備としては，配布資料および参考文献（教員が指示）を読み，要点をまとめておくこと。
復習としては，授業の論点を整理してまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
適宜参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営組織論，組織行動論
＜研究テーマ＞　組織学習，正統性，アカウンタビリティ
＜主要研究業績＞　ResearchMapを参照されたい。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN500F1 – 0079（経営学 / Management 500）

ワークショップ（マーケティング）

朝岡　崇史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では『VUCAの時代における企業ブランディングの役割』にフォーカスし、今まさに企業のマーケティング最前線で起きているドラマチックなゲームチェンジについて企業事例をベースに学びます。変化が激しく将来の予測が困難な時代、ブランド体験の刷新やファンづくり、事業成果向上とサステナビリティへの貢献の両立が企業経営に求められています。14週の授業を通して、企業ブランドの役割の変化について学びを深めると同時に、著名な実務家のゲスト講師10名をお招きして先端的なマーケティング理論や企業の具体的な取り組みについてお話をうかがいます。
また毎回の授業の後半では講義内容に関連したマーケティング課題について複数のグループでワークショップを行い、多視点でのディスカッションにより新鮮な学びや気づきを得ることを目指します。

【到達目標】
ブランド体験やサステナビリティ推進が重要視される時代における企業ブランディングの本質的な役割の変化について、深く、実践的に「学ぶ」とともに「自分ゴト」として「問い」を立てられるようになることを目標とします。具体的には、授業・ワークショップでは以下の３つのステップで企業ブランディングの役割の変化を丁寧に見ていきます。
＜ステップ①＞「ブランド体験とファンづくり」：デジタル時代に入るとSNSの普及などにより、企業とお客さまとの関係性に変化が生まれ、ブランド体験（CX）がブランド差別化のドライバーとなった。さらにSDGsが地球規模の課題として共有されるようになると、企業には環境・社会・経済の同時実現が求められるようになり、必然的に企業ブランドの役割は大きく変わった。
＜ステップ②＞「サステナビリティと企業ブランディング」：企業もこの変化を敏感に察知し、ブランドのファンづくりや事業の持続可能性を前提に「人間の安全保障」を強く打ち出すことで企業価値を高め、顧客をはじめとするステークホルダーからの支持を取り付けるアプローチを行うようになった。
＜ステップ③＞「企業ブランディングのこれから」：ブランド体験やサステナビリティ推進を事業経営の基軸に置くアプローチは国/地域や業種/業態の垣根を超えて、数多くの有力企業に採用され始めている。先端的な企業の取り組みには顧客体験を重視する組織文化やパーパスと密接に結びついた独自のアプローチがあり、卓越した商品開発アプローチや事業ドメインの刷新（「なりわい」革新）に活かされている。
「VUCAの時代の企業ブランディング」のマーケティング理論と具体的な先端企業の取り組みをセットで体得し、多視点でのワークショップを通じて自分の考えを周囲に共有・プレゼンできるようになることを授業の最終ゴールとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
秋学期の金曜日の夕方から、朝岡もしくはゲスト講師10名による講義と質疑応答（第6限）＋ワークショップ（第7限）と2時限連続の授業となります。今年度（2025年）も14週（回）の授業すべてを対面方式@大学院棟201教室での実施とします。
業務都合で対面で授業・ワークショップに参加できない受講生のために、Zoomでのリモート配信（リアルタイム）を行なっています。また、授業の復習とレポート作成のために、講義内容のクラウド録画の案内もしています。
また授業では、経営学研究科以外の受講生の履修登録や、聴講によるスポット参加も積極的に歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜イントロダクション＞ブランド戦略策定プロセス（朝岡）	授業のテーマである『VUCAの時代における企業ブランディングの役割』や学習目標の共有
第2回	ワークショップ	VUCAの時代の企業ブランディングの役割に関するグループワーク
第3回	＜ブランド体験とファンづくり＞SNS時代における「動詞のブランディング」（朝岡）	ブランド体験や顧客との共創が重視されるマーケティング
第4回	ワークショップ	ブランド体験や顧客との共創に関するグループワーク
第5回	＜ブランド体験とファンづくり＞ブランド人格（ゲスト講師①：大広 取締役執行役員 鬼木美和先生）	顧客の期待を集め、成長や変革を続けられる企業が持つブランド人格
第6回	ワークショップ	企業のブランド人格の効用に関するグループワーク
第7回	＜ブランド体験とファンづくり＞企業事例：ヤッホーブルーイング（ゲスト講師②：ヤッホーブルーイング よなよなピースラボ長 佐藤潤様）	ヤッホーブルーイングにおけるファンづくり活動
第8回	ワークショップ	ヤッホーブルーイングにおけるファンづくりに関するグループワーク
第9回	＜ブランド体験とファンづくり＞企業事例：資生堂（ゲスト講師③：資生堂ジャパン 執行役員 笹間靖彦様）	資生堂におけるデジタルを活用したファンづくり
第10回	ワークショップ	資生堂におけるファンづくりに関するグループワーク
第11回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業が描くSDGsストーリー（ゲスト講師④：オレンジ・アンド・パートナーズ 大屋洋子様）	SDGsストーリー構築の重要性
第12回	ワークショップ	企業のSDGsストーリー構築の重要性についてのグループワーク
第13回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞組織文化を変革する社内向けパーパス浸透（ゲスト講師⑤：電通 シニアコンサルティングディレクター 中町直太様）	パーパスで組織文化を刷新するインターナルブランディング
第14回	ワークショップ	パーパスで組織文化を刷新するインターナルブランディングに関するグループワーク

第15回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業事例：「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営とは（ゲスト講師⑥：サントリーHD サステナブル推進部長 北村暢康様）	「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営
第16回	ワークショップ	サントリーのサステナビリティ経営に関するグループワーク
第17回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞CESに見る企業ブランディングの役割の変化（朝岡）	過去10年間のCESにおける企業ブランディングの役割の変化
第18回	ワークショップ	CESにおける企業ブランディングの役割の変化に関するグループワーク
第19回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業事例：イオンの基本理念とサステナビリティ経営（ゲスト講師⑦：イオンリテール 執行役員 間渕和人様）	イオンの基本理念とサステナビリティ経営
第20回	ワークショップ	イオンの基本理念とサステナビリティ経営に関するグループワーク
第21回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業事例：地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディング（ゲスト講師⑧：東レ 常任理事 野中利幸様）	地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディング
第22回	ワークショップ	地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディングに関するグループワーク
第23回	＜企業ブランドのこれから＞企業事例：サントリーの商品開発（ゲスト講師⑨：サントリー チーフスペシャリスト 村上悦郎様）	サントリーのヒット商品づくりの背景にある「ものづくりの志」や独自メソッド
第24回	ワークショップ	サントリーの商品開発に関するワークショップ
第25回	＜企業ブランディングのこれから＞インダストリアルイノベーションと企業ブランディング（ゲスト講師⑩：京都先端科学大学大学院 森一彦様）	ブランドは企業の認知系システムから価値共創の活動系システムへ
第26回	ワークショップ	価値共創の活動系システムとしての企業ブランディングに関するワークショップ
第27回	最終まとめ（朝岡）	授業の振り返りと総括（受講生による授業内容のプレゼンテーション）
第28回	最終まとめ（朝岡）	CES2026速報レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備や復習に各々1時間ずつ程度の自主学習をお願いします。
・毎回の授業終了後に全体の振り返り・学び・気づきを個人レポートとして提出（PPT 形式のフォーマットを使用。A4用紙で1枚程度、授業終了後1週間以内）していただきます。
・毎回の講義まとめの担当を受講生に割り振り、コースの最終日にまとめの報告会（プレゼンテーション）を行っていただきます（プレゼンテーション資料は後日レポートとして提出いただきます）。

【テキスト（教科書）】
D. アーカーの『ブランド論』（プレジデント社、2014年）と『なりわい革新 事業×組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022年）の2冊は初回の授業で受講生に無償配布予定です。

【参考書】
・『ジョブ理論』クレイトン・クリステンセンほか著、ハーパー・コリンズ・ジャパン、2017年
・『両利きの経営』チャールズ・オライリーほか著、東洋経済新報社、2019年
・『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』デビット・ティース著、ダイヤモンド社、2013年
・『ワイズカンパニー』野中郁次郎・竹内弘著、東洋経済新報社、2020年
・『ビジョナリーカンパニー』ジム・コリンズほか著、日経BP 出版センター、1995年
・『ドーナツ経済学が世界を救う』ケイト・ラワース著、河出書房新社、2018年
・『SXの時代』坂野俊哉、磯貝友紀著、日経BP、2021年

【成績評価の方法と基準】
授業後のレポート提出8回以上およびグループワーク/グループプレゼンの参加を前提にして授業レポート50％、ワークショップでのグループ別報告会・最終まとめのプレゼンテーションの成果30％、ディスカッションや質疑応答など授業へ貢献度20％の比率で評価します。
業務都合でリアル対面で出席できない場合、受講生からの事前の申し出があれば、Zoomによるオンライン参加で出席扱いとします。リアルタイムでの参加ができない場合でも後日のZoom録画視聴により授業レポート提出があれば、成績評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
学びや気づきを深めるため、ゲスト講師との質疑応答やディスカッションの時間を毎回30分程度設けます。ワークショップのグループ分けは3～4回変更し、異なるメンバーとディスカッションできるように配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
授業へは受講生各自、オンライン会議システム（Zoom）への接続が可能なノートPCの持参をお願いします。7限目のワークショップではパワーポイント形式のテンプレートにグループワークの成果をまとめていただき、代表者にプレゼンテーションしていただきます。

【その他の重要事項】
事業経営のスピードがますます速まる中、経験則に裏打ちされた絶対的な正解はありません。突破力のある仮説づくりのために、的確な「問い」を立てることが重要になります。
受講生の皆さんには、VUCAの時代における企業のブランディングのあり方について、最適解の可能性を探るための積極的な提言や議論への関与を期待します。

【担当教員の専門分野等】
客員教授　朝岡崇史（あさおかたかし）
ブランド戦略とカスタマーエクスペリエンス（CX）戦略を専門とするコンサルタント、ファシリテーター。

【経歴】
（株）電通のコンサルティング室長を経て、2017年に（株）ディライトデザインを起業。北京伝媒大学広告学院 客員教授（2013年）、日本マーケティング協会マーケティングマスターコース・マイスター（2011年～現在）、新宿ビジネスプランコンテスト・アクティベーター（2019年～現在）などを歴任。

【研究業績】
『エクスペリンス・ドリブン・マーケティング』（ファーストプレス、2014年）
『IoT時代のエクスペリエンスデザイン』（ファーストプレス、2016年）
『デジタルマーケティング成功に導く10の法則』（徳間書店　共著、2017年）

『なりわい革新 事業×組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（宣伝会議　共著　2022年）

【Outline (in English)】

The class will focus on “The Role of Corporate Branding in the Era of VUCA” and learn about the dramatic game change that is happening right now on the frontlines of corporate marketing, based on corporate case studies.

In an era of rapid change and unpredictability, corporate management is required to renew the brand experience, create fans, improve business results, and contribute to sustainability. 14 weeks of classes will deepen learning about the changing role of corporate branding, and 10 guest lecturers will be invited who are prominent practitioners in the field of corporate branding. In the second half of each class, students will learn about the content of the lectures.

In the latter half of each class, multiple group workshops will be held to discuss marketing issues related to the lecture content, with the aim of gaining fresh learning and insights through discussion from multiple perspectives.

Please allow about one hour each for preparation and review. After each class, you will be required to submit an individual report (using PPT format, about 1 sheet of A4 paper, within 1 week after the end of class) on your overall reflections, learning, and findings.

On the assumption that students submit at least 8 reports after class and participate in group work/presentations, they will be evaluated based on the following ratios: 50%on class reports, 30%on the results of group debriefings and final presentations at workshops, and 20%on their contribution to the class through discussions, Q&A sessions, and other activities.

If a student is unable to attend the class in person due to work-related reasons, attendance will be counted as online participation via Zoom if requested in advance by the student. Even if you are unable to participate in class in real time, you will be eligible for a grade if you submit a class report by watching a Zoom recording at a later date.

MAN500F1 – 0080（経営学 / Management 500）

マーケティング論

岡田　庄生

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、マーケティングの基礎的な考え方やフレームを幅広く学ぶとともに、最新のマーケティング理論について学びます。さらに、実際の企業ケースを用いた実践的な分析や、マーケティングに関する最新の論文にも触れることで、理論と実践の学習を深めていきます。また、受講生による発表や議論などを通じて、複眼的、多面的に思考する能力を高めます。

【到達目標】
①マーケティングの基本的な用語やフレームについて、実際の事例とともに、自分の言葉で語れるようになる
②マーケティングの理論をもとに実務を分析し、マーケティング戦略上の課題や打ち手などが検討できるようになる
③教科書や論文の精読や発表を通じて、マーケティング分野の研究動向や研究方法について知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面です。2時限続きで14回開講します。
①授業前課題：受講生は、自身が担当する回の発表の準備を行います。発表内容は、授業で扱うテーマに関連した企業分析や、関連論文のレビューを想定しています。担当分けは1回目の授業で行いますので、必ず出席してください
②授業当日：講師より、教科書の該当章に関するレクチャーを行います。授業の後半では、担当の受講生による発表およびクラス全員でのディスカッションを行います
③授業後：教科書の該当章を改めて読み返し、知識を定着させます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回①	授業ガイダンス	授業の進め方や評価方法の説明、担当決め
第1回②	第1章：マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングプロセス
第2回①	第2章：企業とマーケティング戦略	マーケティング分析、マーケティングミックス
第2回②	発表・ディスカッション	具体的な企業を対象としたマーケティング分析の実践
第3回①	第3章：競争優位の創造	競合他社分析、競争志向と顧客志向
第3回②	発表・ディスカッション	具体的な企業を対象とした競合他社分析の実践
第4回①	第4章：マーケティングの基本枠組み	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング
第4回②	発表・ディスカッション	具体的な企業を対象としたSTP分析の実践
第5回①	第5章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト	マーケティング情報システム、マーケティングリサーチ
第5回②	発表・ディスカッション	具体的な企業を対象としたマーケティングリサーチ分析の実践
第6回①	第6章：消費者の購買行動	消費者行動モデル、購買意思決定プロセス
第6回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第7回①	第7章：製品、サービス、ブランド	製品分類、サービスプロフィットチェーン、ブランドエクイティ
第7回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第8回①	第8章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略	新製品開発プロセス、製品ライフサイクル
第8回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第9回①	第9章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供	垂直的/水平的マーケティングシステム、サプライ・チェーン・マネジメント
第9回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第10回①	第10章：価格設定	価格設定プロセス、価格調整戦略
第 10 回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第11回①	第11章：コミュニケーションによる顧客価値の説得	コミュニケーション・ミックス、コミュニケーション開発プロセス
第11回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第12回①	第12章：広告とパブリック・リレーションズ/第13章：人的販売と販売促進	広告プロセス、メディアミックス、PR、セールス・フォース組織
第12回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第13回①	第14章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	ダイレクトマーケティングの形態、デジタルマーケティング
第13回②	発表・ディスカッション	関連する論文のレビュー
第14回①	第15章　マーケティングと社会的責任	CSV、グリーンウォッシュ、マーケティング倫理
第14回②	発表・ディスカッション	具体的な企業を対象とした社会的責任に関する分析の実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前に読み、内容を理解しておいてください。また、自身が担当回の場合、講師が提示する課題や論文レビューに関するプレゼンテーション資料を事前に提出する必要があります。課題の詳細や論文の探し方については授業の中で説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)

【参考書】
フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ著、恩藏直人監修・翻訳 『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版(2022年)
恩蔵直人、 坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】
①授業中の議論への貢献：50%
②担当会の発表：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ユーザー・イノベーション、広告コミュニケーション
＜研究テーマ＞ユーザー発案者効果
＜主要研究業績＞
岡田庄生(2024)『ユーザー発案者効果 ーユーザー創造製品のマーケティング・コミュニケーション戦略ー』碩学社
岡田庄生(2024)「制御焦点の違いがユーザー創造製品の発案者効果に与える影響」『マーケティング・ジャーナル』43(3), 32-43.
岡田庄生(2020)「ユーザー創造製品の情報表示が消費者の製品選択に与える影響：新奇性と有用性の媒介効果に着目して」『広告科学』67, 1-19.

【Outline (in English)】
Course outline
This course provides a broad understanding of fundamental marketing concepts and frameworks, while also introducing the latest marketing theories. Students will deepen their knowledge by analyzing real-world business cases and exploring recent academic papers on marketing. Additionally, through student presentations and discussions, the course aims to cultivate critical and multifaceted thinking skills.
Learning Objectives
-Be able to explain fundamental marketing terms and frameworks in your own words, using real-world examples.
-Develop the ability to analyze business practices based on marketing theories and examine strategic challenges and solutions in marketing.
-Gain an understanding of research trends and methodologies in the field of marketing through in-depth reading of textbooks and academic papers, as well as through presentations.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
-Contribution to in-class discussions: 50%
-Presentation on assigned topics: 50%

MAN500F1 – 0081（経営学 / Management 500）

消費者行動論

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。
履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

【到達目標】
消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識とこれまでの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけではなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。
第1回～第2回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第3回～第4回は、マーケティングにおける消費者行動の位置づけを確認します。第5回～第6回は、消費者行動論の歴史的な展開を説明します。第7回～第10回は、消費者行動のモデルについて説明します。第11回～第15回は、具体的な情報処理とその規定要因について説明します。第16回～第18回は、消費者とブランドとの関係について説明します。第19回～第24回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングについて理解します。第25回～第26回は、修士論文作成のための準備をします。第27回は、授業の総括を行います。第28回は、授業の理解度を確認する最終試験を行い、終了後に解説とフィードバックを行います。
毎回、資料やケースを配布する予定です。
課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。
授業形式は原則として対面を予定しておりますが、オンラインの回も予定しております。オンラインの場合には事前にご案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第2回	消費者行動論の概説	当科目の体系的な解説をします。
第3回	消費者行動とマーケティング1	マーケティングにおける消費者行動の位置づけを説明します。
第4回	消費者行動とマーケティング2	消費者行動のマーケティングへの応用を説明します。
第5回	消費者行動研究の歴史1	消費者行動研究の前史について説明します。
第6回	消費者行動研究の歴史2	行動科学的な消費者行動研究の展開を説明します。
第7回	消費者行動のモデル1	消費者行動モデルの概要について解説します。
第8回	消費者行動のモデル2	刺激－反応モデルと態度モデルについて説明します。
第9回	消費者情報処理モデル1	消費者情報処理モデルについて、その概要を説明します。
第10回	消費者情報処理モデル2	消費者情報処理モデルのメカニズムについて解説します。
第11回	情報の探索	内部探索と外部探索とこれらの規定要因についての説明をします。
第12回	情報の解釈	情報の解釈メカニズムについて説明します。
第13回	情報の評価	評価方略について説明します。
第14回	情報処理の規定要因1	規定要因である動機づけについて解説します。
第15回	情報処理の規定要因2	規定要因である能力について解説します。
第16回	消費者とブランド1	ブランドについての概説をします。
第17回	消費者とブランド2	ブランド構築とその事例について詳解します。
第18回	消費者とブランド3	ブランドのアイデンティティとイメージについて説明します。
第19回	ケース討議1：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第20回	ケース討議1：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第21回	ケース討議2：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第22回	ケース討議2：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第23回	ケース討議3：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第24回	ケース討議3：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第25回	修士論文作成に向けて	作成に向けた詳細な指導をします。
第26回	論文購読	消費者行動関連の論文を購読します。
第27回	講義全体のまとめ	これまでの授業内容の総括をします。
第28回	最終試験	解説とフィードバックをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とします。
初回に配布する文献リストに基づき、第18回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第19回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜案内します。

【参考書】
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）
『消費者行動の知識』（青木幸弘、日経文庫、2010年）
『消費者行動論』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士、千倉書房、2005年）

【成績評価の方法と基準】
ケース討議への貢献（30％）
　ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。
最終試験（70％）
　最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
資料の投影に気をつけながら進める予定です。
音量と画像の鮮明度に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/7000001081

【Outline (in English)】
This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy. To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

MAN500F1 – 0082（経営学 / Management 500）

マーケティング・リサーチ論

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、マーケティング・リサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。
本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】
到達目標としては、以下の３点に整理できる。
①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
受講生が理解しやすよう、以下の工夫をして、授業を進める。
定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、テキストにそって無料版の「RStudio」（統計分析ソフト「R」を便利につかえるアプリ）を使ったミニ演習を多く実施する。
定性調査も、デプスインタビューの仕方を説明した上で、受講生同士で、インタビューを相互に実施する。
レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。
大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜマーケターに統計分析が必要なのか？ データは平均だけでなく「ばらつき」も大事	**記述統計と標準偏差**（テキスト序章-1章） ・RStudioの操作、ミニ演習 ・パソコンを持参のこと（次週以降も同様）
第2回	2つの変数の関係は強い、弱い？	**相関分析と連関分析**（テキスト2章） ・RStudioを使ったミニ演習
第3回	その「仮説」はマーケティングに使えるか？ 関係性をマーケティングに活かす	**推測統計と仮説検定、無相関検定**（テキスト3章-4章） ・RStudioを使ったミニ演習
第4回	クロス集計表から効果をあぶり出せ！ その平均値の差に意味があるか、検証する	**カイ二乗検定と*t*検定**（テキスト5章-6章） ・RStudioを使ったミニ演習
第5回	ある変数から目的の変数の予測モデルをつくる 複数の変数の影響を考慮したモデルを使いこなせ	**単回帰分析と重回帰分析**（テキスト7章-8章） ・RStudioを使ったミニ演習
第6回	実験に必須の手法を学ぶ！ 潜在変数を探し出す	**分散分析と因子分析** ・RStudioを使ったミニ演習
第7回	最終レポートのイメージをつかむ	**最終レポートの説明** ・レポート例を提示
第8回	インタビューから仮説を立てる	**仮説設定とデプスインタビュー** ・デプスインタビューのミニ演習
第9回	第1回中間レポートの報告	**インタビューと仮説の中間報告**
第10回	適切なアンケートの作成の仕方とサンプリングを学ぶ	**アンケートとサンプリング** ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第11回	第2回中間レポートの報告	**アンケートとサンプリングの中間報告**
第12回	リサーチの実際	**東浦和宏氏講演** ・同氏は、関西学院大学経営戦略研究科教授。P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を実践 ・講演と質疑
第13回	早期最終レポートの報告	**早期最終報告** ・早期最終レポートの提出・報告
第14回	最終レポートの報告	**最終報告** ・最終レポートの提出・報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習および、データ収集、最終レポートの作成を行うこと。毎週２時間程度は必要となる。

【テキスト（教科書）】
西川英彦・佐保圭(2025)『文系マーケターのためのゼロから使える統計分析』日経BP
＊出版が間に合わない場合は、資料を学習支援システムにアップする

【参考書】
①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
②山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
③恩藏直人・冨田健司(編)(2022)『1からのマーケティング分析 (第2版)』碩学舎
④南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎』有斐閣
⑤マルホトラ(2006)『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館
⑥ベルク・フィッシャー・コジネッツ(2016)『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎
⑦豊田秀樹(編)(2012)『回帰分析入門 －Rで学ぶ最新データ解析－』東京書籍
⑧阿部幸大(2024)『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社

【成績評価の方法と基準】
・中間レポート・報告（10点×2回=20点）、講義や演習での発言・議論参加（50点）、最終レポートおよび報告（30点）
・早期最終レポートの報告者には、全員10点の加点あり（早期レポート制度）。
・評価対象は講義回数の3分の2以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は２回で１回の欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】
①受講生の理解に差があるため、基礎編と実践編、より深くに分けて、説明を行う。
②実践編では、サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすくする。
③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進めらるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。

④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、無料版アプリの「RStudio」を使うために、学習支援システムの資料を参考に、同ソフトと無料統計分析ソフトの「R」を、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

＜研究テーマ＞

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

＜主要研究業績＞

著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。

＜研究室サイト＞

http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】

Currently, knowledge of marketing research can be said to be essential in practice and research.
In this lesson, to make it easier for graduate students to learn about marketing and research for the first time, they learn fundamentals and methods of marketing research systematically and practically to actually set up hypotheses based on qualitative surveys such as interviews, and test the hypothesis based on quantitative surveys such as questionnaire preparation and various data, after understanding the methodology of the qualitative survey and quantitative survey.

The learning objectives can be summarized in the following three points.
① To be able to acquire skills in qualitative research such as interviews, and to be able to actually analyze and discuss the results.
② To acquire skills in quantitative research, including questionnaire creation and various data analysis, and to be able to analyze and discuss the results.
③ To be able to test hypotheses using multiple quantitative surveys.

Students will be required to prepare and review for class, collect data, and prepare a final report outside of class. About 2 hours are required each week.

Grading will be as follows。
· Mid-term report and report (10 points x 2 times = 20 points), comments and participation in discussions in lectures and exercises (50 points), and final report and report (30 points).
· All students who report the final report early will receive points (early report system).
· Attendance of at least two-thirds of the lectures is the minimum requirement for evaluation. Two tardies will count as one absence.

MAN500F1 – 0083（経営学 / Management 500）

製品開発論

田路　則子

備考（履修条件等）：**奇数年に開講**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハイテク産業における製品開発のケース・スタディを通じて、戦略的意思決定とビジネスモデル構築の能力を磨く。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である

【到達目標】
具体的な目標は次のとおりである。
①イノベーション概念の理解
②イノベーションに成功するマネジメントの考察
③ビジネスプラットフォーム構築の理解
④産業別の製品開発プロセスの理解
⑤スタートアップと大企業のアライアンス
⑥ハイテク・スタートアップの起業プロセス

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ケース・スタディでは、事業ドメインの設定、研究開発や製品企画、顧客獲得、上市、事業拡大というビジネスの流れを追いながら、どのように競合と差別化して顧客ターゲットを設定し、内部の組織編成や外部との連携（サプライヤーやディストリビューター）を行ったかを明らかにする。
ハイテク産業では、技術よりもむしろ、戦略およびマーケティングが競争優位性を決定していることがケース・スタディによって確認できるだろう。
ケースは、カメラ、時計のような古典的な事例と、スマートフォン、空調機、医療機器等の今日的事例まで、時代と業界を横断して用意している。製品や業界の理解を深めるために、視覚教材を極力使用する。
事前にケースを配布するので、質問に対する自分なりの考察を用意してメモを作成しておく。講義では、詳しい事例の説明とVTRによって理解を深めてから、グループで議論を行ってまとめを発表する。さらに、全員で議論を深めてから、最後に講師が総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ラディカル・イノベーションと 破壊的イノベーション	Kodak(カメラ)
2	コモディティ化	セイコー(時計)
3	非コモディティ化（ブランドの構築)	カシオ(時計)
4	技術蓄積	NKK（スイッチ）
5	組織変革と事業開発	テルモ（医療機器）
6	両利きの経営	不二製油（食品素材）
7	ビジネス・プラットフォームの構築1	シャープ (液晶)、ソニー (撮像素子)
8	ビジネス・プラットフォームの構築2	Apple(携帯電話）他
9	グローバル化-電子機器	ダイキン工業（空調機）
10	グローバル化-素材産業	積水化学工業（フロントガラス用中間膜）
11	製品アーキテクチャー	ASML/ニコン（半導体露光機） パナソニック（半導体デバイス）
12	オープン・イノベーションとスタートアップ	米国、スウェーデン、日本の取り組み
13	日米のハイテク・スタートアップ1	グラモ（IOT) Bizter Mobile(セキュリティシステム）
14	日米のハイテク・スタートアップ2	セルシード（創薬） Tercica (創薬）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にケースを読み、課題を期限までに提出する。予習と復習に最大各2時間を要する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
②『オープン&クローズ戦略』小川紘一,翔泳社,2014年
③『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年
④『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【成績評価の方法と基準】
出席含む平常点、議論への参加、毎回の小課題を3分の1ずつで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
概念の理解の時間、グループ討議の時間、概念を使った事例の掘り下げの時間のメリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【専門領域】
経営戦略、技術経営

【研究テーマ】
イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの起業プロセス」
「ハイテク産業集積のエコシステム」

【主要業績】
①「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.②「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.③「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.④『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年.⑤「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年.⑥Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014.⑦「WEBビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774.2011年.⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年.⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年.⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年.

【Outline (in English)】
[Learning Objectives]Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research &development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.
[Learning activities outside of classroom] Beforehand, students have to read business cases and make memos as assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
[Grading Criteria/policy] Attendance (1/3), assignment (1/3), discussion (1/3)

MAN500F1 – 0087（経営学 / Management 500）

流通システム論

木島　豊希

備考（履修条件等）：**奇数年に開講**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、流通・商業の歴史的な動態と今日的課題について理解します。
流通・商業に関する文献（指定する教科書）を用いて、受講生の報告形式で実施します。
受講生は、事前に決定した文献の内容をパワーポイントに整理して報告し、ディスカッションを通じて学びます。
加えて、授業を通して学んだことを活用した課題を発表する機会（課題発表会）を設け、応用力を身につけます。

【到達目標】
流通・商業の歴史的な動態と今日的課題を説明できるようになる。
流通・商業に関する一般知識を応用できるようになる。
流通・商業に関する学術論文のテーマを読み解くできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は月曜日の6・7限に2限続きで14週（28回）実施します。
第1回は、授業の概要等を説明するとともに、次週以降の報告担当者を決めますので必ず出席してください。
第3回以降は、主に受講生に報告していただきます。
最終の第27-28回には課題の発表会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。報告担当を決定する。
第2回	オリエンテーション	流通の実態・研究を学ぶ
第3回	流通と商業のはたらき	流通の役割を学ぶ。
第4回	流通と商業のはたらき	流通の役割について議論する。
第5回	発展する商業	商業の歴史を学ぶ。
第6回	発展する商業	商業の歴史について議論する。
第7回	流通・商業とそれを取り巻く環境	流通・商業の外部環境を学ぶ。
第8回	流通・商業とそれを取り巻く環境	流通・商業の外部環境について議論する。
第9回	システム革新と流通・商業	情報・物流システムを学ぶ。
第10回	システム革新と流通・商業	情報・物流システムについて議論する。
第11回	進展する流通チャネルの再編成	大規模小売業組織主導の流通再編成を学ぶ。
第12回	進展する流通チャネルの再編成	大規模小売業組織主導の流通再編成について議論する。
第13回	SCM	SCMを学ぶ。
第14回	SCM	SCMについて議論する。
第15回	激変する小売業	小売業の構造変化を学ぶ。
第16回	激変する小売業	小売業の構造変化について議論する。
第17回	存在意義を問われている卸売業	卸売業の構造変化を学ぶ。
第18回	存在意義を問われている卸売業	卸売業の構造変化について議論する。
第19回	時空間を超えるニュービジネス	ネット小売市場を学ぶ。
第20回	時空間を超えるニュービジネス	ネット小売市場について議論する。
第21回	流通活動空間の広がり	流通の国際化を学ぶ。
第22回	流通活動空間の広がり	流通の国際化について議論する。
第23回	流通・商業と社会	流通・商業と地球環境問題・まちづくり・公正競争確保の関係を学ぶ。
第24回	流通・商業と社会	流通・商業と地球環境問題・まちづくり・公正競争確保の関係について議論する。
第25回	総括	流通・商業の全体像を再確認し歴史的な動態と今日的課題を学ぶ。
第26回	総括	流通・商業の全体像を再確認し歴史的な動態と今日的課題について議論する。
第27回	課題発表	授業を通して学んだことを活用した課題を発表する。
第28回	課題発表	授業を通して学んだことを活用した課題の発表を受けて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習として、報告担当者は報告用のパワーポイント資料を作成し、報告担当者以外は教科書等を読んで当日のディスカッションに備えてください。
授業後は、文献とパワーポイント資料をもとに復習してください。

【テキスト（教科書）】
原田英生・向山雅夫・渡辺達朗（2021）『ベーシック流通と商業 – 現実から学ぶ理論と仕組み　第3版』有斐閣。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
担当する報告内容：40％
ディスカッションへの参加度：30％
課題発表会の内容：30％

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンなど授業中に情報検索できる機器を準備してください。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/kijima-toyoki

【Outline (in English)】
In this class, students will understand the historical dynamics of distribution and commerce centered on the retail industry and the themes of academic research.
The goals of this course are to explain the historical dynamics of distribution and commerce.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following report content: 40%、discussion participation: 30%、Contents of the assignment presentation: 30%

MAN500F1 – 0107（経営学 / Management 500）

経営学基礎

福島　英史

備考（履修条件等）：**昼間「経営学基礎論」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得し，論文の読み方（基本的な構成・各研究の問題設定・方法・結論・研究間の関係）を学ぶことにあります。経営学は幅広い研究領域を持ちますが，本年度は，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマに据えます。

【到達目標】
一般に，修士課程学生は大きな問題意識・志はあるものの，論文・リサーチペーパーとしてのフォーカス・問題設定に時間がかかる傾向にあると思われます。そこで先人達の問題設定と答えを見ていくことで，自分の論文の位置づけ，論文構成イメージを構築できることが到達目標です。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では研究の基礎となる文献（英語または日本語の論文等）の輪読を行います。受講者全員が各回文献を読んで、質疑や議論に参加できる準備をお手元にします。ただし自身のレポート担当回には、レジュメを授業開始前迄にHoppiiで公開・共有していただきます。レジュメには内容とディスカッション・ポイントをまとめていただき，授業ではこれらについて議論します。概念と現実の往復を念頭に，現象面の関心事にひき付けて理解し，議論します。教員のコメントや解説が行われます。国内外の学会誌から定評ある論文を読みたいと考えます。以下に，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマとした授業計画を示します。受講生の関心と学力に応じて調整します。各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。文献・論文は受講者の関心も聞いた上で決定したいため，第１回目の授業に必ず参加して下さい。第１回目に参加できなかったが履修意思がある場合は、第２回目当日迄にご相談ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題意識の共有と文献の選定
第2回	新規事業開発	内部開発と買収
第3回	ドミナントロジック	経営層の信念
第4回	多角化戦略	多様化と収益性
第5回	アンビデクスタリティ	イノベーションのための組織
第6回	探索と活用	組織学習
第7回	垂直統合と水平分業	事業の範囲
第8回	イノベーションとステークホルダー	資源依存アプローチ
第9回	イノベーションと認知	資源能力と分業構造
第10回	イノベーションと補完的資産	市場地位への影響
第11回	資源戦略論・動的企業能力	広義のシナジー効果
第12回	オープンイノベーション	ＣＶＣ・スピンオフ
第13回	事業プラットフォーム	多面市場・競争と協調
第14回	まとめ，最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論する論文を事前に読み，レジュメにおいて，要約を書き，疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に4時間・復習に1時間を要します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。教材として論文を輪読します。

【参考書】
イノベーションと戦略に関する基本的な知識を補いたい場合は，以下のテキストをご参照下さい。
Grant, R. M. 2016. Contemporary Strategy Analysis, 9th ed., Wiley.（加瀬公男監訳『現代戦略分析第２版』中央経済社, 2019）
Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（青島 矢一監修『技術とイノベーションの戦略的マネジメント上下』翔泳社, 2007）

【成績評価の方法と基準】
レジュメの評価（35％），授業中の発言（35％），最終課題（30％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時，ディスカッション時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.comへご相談ください.

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009. ・"The Network Structure of Open Innovation and the Creativity in the Semiconductor Manufacturing Equipment Industry," co-author, IIAI-AAI, 2023, IEEE.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of innovation and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of innovation and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on regular assignments (35%), in-class contribution (35%) and semester-end assignment (30%).

MAN500F1 – 0108（経営学 / Management 500）

財務会計基礎

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では財務諸表の「作り方」と「使い方」を体系的に学習する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。

本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、会社が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【授業の構成】

本授業は、対面授業とYouTubeによる授業録画配信（オンデマンド型授業）を併用する予定している。講義全体を以下の４つのパートに分割する。

第1部「複式簿記」（第1回～第3回）
第2部「会計学」（第4回～第6回）
第3部「財務分析」（第7回～第9回）
第4部「価値分析」（第10回～第12回）

第1部と第2部は財務諸表の作り方、第3部と第4部は財務諸表の使い方に関する内容である。第4部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。本授業の題材として扱う会社の創業者が執筆された書籍を受講前に一読することをお勧めする（吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話ー困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社, 2024年）。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、時価簿価比率(PBR)、経済的付加価値(残余利益)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は受講する中で理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。このため、受講にあたっては、原則的にスマートフォン、タブレット、またはPCなどによって、オンラインに接続可能であることとする（ただし、それらの機器を会場に持参する必要はない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	会計を学ぶ意義、有効な方法、学習の目標、成績評価などについて説明する。
第2回	会社経営と財政状態	会社の経営に関わる利害関係者との権利・義務の関係を財政状態として記録し、貸借対照表を作成する方法を学ぶ。貸借対照表から利益を計算する「財産法」という利益計算式を理解する。
第3回	収支計算と損益計算	現金の記録と要約である収支計算を基礎に、経営の成果・努力の観点から「損益法」という利益計算式を学ぶ。その利益計算から貸借対照表を導出する過程を理解する。
第4回	複式簿記の方法	財産法と損益法を結合させて複式簿記の原理を導出し、収支計算書、損益計算書、貸借対照表の3書類を効率的に作成するための体系的な記録と要約の方法を学ぶ。
第5回	利益計算の会計	利益の概念について、会計に期待される役割や機能の観点から考察したうえで、利益計算の方法や、その構成要素である収益と費用の認識・測定の考え方について理解する。
第6回	資産の会計	資産の基礎概念を理解したうえで、その認識・測定の考え方について考察する。時価評価（有価証券）、原価配分（固定資産）、繰延処理（税効果会計）の具体例について学習する。
第7回	負債と資本の会計	負債と資本の基礎概念を理解したうえで、会計的負債としての引当金や、準備金と剰余金の概念整理、新株予約権の処理などについて学ぶ。また、連結財務諸表の考え方も学習する。
第8回	貸借対照表の分析	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第9回	損益計算書の分析	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。
第10回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュ・フロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを可視化する方法を学ぶ。
第11回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの概念や計測方法について学習する。

第12回	DCFモデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれるキャッシュ・フローにもとづく価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である減損会計や退職給付会計についても解説する。
第13回	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルを学習する。モデルの利用にあたり、インプットの会計情報の性質についても理解を深める。
第14回	期末試験と解説	重要な内容について復習し、発展的な学習について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では有価証券報告書やIR資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードして持参することとする。入手方法の詳細は授業内で説明する。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社,2021年

【参考書】
1 吉松徹郎『アットコスメのつぶれない話ー困難を乗り越え成長を続けるベンチャー経営の要諦』ダイヤモンド社, 2024年.
2 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2025年4月現在の最新版.
3 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2025年4月現在の最新版.
4 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993年.
5 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第17版, 中央経済社, 2024年.同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第17版, 中央経済社, 2024年.
6 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版, 白桃書房, 2010年.
7 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』（新版）中央経済社, 2022年.
8 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
9 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の2点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。
①平常点（対面授業の出席状況、対面授業時の発言状況）（50％）
②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド授業動画については、受講生の学習リズムを乱さないよう、定時配信します。また、受講生間の繋がりが持てるように、受講生の考えをクラス全員で共有しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画の視聴に必要なパソコン、および分析に用いる表計算ソフト（Excel）。

【その他の重要事項】
簿記を学んだことがない受講生は、予め日商簿記検定3級の内容を学んでおくことが望ましい。その場合、各種専門学校（TAC,大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
This lecture provides knowledge of "How to make" and "How to read" corporate financial statements. In order to learn how to prepare financial statements, it is necessary to learn the realities of transactions, learn techniques of bookkeeping, and learn basic principles and thought methods concerning accounting procedures. On the other hand, in order to learn how to read, it is necessary to learn the traditional method of financial statement analysis and further to acquire and apply basic knowledge of finance necessary for evaluating corporate value.
In this lecture, students study the most fundamental elements for understanding such financial statements, "bookkeeping" "accounting principle and accounting principle" "financial statement analysis" and "corporate finance necessary for accounting practice". It explains mutual relations among those elements and aims to comprehensively understand modern accounting practices.
The goals of this course are the following four points. (1) Acquire bookkeeping skills and basic vocabulary (concepts) in accounting, consider how economic activities can be expressed in terms of accounting, and create appropriate financial statements using these skills and vocabulary (2) Acquire the ability to understand the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and knowledge of finance, using financial statements and various types of IR information published by the company.
Securities reports and IR materials are used as supplementary teaching materials in class. Each student should download these from the company's website. Details on how to obtain them will be explained in class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the following three points (weights in parentheses):
1. Participation (50%)
3. Final report (50%)

MAN500F1 – 0093（経営学 / Management 500）

管理会計基礎

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計に関わる基本的な諸概念また理論を学習し、授業参加者の企業をはじめとする組織で採用されている管理会計システムの役割を理解することを目的とする。さらに、近年新たに登場してきた管理会計の研究トピックについても、その登場の背景にある要因を理解するとともに、それらの議論における主張及び特徴を理解することを目的とする。

【到達目標】
管理会計の基本的な概念や用語について理解し，自分の言葉で簡潔に説明ができる。自らが所属する企業をはじめとする組織の管理会計実務のあり方について理論的に評価・検討を行い、その問題点について指摘ができる。さらには、自社の管理会計システムについて必要に応じて改善案を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面で実施します。授業では，毎回，教員が各テーマに関連した基礎的な理論および研究について紹介を行います。その後、必要に応じて，配布資料に基づいた報告を担当の学生に行ってもらい，そのテーマについて議論を行います。議論のさいには，自社の状況とあわせて議論を行うことを意識してもらえばより実践的な議論になると思います。必要に応じてテーマに関連したケースを配布しますので，そのケースに基づく議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと管理会計の発展	授業の概要について説明するとともに，管理会計と財務会計の相違点，および管理会計の歴史的な発展の経緯について説明する。
2	原価計算の基礎的知識の確認	原価計算の一連の計算手続きについて例題を交えならが確認する。
3	意思決定目的のための管理会計	意思決定目的での管理会計の役割，および用語の説明を行う。
4	設備投資の経済性計算	設備投資における経済性計算の方法，およびいくつかの計算問題を解く。
5	原価管理(1)	原価管理の全体的な説明および特に標準原価による原価管理について説明する。
6	原価管理(2)	原価改善活動また原価企画活動について，事例を交えながら考察を行う。
7	予算管理システム	予算管理プロセスについて説明すると共に，授業参加者の組織における予算実務について意見交換する。
8	予算管理システムに関わる問題点	予算管理に関わるいくつかの論点を取り上げ検討する。
9	製造間接費の配賦問題	伝統的な間接費の配賦方法の説明とその問題点を明らかにする。
10	Activity-Based Costing	ABCについて説明すると共に，その問題点を明らかにする。
11	財務的な業績評価指標と非財務的な業績評価指標	伝統的な財務的業績評価指標の特徴またその問題点，さらに非財務評価指標について説明する。
12	BSC	BSCの概念を中心に、財務的な指標と非財務的な指標との関係性について，これまでの研究の成果を交え検討する。
13	組織構造と管理会計	事業部制、カンパニー制および持株会社制における管理会計上の問題を特に分権化の程度との関係で議論する。
14	アメーバー組織の管理会計	アメーバー組織における管理会計の設計と利用についてケースを交え明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習および復習のための時間は各2時間を標準とします。各回について以下のことを予習として考えてみてください。
１・２回目　管理会計と財務会計の相違点について管理会計の大学レベルの基本的な文献を読み理解しておくこと。また，自社または実際の企業において、管理会計情報が果たしている役割を考えておくこと。さらに、原価計算の一連の手続きおよび用語について、大学レベルの教科書を復習しておくこと。
３・４回目　意思決定に必要な原価概念を整理しておくこと。また設備投資の経済性計算の方法についても復習しておくこと。
５・６回目　原価管理の様々な技法の特徴を明らかにするとともにそれらの技法間の関連性を配布資料に基づいて考えておくこと。その上で，自社の原価管理の事例をまとめておくこと。
７・８回目　予算管理システムの組織内での役割について考察するとともに、自社の予算管理システムの運用について調べておくこと。
９・10回目　伝統的な間接費の配賦の背後にある考え方を明確にしておくこと。さらに、ABCの特徴を整理し、伝統的な間接費の配賦方法との相違点をまとめておくこと。
11・12回目　財務的な業績評価指標が事業単位の責任者の行動にもたらす影響を整理しておくこと。また、財務的な指標と非財務的な指標との間の関係を配布するケースに基づいて明確にすること。
13・14回目　分権的な組織と集権的な組織の特徴の比較および事業部制組織、カンパニー制組織さらに持株会社制度における管理会計上の問題を明確にしておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。毎回必要な文献や資料を紹介します。

【参考書】
管理会計の入門書としては以下のものがあります。事前に読んでおくと良いと思います。
櫻井通晴『管理会計第5版』中央経済社
谷武幸『エッセンシャル管理会計第4版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
講義での担当報告箇所の報告内容に基づく評価30点、講義中の議論への参加の状況20点、最終レポートの内容50点で評価を行います。講義中の議論への参加については回答の正しさよりも積極的に議論に参加する姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき，アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号−Ⅱ，pp.3-23, 2019.
②「ambidextrous組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第55巻第4号, pp.19-43, 2019.
③Organizational Learning via Strategy Formulation and the Role of MCS in That
Process: The Case of Kikkoman Corporation. "Japanese Management and
International Studies, Management of Innovation Strategy in Japanese Companies", Vol.13. pp.159-175, 2016.

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)The purpose of this class is to provide students with the basic concepts and theories of management accounting. It also include the development of students' abilities to understand their company' practices of management accounting. The other purpose of this class is to deal with emerging topics of management accounting with an aim to promote students' understandings on the environmental and theoretical backgrounds for the emergence and to equip students with knowledge of their characteristics.
(Learning activities outside of classroom)
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. You may think about the theme of each class in advance, taking into account your own company's situation.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of student's report of the paper for which the student is assigned (30 points), participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points).

ECN500F1 – 0098（経済学 / Economics 500）

ファイナンス基礎

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**アカウンティング・ファイナンスコースと合同：基礎ファイナンス**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な研究成果は実社会に多大な影響を与えており、現代の金融ビジネスはこれなしには成り立たない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論を中心に、証券投資に関する理論を講義する。また、講義と並行して、Microsoft社のExcelを分析ツールとして使用し、株式投資や資産運用に関する実践的な分析を行う。さらに、個人の資産形成における投資理論の重要性についても詳しく解説し、近年話題となっている老後2,000万円問題やFIRE（Financial Independence, Retire Early）に加えて、NISA制度の具体的な活用方法についても取り上げる。
多くのビジネススクールではファイナンスは必修科目として位置づけられており、ファイナンスが専門ではない学生でも基本的な知識を学ぶことが求められる。本授業は、そのような基礎知識を提供することを目的としている。ビジネスにおいてファイナンスの知識が必要な学生はもちろん、個人投資家として株式投資や資産形成に関心のある学生の履修を歓迎する。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
（1）金融市場の基礎知識・用語に基づいて、金融商品・金融取引のしくみを説明できる。
（2）債券や株式の基本的な計量分析や価格評価ができる。
（3）効率的市場仮説や効率的フロンティアなどのファイナンスの理論的概念を説明できる。
（4）証券投資の基本的な考え方を現代ポートフォリオ理論に沿って解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施する。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。授業の情報は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。授業は講義とExcelを用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excelの使えるノートPCを用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。Excelの使い方については、授業内で丁寧に説明する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、金融リテラシーの重要性
第2回	金融・証券市場の基礎知識	金融・証券市場の概観、債券市場、株式市場、外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場
第3回	キャッシュフローと現在価値	キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用、割引因子とその性質、つみたてNISA
第4回	債券投資と利回り	利付債と割引債、債券の価格評価、直接利回り、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート
第5回	不動産投資と内部収益率	マンション／アパート投資、J-REITのしくみ、内部収益率、正味現在価値、NAV倍率
第6回	株式投資のための確率統計入門（1）	確率統計の基礎概念、確率とその性質、確率変数、期待値、分散、標準偏差、リスクとリターン
第7回	個別株の分析（1）	期待収益率、配当割引モデル、ROE、配当性向、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値
第8回	個別株の分析（2）	残余利益モデル、企業価値と時価総額、クリーンサープラス関係、PBR、PER、相対価値評価
第9回	古典的アプローチから現代ポートフォリオ理論へ	ケインズの美人投票、グレアムのバリュー投資、効率的市場仮説、現代ポートフォリオ理論
第10回	株式投資のための確率統計入門（2）	共分散、相関係数、期待値と分散の性質、散布図、回帰分析、統計的仮説検定
第11回	平均分散アプローチ	期待効用、リスク回避度、効率的フロンティア、接点ポートフォリオ、トービンの分離定理
第12回	資本資産価格モデル	市場ポートフォリオ、資本市場線、シャープ・レシオ、CAPM、証券市場線、ジェンセンのアルファ
第13回	外国株投資と為替変動リスク	外国株式、為替変動リスク、S&P500、ホームバイアス、情報の非対称性、取引コスト
第14回	資産形成と証券投資の現実	税制優遇制度、個別株投資と株式投資信託、インデックス運用とアクティブ運用、損失と失敗

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。講義資料の復習を十分に行うこと。知識や理論を積み上げることで授業が進んでいくので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。講義資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（3）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習・課題（50％）と平常点（50％）で評価する。授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel演習に関する発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
個人の資産形成に関心のある学生が多いので、個人投資家からみた株式投資や資産運用に関するトピックや、それらに関するExcel演習に多くの時間を費やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
毎回Excelを使うので、Excelが使えるノートPCを各自で用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。

【前提知識】
中学程度の数学の基礎知識（2次方程式、連立方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス

＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
ファイナンス入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management. [Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50% , in class contribution: 50%.

MAN500F1 – 0097（経営学 / Management 500）

経営分析

福多　裕志

備考（履修条件等）：アカウンティング・ファイナンスコースと合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献8：米文献2の割合）を参照しながら、基礎統計学の理論を援用し、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。特に、各種比率に関する業界の中心的傾向を探るために、財務諸表分析に推定・検定の統計手法を応用する可能性を探りたい。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なり、広い分野に援用可能となる授業の展開を心がけたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値、分散を推定し(推測統計)、計算結果を評価し、合理的意思決定に供する情報を創出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第2回	財務諸表分析の枠組み：その1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第3回	財務諸表分析の枠組み：その2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の4領域の確認と問題演習
第4回	短期利益計画1	損益分岐点分析の構造
第5回	短期利益計画2	損益分岐点分析の現実データへの応用
第6回	中間発表	さまざまな業界の事例研究
第7回	経営分析への基礎統計学の応用1	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第8回	経営分析への基礎統計学の応用2	財務諸表分析において使用される主な分布－t分布等。問題演習
第9回	経営分析への基礎統計学の応用3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第10回	経営分析への基礎統計学の応用4	財務諸表分析において使用される主な分布－χ^2分布、F分布等。問題演習
第11回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第12回	経営分析への基礎統計学の応用5	複数業界の分散の推定・仮説検定
第13回	経営分析への基礎統計学の応用6	推定・仮説検定の事例研究、問題演習
第14回	最終試験	統計手法の応用に関して授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury (2008), *Management and Cost Accounting 7th ed.,* South-Western.
2) Ray H. Garrison (2008), *Managerial Accounting,* McGraw Hill International.
3) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
英語、日本語の参考文献は、随時、学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算用ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

FRI500F1 − 0114（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

情報学特論

児玉　靖司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次の項目に沿って講義を行い、簡単な演習として学生独自の問題発見、解決を行うことを目標とする。①情報学とは、②コンピュータと経営学、③人工知能と経営学、④最近の情報システム、⑤経営戦略と情報システム、⑥経営戦略とOR（オペレーションズリサーチ）、⑦線形計画法とゲーム理論、⑧その他の話題、以上のテーマに関する講義を行う。

【到達目標】
できるだけ最新の話題（情報学）から経営学との関係についてまとめ、考察を行う方法を身につける。
特にAIやICTと経営学の関わりについて、専門的な基礎知識を得て、新しい研究テーマに関して、その有用性や実現性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
情報学は、現在の経営学にとっても重要な学問領域である。本講義では、コンピュータの仕組みから学問としてのコンピュータの話題について幅広く解説し、さらに、情報システムとORを用いた経営戦略のあり方について考察を行う。(1) コンピュータの仕組み、(2) ソフトウェア工学、(3) 人工知能とコンピュータ、(4) 経営戦略と情報システム、(5) 経営戦略と線形計画法、(6) ORを用いた経営戦略、以上をテーマとした講義と議論を行う。全体を通して、経営戦略を意識したコンピュータシステムに関する知識、使い方、情報システムのあり方について触れる。情報学と経営学との接点に関する学問的考察は一般的にはほとんどないと考えられるので独自の考察を行う。さらに、論文講読、外書講読を希望する学生が多い場合は、最近の情報システムやコンピュータ科学に関する論文を選択し輪読することがある。PCの画面をプロジェクタに投影しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報学とは	情報学の基礎と経営学の関わりについて学ぶ。
第2回	コンピュータ科学について	コンピュータ科学の基礎から応用について学ぶ。
第3回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第4回	ソフトウェア工学（2）	要求工学を中心したソフトウェア工学について学ぶ。
第5回	ソフトウェア工学（3）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第6回	線形計画法（1）	線形計画法について学ぶ。
第7回	線形計画法（2）	線形計画法全般について学ぶ。
第8回	線形計画法（3）	線形計画法の応用について学ぶ。
第9回	モデル検査（1）	モデル検査の基礎について学ぶ。
第10回	モデル検査（2）	モデル検査について学ぶ。
第11回	人工知能概説	人工知能と経営学について考察をする。
第12回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論の基礎について学ぶ。
第13回	ゲーム理論（2）	ゲーム理論の基本定理を中心として学ぶ。
第14回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論の応用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の中で、1回以上プレゼンテーションを行ってもらうため、準備を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。パワーポイント資料を別途配布する。

【参考書】
開講後に指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、レポートまたはプレゼンテーション（40%）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の研究内容に関連したディスカッションを多用する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 人工知能（AI）、情報学
< 研究テーマ> ディープラーニング、学習解析、コンピュータ科学
< 主要研究業績>
· Memoization in Model Checking for Safety Properties with Multi-Swarm Particle Swarm Optimization,(MDPI,Electronics 2024).
· Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Machine Learning, Learning Analytics &Knowledge Conference (LAK18).
· Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Deep Learning, Proc. of 4th Annual Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI 2017).
· Using Deep Learning to Predict Students' Programming Performance from Behavioral Features, Proc. of LASI-Asia 2017, JASLA, 2017.
· Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.
· Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.
· JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.
· http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses_e1.html

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The goal is to enable students to discover and solve problems. Lecture topics include: 1) What is information science? 2) Computers and business administration? 3) Artificial intelligence and business administration? 4) The latest information systems? 5) Business strategy and information systems? 6) Business strategy and OR (operations research)? 7) Linear programming and game theory? 8) Others.
[Learning Objectives]
Students will learn how to summarize and consider the relationship between the latest topics of information science and business administration. In particular, students will acquire basic specialist knowledge about the relationship between AI, ICT, and business administration and consider the usefulness and feasibility of new research themes.
[Learning Activities Outside of Classroom]
To prepared to give at least one presentation during the lecture. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory /review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Ordinary attitude score (60%), report or presentation (40%).

MAN500F1 – 0196（経営学 / Management 500）

国際経営論特講Ⅰ

洞口　治夫

備考（履修条件等）：**国際経営論と隔年開講，昼間「国際経営研究Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決するための学問的アプローチの総称です。企業の海外進出は、大企業のみならず中小企業にとっても採用される経営戦略になっています。しかし、本国での戦略やプラクティスを海外で追求しようとしても、本国と外国との様々な相違のために競争優位を得られない場合も多いでしょう。ＭＢＡ学生諸君が国際経営論を学ぶことによって、企業経営の国際化に伴うどのような課題があるのかを理解することができます。

【到達目標】

修士課程の学生が、国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけることができます。参加学生は、多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立てます。ＭＢＡの共通言語としての経営戦略論・経営組織論・経営管理論の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。学生は自らの研究関心に応じて、『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、Journal of International Business Studies、Strategic Management Journal、Research Policyなど、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指すことができるようになります。学生諸君には、修士論文作成のための様々な研究手法を紹介し、具体例とともに研究の手順を説明していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義、ケースの読解、論文の読解、学生相互の議論、学術的な研究方法の紹介、ビデオ教材の理解といった内容から構成されています。国際経営を理解するために必要な理論を講義した後、ケースや論文の内容を確認し、意思決定課題を学生相互で議論します。講義の中盤では、学生が課題についてプレゼンテーションを行い、それについて議論する場合があります。参加学生の英語力に応じて、それを高める形式での会話やリスニングも随時行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要と国際経営論のオリエンテーション。教科書、資料の紹介。評価方法の説明。
2	国際経営の研究方法	質的調査方法と量的調査方法。近年の話題と研究アプローチの特色。英語学習の方法。
3	国際経営を研究するための経済理論	取引コスト理論、限定された合理性、エージェンシー理論、モラルハザード、機会主義。
4	国際経営を研究するための経営理論	リソース・ベースト・ビュー、経営資源、制度理論。
5	企業の国際化理論	内部化理論、OLIパラダイム、PLC理論、ボーングローバル。
6	エントリー戦略としての輸出・輸入	インボイス、輸出信用状と取引費用の関係性、ロジスティックス産業の役割。
7	直接投資とコーポレート・ガバナンス	エントリー・モードの類型、グリーンフィールド、Ｍ＆Ａ、エントリー・タイミング。
8	ライセンシングとＯＥＭ	特許、フランチャイズ、ブランド・マネジメント、コンテンツビジネス。
9	国際経営とリスク	国家と政治体制。テロリズム、気候変動、パンデミック。貸借対照表と損益計算書。
10	競争と協力	ゲーム理論入門。ジョイント・ベンチャー、出資比率の意味、商社の役割、現地企業の配当政策。
11	国際提携戦略	グローバル戦略的提携のマネジメント、アライアンス、ネットワーク構築。
12	投資意思決定	フィージビリティ・スタディ、経済環境、収益性評価、ＮＰＶ、ＩＲＲ。参考書(4)洞口・行本『入門経営学』第7章。
13	国際Ｍ＆Ａ	国際Ｍ＆Ａの動機、デューデリジェンス、Post Merger Integration、減損、参入と退出。
14	資産評価と収益性評価	有形資産、無形資産、不確実性とリスク、ＲＯＥ、ＲＯＡ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各200分間を標準とします。半期集中の授業のため、準備学習を夏休み期間に行うことをお薦めします。準備学習としては、①教科書の購入と構成の理解、②国際経営戦略の研究に活用される理論に関する文献の講読、③指定文献・配布ケースの講読、④グローバル戦略的提携に関する事前調査、⑤統計学の学習、などが必要となります。復習としては、毎回の講義の後と、試験前の全講義の復習などが必要となります。

【テキスト（教科書）】

(1)洞口治夫・行本勢基『入門　経営学』第2版、同友館、2012年。
(2)原田順子・洞口治夫編著(2025)『企業経営の国際展開』放送大学教育振興会。
＜上記二冊を教科書として用います。アマゾンなどで購入できます。＞
(3)Hofstede, Geert. "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?", Organizational Dynamics, Volume 9, Issue 1, Summer 1980, Pages 42-63. 法政大学のサーバーに接続してGoogle Scholarで論文名を検索するとＰＤＦファイルへのリンクから論文をダウンロードできます。

【参考書】

(1)ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：Levendary Café: The China Challenge。著者 Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号4357. このケースを購入するためには、http://hbr.org/storeのサイトからcaseを選択し、タイトルを記入して検索します。7ドル前後でＰＤＦを購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。登録ユーザーとなるにはhttp://cb.hbsp.harvard.edu/cb/registerのサイトからHigher Education Individualに必要事項を記入してregisterをします。その後、上記のタイトルを入力し、show detailからＰＤＦを購入します。著作権が保護されていますのでコピーは避けて下さい。また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。
(2)洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
(3)洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
(4)洞口治夫『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
(5)洞口治夫『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
(6)John Daniels, Lee Radebaugh, Daniel Sullivan, International Business: Environments and Operations, 2011, Pearson Education; Global ed of 14th revised ed版, 2012.
(7)東北大学統計グループ『これだけは知っておこう！ 統計学』有斐閣、2002年。
(8)岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社、1983年。

(9)P.G.ホーエル『初等統計学』培風館、1981年.
(10)星野匡郎・田中久稔『Rによる実証分析 ―回帰分析から因果分析へ―』オーム社、2016年.
(11)山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年.
(12)フィリップ・コトラー他著『ＡＳＥＡＮマーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マグロウヒル・エデュケーション、2007年.
(13)Ａ．Ｃ．チャン、Ｋ．ウエインライト『現代経済学の数学基礎（上）』シーエーピー出版、2010年。
＜図書館で借りて、内容を確認して下さい。＞

【成績評価の方法と基準】
授業参加（出席と議論への参加）：28％
宿題ないしプレゼンテーションなどクラスへの貢献：12％
中間試験：20％
期末試験：40％
中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパーないしレポートによって行います。その評価にはペーパー自体の評価だけでなく、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからの示唆を要約すると、より高度な理論をよりわかりやすく講義し、学生相互のディスカッションの時間をとることによって記憶に定着させることが要望されているようです。英語での講義、輪読やディスカッションを望む声と、それを難しいと感ずる声が混ざっています。英語でのディスカッションを増やしていきたいと思いますが、同時に、基礎的な英語の学力を錬成して応用に結びつけていくことを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットを検索・閲覧できるスマホ、授業支援システムにワード・ファイルやパワーポイント・ファイルをアップロードできるパソコンなど。

【その他の重要事項】
この授業を履修する学生諸君には経営学基礎、統計データ解析、経営戦略論、経営組織論の授業を履修することをお薦めします。また、本授業を通じて英語のリスニング、スピーキングの能力養成を試みていきます。
洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
④『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
⑤『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
⑥『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
＜論文＞
⑦Organization philosophy: a study of organizational goodness in the age of human and artificial intelligence collaboration, AI &Society (2024). DOI https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6
⑧ "Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds", Review of Behavioral Finance, (2023), Vol. 15 No. 5, pp. 652-671. https://doi.org/10.1108/RBF-09-2021-0176

【Outline (in English)】
【Course outline】"International Business" is a general term for academic approaches to solve various problems associated with internationalization of corporate management. The overseas expansion of companies is a management strategy adopted not only for large companies but also for small and medium enterprises. However, even if you try pursuing strategies and practices overseas, there are many cases where competitive advantages can not be obtained due to various differences between home country and foreign country.
【Learning Objectives】
You can learn international management theory and understand what challenges are associated with internationalization of corporate management.
【Learning activities outside of classroom】
The recommended time for preparation and review for this class is 200 minutes each. Since this is an intensive half-year course, we suggest that you complete your preparation during the breaks. Preparation will include: (1) purchasing the textbook and familiarizing yourself with its structure; (2) reading literature on the theories related to international business strategy; (3) reviewing the assigned readings and case studies; (4) conducting preliminary research on global strategic alliances; and (5) studying statistics. For review, it is important to go over all lectures after each class and before the exam.
【Grading Criteria /Policy】
Class participation (attendance and participation in discussions): 28
Contribution to class, such as homework or presentations: 12
Mid-term exam: 20
Final exam: 40
Both the mid-term and final exams will be in the form of written exams, term papers, or reports. The evaluation will assess not only the content of the paper itself but also the presentation of the paper.

MAN500F1 – 0196（経営学 / Management 500）

国際経営論特講Ⅰ

洞口　治夫

備考（履修条件等）：**国際経営論と隔年開講，昼間「国際経営研究Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際化を続ける企業経営が直面する問題を理解し、その動因となっている企業経営の力学を理解する。国際化を牽引するどのような機構（メカニズム）が存在し、どのような駆動力（エンジン）が存在するのかを理解します。学術的論文が、実学の基礎となっていることを説明し、経営学による企業経営の理解が、企業経営の実践につながっていることを理解していきます。大学院にふさわしい英語力、数学力、統計学の基礎、日本語読解力と論理的思考を養うことも目的としています。

【到達目標】

修士課程の学生が、国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけることができます。参加学生は、多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立てます。ＭＢＡの共通言語としての経営戦略論・経営組織論・経営管理論の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。学生は自らの研究関心に応じて、『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、Journal of International Business Studies、Strategic Management Journal、Research Policyなど、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指すことができるようになります。学生諸君には、修士論文作成のための様々な研究手法を紹介し、具体例とともに研究の手順を説明していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業では、企業活動の国際化にともなう諸問題を可能なかぎり包括的に取り扱います。経営学の一般的な体系を、経営戦略・経営組織・経営管理と捉える立場から、外国市場への参入戦略、国際化戦略に適合した組織の構築、国際的な経営管理の諸問題について議論していきます。

講義と論文、ケース（英文による事例）の読解、また、それらを補うためのビデオ教材や日本語学術論文などを使用しながら授業を進めます。参加学生相互の議論も重要である。討論の課題とする論文やケースは、予習、復習を重視して、複数の回で議論することがあります。

なお授業内容・ケースともに、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・国際経営の範囲と対象－経営学とは何か－	○講義―――授業の進め方とルールの説明。 経営学の系譜。経済学と経営学。経営学の問題領域。経営学の古典。テイラー、ホーソン実験と産業社会学。マズローの欲求段階説。コンティンジェンシー理論。ウッドワード、バーンズ＝ストーカー、ローレンス＝ローシュ。限定された合理性とフレーミングの理論。バーナード、サイモン、ウィリアムソンと取引費用の経済学。機会主義と内部化理論。ポーターの経営戦略論、リソースベースドビューとペンローズ。野中・竹内の知識創造企業。国際経営論の役立ち方。貿易論・国際金融論と国際経営論。企業経営と国籍。「日本的経営」。産業集積と競争優位。 ○検討する論文――― 洞口治夫「二つの社会科学の２０世紀－経営学と経済学－」『社会科学研究』（東京大学社会科学研究所）第50巻第１号、1998年８月. ○ビデオ―――Ford ○討論の課題―――経営学説史からみて、企業としてのFordはどのような普遍的特徴を備えていたか。
2	第Ⅰ部・外国市場への参入戦略 １．直接投資の理論	○講義―――海外直接投資の理論．学説史の展開．経営資源と取引費用．７つの参入形態．所有の方法(買収・合併とグリーンフィールド)。ハイマー＝キンドルバーガー＝ケイブス、コース＝ウィリアムソン、ペンローズ＝小宮の諸学説。日本企業の直接投資の歴史．対アメリカ、アジア、ヨーロッパ．戦略の「意図」と事後的な分析. ○ビデオ―――MacDonald's ○検討する論文―― ①Horaguchi, H. and Toyne, B.[1990] ②Pitelis, Christos.[2006] ○討論の課題―――１．フランチャイズ・ビジネスの収益源は何か。それが国際化するとき、どのような形態をとるか。 ２．Horaguchi and Toyne[1990]には、何が書かれていたか。 ３．(復習)洞口治夫「二つの社会科学の２０世紀－経営学と経済学－」『社会科学研究』（東京大学社会科学研究所）第50巻第１号、1998年８月．から何が言えるか。

3	２．企業家精神と外国市場	○講義―――プロダクトライフサイクル（ＰＬＣ理論）とボーングローバル。シュンペーターによる「起業家の群生」。クラスターと国の競争優位。シリコンバレーと企業家の要件。新規事業開発の課題と問題点―日本とアメリカ―．ファミリービジネスとしての企業家と経営者． ○ビデオ―――リチャード・ブランソン ○討論の課題―――リチャード・ブランソンと類似した戦略の採用によって成功したと考えられる企業の例をあげて、その理由を説明せよ。
4	３．Ｍ＆Ａ、デューデリジェンスとフィージビリティ・スタディ	○講義―――投資決定の理論．ＮＰＶ．ＩＲＲ．フィージビリティ・スタディの調査項目．コストと「よりよいＦＳ」．経験と調査．暗黙知と形式知．リアルオプション。二項分布とブラウン運動。 ○討論の課題 多国籍企業はＦＳにいくらを支出していると推定されるか。また、それはＦＳとして過大か、過少か。
5	４．戦略類型と国際戦略提携	○講義―――出資の意味．コーポレート・ガバナンス．輸出・直接投資・ライセンシングとＯＥＭ・ＪＶ・プラント輸出．情報技術の発達による説明．間接部門肥大化の論理．集合知のマネジメントと技術移転．知識創造理論・個人的知識・提案制度・産官学連携．暗黙知と形式知、ポランニーの『個人的知識』、暗黙知の腐敗．集合知と自己組織化、創発 ○討論の課題―――アライアンスを組んだ相手企業の意思決定が、常に２ヶ月ほど自社の意思決定よりも遅れる場合、どのような方策をとることができるか。
6	５．経済政策と立地選択	○講義―――グローバリズムとディグローバリゼーション。地域統合と多国籍企業。ＮＡＦＴＡの解体。ＥＵとＡＦＴＡ、ＴＰＰ。スパゲッティ効果、享楽的国際化。農業生産の労働力不足。不法外国人労働対策。 ○討論の課題―――１．地域統合の観点からみて、過剰投資となっている拠点はあるか。 ２．アメリカの通商政策と日本のＦＴＡ戦略を評価せよ。
7	第Ⅱ部・組織の構築と文化 ６．組織構造の革新と進化	○講義―――職能部門、事業部制、マトリックス組織、分社化、カンパニー制、持株会社．大企業組織の通弊．プロジェクト・チームと委員会．負担の公平．個人の能力不足（隠し）．組織改革を阻むもの．
8	７．組織文化とは何か	○この回には、中間試験としてレポート試験を行う可能性がある。行う場合には、６０分程度の筆記試験である。 ○講義―――ホフステッドの４つの尺度．文化研究の問題点．「尺度」における距離の心理依存性． ○討論の課題―――次のアンケート調査を比較して、その意義を考えなさい。 Ａ．以下の質問に、１．気にならない、２．さほど気にならない、３．気になる、の三段階で答えて下さい。 問い１．あなたは自分の配偶者のために、肝臓を３分の１切り取り、移植手術のためのドナーになることにしました。 １．気にならない　２．さほど気にならない　３．気になる 問い２．あなたが中華料理のレストランで注文したものは、３５分たっても出てきません。 １．気にならない　２．さほど気にならない　３．気になる
9	８．国際企業の社会的責任	○講義―――社会的倫理観．環境、児童労働、女性．経済的倫理観．雇用の維持．顧客満足の提供．株主利益の維持．組織的倫理観．「こんにちは」、「さようなら」の挨拶．５分はやい出社、年賀状、忘年会． ○検討資料――[翻訳]マイケル・Ｅ・ポーター「企業戦略―新たな知見―」、（原タイトル・Company Strategy: The New Learning） ○討論の課題―――児童労働を禁止することは、彼らの生活の糧をとりあげることである。この立論の是非を論ぜよ。
10	第Ⅱ部・国際経営管理 ９．生産管理の国際的波及	○講義―――フォードとトヨタ．生産システムの革新．技能の摘出．生産技術者の地位． ○ビデオ―――日本の自動車産業戦後史．
11	10．海外派遣要員と多国籍企業の年金システム	○講義―――「人生設計」とは何か。海外派遣に準備期間がないのはなぜか。４年ローテーションを受け入れる現地従業員の意識は。単身赴任か、家族帯同か。最適な派遣時期はあるのか。多国籍企業の年金システムはどのようなものか。確定拠出年金は誰の得になるのか。日本の厚生年金基金はどうなるのか。 ○討論の課題―――あなたの勤務する会社は、メキシコ、マレーシア、上海に子会社を持っている。あなたは人事部長であり、現地に派遣予定の何人かの営業課長に、スペイン語、マレー語、中国語を勉強させたい。どのような手続きが必要か。また、どのような反対論が予想されるか。

12	11. マーケティングの基礎理論	○講義―――価格決定の理論. 需要の価格弾力性. セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング. 4つのP. 顧客満足. 営業の位置づけ. ○討論の課題―――企業が自社新製品の価格設定をする際に、どのような方法を採用しているか。例を挙げよ。
13	12. 技術開発と特許戦略	○講義―――AIとイノベーション。特許戦略。マーケット・リーダー、マーケット・チャレンジャー、マーケット・フォロワー、マーケット・ニッチャーの技術戦略。日本の飛行機産業。新規発明の発生確率。ポワソン分布と正規分布。 ○討論の課題―――「イノベーションとは顧客の想定を超える商品の提供である」という言明は正しいか。
14	14. 国際財務管理と情報管理システム	○講義―――情報管理システムの適用範囲. システム・エンジニアと業務部門. 財務分析と企業競争力。移転価格。外国為替とリスクヘッジ。為替先物による利益確保。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＜授業外に行うべき学習活動＞

本授業の準備学習・復習時間は、各200分を標準とします。指定された文献の購読と理解には時間的な余裕をもって取り組みましょう。授業支援システムにアップロードされる文献、授業内で配布される文献は、該当する授業の前に読了してから参加するように心がけましょう。また、授業支援システムにアップロードされる参考文献は図書館などで探し、読むことを心がけましょう。レポートないしプレゼンテーションの課題については、時間をかけた取り組みが高く評価されます。

【テキスト（教科書）】

(1)洞口治夫・行本勢基『入門　経営学』第2版、同友館、2012年。
(2)原田順子・洞口治夫編著(2025)『企業経営の国際展開』放送大学教育振興会。
＜上記二冊を教科書として用います。アマゾンなどで購入できます。＞
(3)ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：Levendary Café: The China Challenge。著者Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号4357. このケースを購入するためには、http://hbr.org/storeのサイトからcaseを選択し、タイトルを記入して検索します。7ドル前後でＰＤＦを購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。登録ユーザーとなるにはhttp://cb.hbsp.harvard.edu/cb/registerのサイトからHigher Education Individualに必要事項を記入してregisterをします。その後、上記のタイトルを入力し、show detailからＰＤＦを購入します。著作権が保護されていますのでコピーは避けて下さい。また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。
(4)Hofstede, Geert. "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?", Organizational Dynamics, Volume 9, Issue 1, Summer 1980, Pages 42-63.
(5)[翻訳]マイケル・Ｅ・ポーター「企業戦略―新たな知見―」、（原タイトル・Company Strategy: The New Learning）大学経営学部創設50周年記念事業、マイケル・Ｅ・ポーター教授特別講演会講演録（講演日、2009年12月9日）、『経営志林』第47巻第1号、2010年4月.
(6)Horaguchi, H. and Toyne, B.[1990] “Setting the Record Straight: Hymer, Internalization Theory and Transaction Cost Economics,” Journal of International Business Studies,vol.21, no.3.
(7)Pitelis, Christos.[2006] “Stephen Herbert Hymer and/on the (theory of the) MNE and inter-national business, International Business Review, vol.15, pp.103-110.

(4)～(7)の文献は、法政大学のサーバーに接続してGoogle Scholarで論文名を検索するとＰＤＦファイルへのリンクから論文をダウンロードできます。

【参考書】

J.D.Daniels, L.H.Radebaugh, and D.P.Sullivan, International Business: Environments and Operations, 11th ed. (Peason Prentice Hall).
C.A.Bartlett, S.Ghoshal, and J. Birkinshaw, Transnational Management: Text, Cases, and Readings in Cross-Border Management, 4th ed., (Irwin, 2003).
C.A.Bartlett and S.Ghoshal, Transnational Management, 3rd ed., (Irwin, 2000).
洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年.
洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年.
フィリップ・コトラー他著『ＡＳＥＡＮマーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マグロウヒル・エデュケーション、2007年.
小池和男・洞口治夫編著『経営学のフィールド・リサーチ―「現場の達人」の実践的調査手法―』日本経済新聞社、2006年.

【成績評価の方法と基準】

授業参加（出席と議論への参加）：28％
宿題ないしプレゼンテーションなどクラスへの貢献：12％
中間試験：20％
期末試験：40％
中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパーないしレポートによって行います。その評価にはペーパー自体の評価だけでなく、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

少人数の授業を通じて、研究とは何か、についての気づきを得ている。リサーチペーパー、修士論文、博士論文、学術雑誌掲載論文には、それぞれの違いがあるが、それを理解するには、それらを読んでみる必要がある。「プリンと茶碗蒸しの違いを言葉だけで説明することは難しい。」味わってみることが理解への早道である。

【学生が準備すべき機器他】

授業内のテストに回答するためのスマホ、Wi-Fiの利用できるパソコン、ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードかつアップロードできるパソコンないしスマホ。

【その他の重要事項】

リサーチペーパー作成のためには、下記の文献を推奨する。
洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント―学部ゼミナール編―』白桃書房、2008年.
特に第６章、第７章、第11章を読み、学部学生の水準を追い越すような修士論文の作成に向けて努力してもらいたい。
研究方法のガイダンスとしては、
小池和男・洞口治夫編著『経営学のフィールド・リサーチ―「現場の達人」の実践的調査手法―』日本経済新聞社、2006年.
を参照されたい。第７章、第６章、第２章が、修士論文作成の手引きとなる。
洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
④『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。

⑤『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
⑥『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
＜論文＞
⑦Organization philosophy: a study of organizational goodness in the age of human and artificial intelligence collaboration, AI &Society (2024). DOI https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6
⑧ "Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds", Review of Behavioral Finance, (2023), Vol. 15 No. 5, pp. 652-671. https://doi.org/10.1108/RBF-09-2021-0176

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class, you will gain an understanding of the challenges facing corporate management in the context of ongoing globalization, as well as the dynamics driving this process. We will explore the mechanisms that promote internationalization and the key driving forces behind it.
【Learning Objectives】
The course will highlight the importance of academic papers as a foundation for practical learning and demonstrate how studying business administration can inform and enhance the practice of corporate management. Additionally, the course aims to develop essential skills for graduate-level study, including English communication, mathematical and basic statistical skills, Japanese reading comprehension, and logical thinking.
【Learning activities outside of classroom】
The recommended time for preparation and review for this class is 200 minutes each. Since this is an intensive half-year course, we suggest that you complete your preparation during the breaks. Preparation will include: (1) purchasing the textbook and familiarizing yourself with its structure; (2) reading literature on the theories related to international business strategy; (3) reviewing the assigned readings and case studies; (4) conducting preliminary research on global strategic alliances; and (5) studying statistics. For review, it is important to go over all lectures after each class and before the exam.
【Grading Criteria /Policy】
Grading Criteria /Policy
Class participation (attendance and participation in discussions): 28
Contribution to class, such as homework or presentations: 12
Mid-term exam: 20
Final exam: 40
Both the mid-term and final exams will be in the form of written exams, term papers, or reports. The evaluation will assess not only the content of the paper itself but also the presentation of the paper.

ECNe500F1 – 0057

地域経済研究（アジア）

苑　志佳

備考（履修条件等）：**隔年開講**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は東アジアおよび中国経済を中心にこの地域経済の発展過程と発展条件、経済発展の背景と要因、経済発展の特徴・形態などについて様々な視点から研究する。授業内容が前半と後半によって構成される。授業の前半は、東アジア地域の経済発展に関わる内容であり、理論から実証研究まで東アジア経済を徹底検証する。後半では、世界の新興経済大国―中国を中心にして講義する。具体的には「改革・開放」方針の導入を境に中国経済はどのように経済大国になったかを問題意識とし、中国経済の過去・現在および今後について分析・研究する。

【到達目標】
（1）アジア経済の研究視点、方法について理解する；
（2）アジア経済の発展に関わる諸仮説および理論をマスターする；
（3）中国経済の発展メカニズムおよび移行過程を理解することができる；
（4）中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は教員講義を中心に出席者による討論という方式を採用する。毎回の授業は、1つのテーマを中心に教員がまず講義して論点を絞り出し、出席者全員参加の形式で討論することによって内容への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体に関する説明
第2回	アジア地域研究にあたって	東アジア・中国経済の現状と問題提起
第3回	東アジア経済の研究視点	東アジア経済の研究方法
第4回	アジア経済研究の歴史	アジア経済研究の理論
第5回	東アジア経済発展の背景	経済・社会の背景
第6回	戦後の東アジア経済発展の条件	内部・外部条件
第7回	政府か、市場か	反新古典派型モデル
第8回	東アジア経済発展と政府の役割	経済の発展戦略
第9回	東アジア経済発展の担い手	東アジア型資本の特徴
第10回	「鼎」構造	〔公企業・外資系企業・地場資本〕の三位一体型構造の検証
第11回	対内直接投資と途上国経済	外資と東アジアの経済発展
第12回	何故、外資が必要か	対内直接投資の役割・意義の検証
第13回	華人・華僑	東アジア地域の華人・華僑の歴史と所在国の経済発展への役割
第14回	東アジア経済と華人・華僑資本	東南アジアを中心とする検証
第15回	「チャイナ・ミラクル」	中国経済をどう捉えるか
第16回	改革・開放	体制移行の背景と過程
第17回	中国経済の発展モデル	「北京コンセンサス」
第18回	漸進主義的市場化改革	比較制度分析による検証
第19回	中国経済制度の改革（1）	農業改革
第20回	中国経済制度の改革（2）	工業改革
第21回	中国経済制度の改革（3）	企業改革
第22回	中国経済制度の改革（4）	民間企業の発展
第23回	対外開放の展開	対外開放の過程と結果
第24回	国際分業へ関わり	経済発展への対外貿易の役割
第25回	海外資本の「引進来」（外資導入）	外資の対中進出の意義
第26回	中国の経済発展と対内直接投資の役割	中国経済成長への外資の貢献
第27回	中国資本の「走出去」（海外進出）	中国企業の対外直接投資
第28回	中国と世界	世界経済へのインパクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
少数の教科書を持って本授業の内容をカバーしきれないため、テキストを使用しない方針。その替わりに教員が用意する独自の教材を使用する。

【参考書】
（1）北原　淳・西澤信善編著 [2004]『アジア経済論』ミネルヴァ書房。
（2）星野妙子・末廣昭編[2006]『ファミリービジネスのトップマネジメント』 岩波書店。
（3）末廣昭著 [2000]『キャッチアップ型工業化論－アジア経済の軌跡と展 望』名古屋大学出版会。
（4）渡辺利夫編 [1997]『アジア経済読本』東洋経済新報社。
（5）南　亮進・牧野文夫編 [2012]『中国経済入門』（第 3 版）日本評論社。
（6）加藤弘之・上原一慶編 [2011]『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
（7）毛里和子 [1997]『改革・開放時代の中国』日本国際問題研究所。
（8）苑　志佳著[2009]『現代中国企業変革の担い手－多様化する企業制度とその焦点』批評社。
（9）苑　志佳［2014］『中国企業対外直接投資のフロンテア―「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開―』創成社。
（10）苑　志佳［2023］『世界進出する中国型多国籍企業』創成社。
（11）加藤弘之［2016］『中国経済学入門―「曖昧な制度」はいかに機能しているか』名古屋大学出版会
（12）ジン・クーユー［2024］『新中国経済大全――資本主義と社会主義を超えて』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
配分方針
（1）学修態度（40 点）：授業への関わり状況は成績評価の最重要指標の１つ。
（2）平常点（30 点）：予習状況、報告準備状況、問題提起のレベルなどを考慮する。
（3）クラス討論への貢献点（30 点）：クラス討論への参加を強く勧める。質問の有無やコメントの質をも重視する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善にかかわるご意見、アイデアなどあれば、教室内だけでなく、メールなどを通して率直に発言してください。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、プロジェクタ、スクリーンが必要（教員による用意）。学生による PC、i-Pad などの持ち込みと使用（事前にダウンロードしたファイルを表示 する電子機器）を薦める。

【その他の重要事項】
やむを得ない事情によって欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済論（アジア経済、中国経済）
＜研究テーマ＞
中国の産業・企業、中国経済の制度改革、中国対外直接投資の研究
＜主要研究業績＞
①『現代中国企業変革の担い手―多様化する企業制度とその焦点』（単著、批評社、2009 年）
②『中国社会主義市場経済の現在』（共著、御茶ノ水書房、2011 年）。
③『中国多国籍企業の海外経営』（共著、日本評論社、2013 年）
④『中国企業対外直接投資のフロンテア――「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開――』（単著、創成社、2014 年）
⑤『グローバル競争下の自動車産業――新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』（共著、日刊自動車新聞社、2014 年）
⑥『21 世紀資本主義世界のフロンティア－経済・環境・文化・言語による重層的分析－』（共編、批評社、2017 年 4 月）
⑦『世界進出する中国型多国籍企業』（単著、創成社、2023 年）

【Outline (in English)】
This course will concentrate the research on East Asian and Chinese economic development by taking different point of views. The special attention will be given to the concerns like, why economic high growth in the area has been realized so successfully, what backgrounds, conditions and characteristics existed there, and so on. The course is consisted of two parts. The first part focuses on the study of the whole East Asia. Various theories, models and hypothesis will be introduced and demonstrated. The second part will concentrate on the newly emerging economic power in East Asia – China. The “China miracle” will be discussed in detail.
Learning objectives
1.Understand the research perspectives and methods of Asian economy.
2.Master the hypotheses and literatures regarding Asian economic development.
3.Be able to understand development mechanism and transitional process of China’s economy.
4.Master the background, causes and characteristics of China’s economy.
Learning activities outside of classroom
The necessary time of preparation and review for this course usually needs 2 hours for each.
1.The reference reading materials will be directed by the end of every week’s class and participants are required to preview them.
2.Review the reading materials and textbooks obtained in the class and prepare to ask questions in the following class.
3.Participants are encouraged to collect reference materials, papers and books regarding the topics of the next class and raise questions.
Grading Criteria /Policy
1.Learning attitude 40%. You learning attitude will be regarded as the most important evidence for evaluation.
2.Commitment 30%. Your preview, presentation and question asking will be taken into consideration for grade assessment.
3.Contribution to class discussion 30%. Participants are strongly encouraged to engaged in class debating. Your comments and questions are evidence for grade evaluation.

ECN500F1 – 0098（経済学 / Economics 500）

基礎ファイナンス

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**夜共通と合同：ファイナンス基礎**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な研究成果は実社会に多大な影響を与えており、現代の金融ビジネスはこれなしには成り立たない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論を中心に、証券投資に関する理論を講義する。また、講義と並行して、Microsoft社のExcelを分析ツールとして使用し、株式投資や資産運用に関する実践的な分析を行う。さらに、個人の資産形成における投資理論の重要性についても詳しく解説し、近年話題となっている老後2,000万円問題やFIRE（Financial Independence, Retire Early）に加えて、NISA制度の具体的な活用方法についても取り上げる。
多くのビジネススクールではファイナンスは必修科目として位置づけられており、ファイナンスが専門ではない学生でも基本的な知識を学ぶことが求められる。本授業は、そのような基礎知識を提供することを目的としている。ビジネスにおいてファイナンスの知識が必要な学生はもちろん、個人投資家として株式投資や資産形成に関心のある学生の履修を歓迎する。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
（1）金融市場の基礎知識・用語に基づいて、金融商品・金融取引のしくみを説明できる。
（2）債券や株式の基本的な計量分析や価格評価ができる。
（3）効率的市場仮説や効率的フロンティアなどのファイナンスの理論的概念を説明できる。
（4）証券投資の基本的な考え方を現代ポートフォリオ理論に沿って解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施する。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。授業の情報は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。授業は講義とExcelを用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excelの使えるノートPCを用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。Excelの使い方については、授業内で丁寧に説明する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、金融リテラシーの重要性
第2回	金融・証券市場の基礎知識	金融・証券市場の概観、債券市場、株式市場、外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場
第3回	キャッシュフローと現在価値	キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用、割引因子とその性質、つみたてNISA
第4回	債券投資と利回り	利付債と割引債、債券の価格評価、直接利回り、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート
第5回	不動産投資と内部収益率	マンション／アパート投資、J-REITのしくみ、内部収益率、正味現在価値、NAV倍率
第6回	株式投資のための確率統計入門（1）	確率統計の基礎概念、確率とその性質、確率変数、期待値、分散、標準偏差、リスクとリターン
第7回	個別株の分析（1）	期待収益率、配当割引モデル、ROE、配当性向、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値
第8回	個別株の分析（2）	残余利益モデル、企業価値と時価総額、クリーンサープラス関係、PBR、PER、相対価値評価
第9回	古典的アプローチから現代ポートフォリオ理論へ	ケインズの美人投票、グレアムのバリュー投資、効率的市場仮説、現代ポートフォリオ理論
第10回	株式投資のための確率統計入門（2）	共分散、相関係数、期待値と分散の性質、散布図、回帰分析、統計的仮説検定
第11回	平均分散アプローチ	期待効用、リスク回避度、効率的フロンティア、接点ポートフォリオ、トービンの分離定理
第12回	資本資産価格モデル	市場ポートフォリオ、資本市場線、シャープ・レシオ、CAPM、証券市場線、ジェンセンのアルファ
第13回	外国株投資と為替変動リスク	外国株式、為替変動リスク、S&P500、ホームバイアス、情報の非対称性、取引コスト
第14回	資産形成と証券投資の現実	税制優遇制度、個別株投資と株式投資信託、インデックス運用とアクティブ運用、損失と失敗

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。講義資料の復習を十分に行うこと。知識や理論を積み上げることで授業が進んでいくので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。講義資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（3）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習・課題（50％）と平常点（50％）で評価する。授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel演習に関する発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
個人の資産形成に関心のある学生が多いので、個人投資家からみた株式投資や資産運用に関するトピックや、それらに関するExcel演習に多くの時間を費やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
毎回Excelを使うので、Excelが使えるノートPCを各自で用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。

【前提知識】
中学程度の数学の基礎知識（2次方程式、連立方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞

（1）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（2）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（3）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021年3月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
ファイナンス入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management. [Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50% , in class contribution: 50%.

MAN500F1 – 0097（経営学 / Management 500）

経営分析

福多　裕志

備考（履修条件等）：**夜共通と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献8：米文献2の割合）を参照しながら、基礎統計学の理論を援用し、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。特に、各種比率に関する業界の中心的傾向を探るために、財務諸表分析に推定・検定の統計手法を応用する可能性を探りたい。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なり、広い分野に援用可能となる授業の展開を心がけたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値、分散を推定し(推測統計)、計算結果を評価し、合理的意思決定に供する情報を創出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第2回	財務諸表分析の枠組み：その1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第3回	財務諸表分析の枠組み：その2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の4領域の確認と問題演習
第4回	短期利益計画1	損益分岐点分析の構造
第5回	短期利益計画2	損益分岐点分析の現実データへの応用
第6回	中間発表	さまざまな業界の事例研究
第7回	経営分析への基礎統計学の応用1	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第8回	経営分析への基礎統計学の応用2	財務諸表分析において使用される主な分布－t分布等。問題演習
第9回	経営分析への基礎統計学の応用3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第10回	経営分析への基礎統計学の応用4	財務諸表分析において使用される主な分布－χ^2分布、F分布等。問題演習
第11回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第12回	経営分析への基礎統計学の応用5	複数業界の分散の推定・仮説検定
第13回	経営分析への基礎統計学の応用6	推定・仮説検定の事例研究、問題演習
第14回	最終試験	統計手法の応用に関して授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury (2008), *Management and Cost Accounting 7th ed.,* South-Western.
2) Ray H. Garrison (2008), *Managerial Accounting,* McGraw Hill International.
3) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
英語、日本語の参考文献は、随時、学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算用ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku Univrsity), 70, pp.1-36.
長谷川翔平 (2017)，「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」，『経営志林』，53(4)，pp.1-9.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku Univrsity), 70, pp.1-36.
長谷川翔平 (2017)，「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」，『経営志林』，53(4)，pp.1-9.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではそれを前提に論文作成に向けた指導やアドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。日程や指導スタイル等は、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」）についても同様です。ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画等
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点については一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までに初稿を完成できるような指導を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる専門領域や方法論の学習や日々の研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること等が必要となります。（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況等に応じて実施されます。通常は平日夜や土曜日を利用して行われることが多いです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。それは授業方式（「対面授業」や「オンライン授業（リアルタイム配信型）」等）においても同様です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。指導教員以外からもアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の学術的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題として指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、この点においては一切の融通が利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指すよう指導を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and/or organizational management. In doing so, students will (1) set their own theme, (2) survey, summarize, and examine relevant literature, (3) propose research questions and hypotheses, (4) find appropriate research methods, (5) gather and examine data, and (6) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINE を用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にサステナビリティ関連の研究についての，リサーチペーパーのテーマ設定します。設定したテーマについて理論的な考察を加えるとともに、経験的な検証等を行うことで設定した問題の解決を図ります。

【到達目標】
修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につける。関連した領域の文献レビューを行うとともに、質問票調査または事例研究に基づいて設定した問題を探究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第2回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第3回	研究テーマの検討	研究テーマとして。どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第4回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第5回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第6回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第7回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第8回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第9回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第10回	リサーチクエスチョンの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスチョンの設定を行う。
第11回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスチョンを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第12回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第13回	仮説の導出	リサーチクエスチョンを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第14回	データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスチョン、仮説にもとづいて、どのようなデータ等を入手すればよいかを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では３回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。
また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】
どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。
Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】
各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方が良い。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【Outline (in English)】
The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にサステナビリティ関連の研究についての，リサーチペーパーのテーマ設定します。設定したテーマについて理論的な考察を加えるとともに、経験的な検証等を行うことで設定した問題の解決を図ります。

【到達目標】
修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につける。関連した領域の文献レビューを行うとともに、質問票調査または事例研究に基づいて設定した問題を探究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第2回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第3回	研究テーマの検討	研究テーマとして。どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第4回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第5回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第6回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第7回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第8回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第9回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第10回	リサーチクエスチョンの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスチョンの設定を行う。
第11回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスチョンを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第12回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第13回	仮説の導出	リサーチクエスチョンを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第14回	データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスチョン、仮説にもとづいて、どのようなデータ等を入手すればよいかを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では３回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。
また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】
どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。
Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】
各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方が良い。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【Outline (in English)】
The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことでリサーチクエスチョンを明確にするとともに、必要なデータの収集とその分析および解釈を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
関連した学術文献をレビューすることで，修士論文の作成者の問題意識を明確にする。その際に，テーマに関連した基本的な学術成果を理解することを目標とする。さらに，自分の研究テーマに適した研究方法論を身につける。それによって，学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
文献のレビューおよび演習での議論を通じて，修士論文で取り扱う問題の論点の明確化を行う。論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、論文の作成を行うとともに，それについての議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索を行う対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞ることが必要となる。さらに、データの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行う。
6回目	先行研究のレビュー②	前回の議論に基づいて，先行研究のさらなるレビューを行う。また、その結果として、選択した領域において何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10回目	仮説の設定②	前回の議論に基づいて、検証すべき仮説についての検討を続ける。
11回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成①	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成②	データの入手方法、質問票の作成、ケース研究の方法等の検討を続ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、その問題意識と関連した学術論文を読み，整理しておくこと。
3～4回目　実務経験およびこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
5～6回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
7～8回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
9～10回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにするのかを明確にしてくること。
11～12回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
13～14回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
15回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、簡単なレジュメを作成すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づいて関連した文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルに目を通してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論のための準備および授業での議論への貢献で30％，中間レポートの提出で70％

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses.
Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations are required for each exercise. The standard preparation and review time for this seminar is 2 hours each.
Sessions 1 and 2: Based on your own awareness of the issues, read as much as you can of the academic papers related to your awareness of the issues.
Third and fourth sessions: Think of a specific research theme based on your own practical experience and previous studies. You should be able to clearly explain what you want to clarify and to what extent.
Students are expected to review previous research, referring to the academic papers introduced, according to their own research themes.
Based on the review of previous studies, what has been clarified so far? Clarify what has been clarified so far based on the review of previous studies and what remains to be clarified.
Based on the review of the previous studies, what has been clarified so far and to what extent, and what is to be clarified in each student's master's thesis.
In the 11th and 12th sessions, we will discuss the research methods used in the previous literature.
13th-14th To consider the sources for collecting the necessary data, or the questions to be asked if a questionnaire survey is to be conducted.
Students should formulate a hypothesis based on a review of previous research and prepare a brief resume. In doing so, the hypothesis should be able to be logically constructed based on the previous research.
Grading will be based on preparation for each discussion and contribution to the class discussion (30%), and submission of the mid-term report (70%).

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング･ファイナンス演習

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点をさらに明確にするとともに、仮説設定さらに仮説の検証を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につける。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	中間報告論文の follow-up	春学期に提出した中間報告の論文に基づいて，その後の進展も踏まえ，議論を行う。
2回目	データの分析方法①	仮説の検証方法について説明する。
3回目	データの分析方法②	引き続き、仮説の検証方法について説明する。
4回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5回目	データの分析②	前回に引き続き、データの分析結果を議論する。
6回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7回目	データ分析の結果の解釈②	前回に続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈について議論する。
8回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
13回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を最終的に修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。なお、本演習の準備及び復習時間は、各２時間を必要とします。
1回目　春学期に提出した中間報告論文およびその後の追加的な研究に基づいて議論を行う。
2～3回目　各自の研究に適当と思われる分析方法について学習すること。
4～5回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7回目　分析結果について解釈を行なうとともに，それについての議論を行う。
8～9回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～13回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。
14～15回目　教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルに目を通してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
演習における議論への貢献40％および報告の内容60％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses. Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations should be made for each exercise. The standard preparation and review time for this seminar is 2 hours each.
In the first session, you will perform the work requested in the interim report given in the spring semester.
The second and third sessions will be devoted to the study of analytical methods that are appropriate for each student's research.
Students will apply the analysis methods they have learned to the data they have obtained and conduct analysis.
Students will interpret the results of their analyses.

Students will compose chapters of their master's thesis and prepare a rough draft.
Students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor.
12th - 13th Additions and revisions to the master's thesis based on comments from the instructor.
Students will prepare a final version of their master's thesis based on comments from the instructor.
Evaluation will be based on 40%of the contribution to the discussion in the exercise and 60%of the content of the report.

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年7～8月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年7～8月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 − 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2〜3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2〜3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

中西　善信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、主に平日夜を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出2か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料（紙媒体の場合）。
連絡等は主に電子メールで行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営組織論
＜研究テーマ＞　正統性，アカウンタビリティ，組織学習
＜主要研究業績＞　ResearchMap参照のこと。

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

中西　善信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、主に平日夜を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出2か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料（紙媒体の場合）。
連絡等は主に電子メールで行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営組織論
＜研究テーマ＞　正統性，アカウンタビリティ，組織学習
＜主要研究業績＞　ResearchMap参照のこと。

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINE を用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINE を用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で学習・進捗状況に合わせて実施されます。多くは平日夜や土曜日等を利用して行われ対面・オンラインなどがあり得ます。指導スタイルは、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリLINEを用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度で学習・進捗状況に合わせ平日夜や土曜日等を利用して行われます。対面やオンラインなども含め指導スタイルは指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
　クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
　著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
　論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
技術経営、アントレプレナーシップ

【研究テーマ】
イノベーション・マネジメント、アントレプレナーシップ、ハイテク・スタートアップ

【主要業績】
①「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.②「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.③「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.④『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年.⑤「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年.
⑥ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014.⑦「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774.2011年.⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年.⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年.⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
技術経営、アントレプレナーシップ

【研究テーマ】
イノベーション・マネジメント、アントレプレナーシップ、ハイテク・スタートアップ

【主要業績】
①「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.②「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.③「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.④『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年.⑤「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年.
⑥ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑦「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774.2011年.⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年.⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年.⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。
The aim of this seminar is to complete a master's thesis which is advanced in content and to be presented at academic conferences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
Themes are set in the overarching area of distribution and Marketing and the dissertation would be completed using thematic research methodology, ranging from theoretical to empirical approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。
Research activities such as literature reviews and data collection, as well as commissioning research subjects, briefing, data analysis and writing should be carried out outside the classroom by the students themselves.

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。
The evaluation items are academic persuasiveness as a master's thesis and practical and theoretical contributions. The thesis would be evaluated on the basis of 60%for completion and 40%for attitude and effort towards the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング
＜研究テーマ＞テリトーリオ、地域活性化、地理的表示保護制度
＜主要研究業績＞
木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ:農業が社会を変える』白桃書房.
木村純子・陣内秀信編著(2022)『イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房.
木村純子・中村丁次編著(2022)『持続可能な酪農:SDGsへの貢献』中央法規.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。
The aim of this seminar is to complete a master's thesis which is advanced in content and to be presented at academic conferences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。
Themes are set in the overarching area of distribution and Marketing and the dissertation would be completed using thematic research methodology, ranging from theoretical to empirical approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。
Research activities such as literature reviews and data collection, as well as commissioning research subjects, briefing, data analysis and writing should be carried out outside the classroom by the students themselves.

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。
The evaluation items are academic persuasiveness as a master's thesis and practical and theoretical contributions. The thesis would be evaluated on the basis of 60%for completion and 40%for attitude and effort towards the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング
＜研究テーマ＞テリトーリオ、地理的表示保護制度、地域活性化
＜主要研究業績＞木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ:農業が社会を変える』白桃書房.
木村純子・陣内秀信編著(2022)『イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房.
木村純子・中村丁次編著(2022)『持続可能な酪農:SDGsへの貢献』中央法規.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
消費者行動論
＜研究テーマ＞
消費者情報処理とブランドマーケティング戦略
＜主要研究業績＞
researchmapをご参照下さい

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
消費者行動論
＜研究テーマ＞
消費者情報処理とブランドマーケティング戦略
＜主要研究業績＞
researchmapをご参照下さい

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文あるいはリサーチペーパー作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定の各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文あるいはリサーチペーパー作成の年間計画を作成する
第2回	修士論文あるいはリサーチペーパーテーマの決定（1）	修士論文あるいはリサーチペーパーのテーマについて議論する
第3回	修士論文あるいはリサーチペーパーテーマの決定（2）	修士論文あるいはリサーチペーパーのテーマを発表する
第4回	先行研究のレビュー（1）	先行研究のリストを作成する
第5回	先行研究のレビュー（2）	先行研究をレビューし報告する
第6回	先行研究のレビュー（3）	追加的な先行研究のレビューを報告する
第7回	リサーチ・クエスチョンの導出	先行研究のレビューに基づきリサーチ・クエスチョンを導出する
第8回	仮説構築（1）	先行研究のレビュー結果を整理する
第9回	仮説構築（2）	仮説構築に必要な理論的基盤を決定する
第10回	仮説構築（3）	仮説構築のために追加的な先行研究のレビューを行う
第11回	仮説構築（4）	仮説を導出する
第12回	調査方法の検討（1）	仮説検証に適切な調査方法を調査する
第13回	調査方法の検討（2）	仮説検証に適切な調査方法を決定する
第14回	リサーチ・プロポーザル	リサーチ・プロポーザルを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定に必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
リサーチ・プロポーザル：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
リサーチ・プロポーザルは、リサーチ・クエスチョン、先行研究のレビュー、仮説、研究方法の提示までを含む。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
（Course outline）
This seminar provides students with guidance on conducting academic research and writing a master's thesis/research paper. Instructions will be given at each stage of the research process, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and result interpretation.
（Learning Objectives）
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct a literature review
2. To develop a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design a research method
（Learning activities outside of classroom）
Students are expected to conduct a literature review, formulate a research question, develop hypotheses, and design a method to test hypotheses. These are conducted outside the classroom. Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
（Grading Criteria /Policy）
Contribution to the seminar: 50%
Research proposal: 50%

MAN500F1 － 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文あるいはリサーチペーパー作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。経営学演習Ⅱでは、修士論文あるいはリサーチペーパーを完成させる。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。
５．データ収集の方法を習得する。
６．データ分析の方法を習得する。
７．仮説検証の結果からインプリケーションを導出する。
８．修士論文あるいはリサーチペーパーを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データの収集、データの分析、分析結果の解釈、ライティングの各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでの進捗状況を報告する
第2回	データの収集（1）	データ収集の方法を決定する
第3回	データの収集（2）	データ収集を実施する
第4回	データの収集（3）	データ収集を完了させる
第5回	データの整理（1）	分析のためのデータベースを作成する
第6回	データの整理（2）	データベースを分析可能な形にする
第7回	データの分析（1）	データ分析の方法を決定する
第8回	データの分析（2）	データ分析を実施する
第9回	データの分析（3）	追加的なデータ分析を実施する
第10回	分析結果の解釈（1）	仮説の検証を行う
第11回	分析結果の解釈（2）	仮説検証の結果を解釈する
第12回	分析結果の解釈（3）	仮説検証の結果からインプリケーションを導出する
第13回	論文完成（1）	修士論文あるいはリサーチペーパーを書き終える
第14回	論文完成（2）	修士論文あるいはリサーチペーパー作成を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データ収集、データ分析、結果の解釈、ライティングに必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
修士論文あるいはリサーチペーパー：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
修士論文あるいはリサーチペーパーは、完成した修士論文あるいはリサーチペーパーのことである。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
（Course outline）
This seminar provides students with guidance on conducting academic research and writing a master's thesis/research paper. Instructions will be given at each stage of the research process, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and result interpretation. Students will write up a master's thesis/research paper by the end of the semester.
（Learning Objectives）
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct a literature review
2. To develop a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design a research method
5. To learn how to collect data
6. To learn how to analyze data
7. To learn how to draw implications from the results of the analysis
8. To write up a master's thesis/research paper
（Learning activities outside of classroom）
Students are expected to conduct a literature review, formulate a research question, develop hypotheses, design a method to test hypotheses, collect data, analyze data, interpret results, and write a master's thesis/research paper. These are conducted outside the classroom.
Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
（Grading Criteria /Policy）
Contribution to the seminar: 50%
Master's thesis/research paper: 50%

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な作法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文/リサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、クラスではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
高水準を有する経営学分野の修士論文／リサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめる学術論文の作成を含む一連のプロセスを着々と歩む必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告し、指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	学術論文の基本を理解し、演習の進め方を決定します。
第2回	研究計画の作成指導	問題関心と関連の予備知識を確認し、実行可能性を検討します。
第3回	研究計画の作成指導	研究テーマの検討と決定を行います。
第4回	研究計画の作成指導	採用すべき研究手法および研究目的を検討します。
第5回	先行研究のレビュー	先行研究の調べ方や絞り方などを学びます。
第6回	先行研究のレビュー	先行研究から必要な情報や知見を集める方法を学びます。
第7回	先行研究のレビュー	先行研究から集めた情報や知見の整理方法を学びます。
第8回	先行研究のレビュー	先行研究の知見を踏まえて研究課題を設定します。
第9回	仮説ないし命題の検討	研究課題について、仮説ないし命題を構築します。
第10回	調査対象の検討	仮説や命題の検証を行うためのデータや情報のソースについて検討します。
第11回	調査計画の検討	具体的な調査計画を検討します。
第12回	調査計画の検討	具体的な調査計画を検討し決定します。
第13回	予備調査について	パイロット調査の結果を踏まえて調査計画を修正します。
第14回	調査計画の決定	夏季休暇中の本格的な調査実施に向けて調査計画を決定し、準備状況を点検します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のサーベイやパイロット調査の実施などの作業は授業時間外で行います。そのための時間を十分に確保する必要があります。修論/RP研究のためには毎週10時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究テーマと研究手法に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の進捗状況に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究計画の水準と進捗状況、研究への姿勢などの平常点50％、修士論文の水準50％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
RefWorksをパソコンにインストールしておきます。毎回の演習にパソコンを持参します。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023年（論文）、『業界別物流管理とSCMの実践』2022年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021年（論文）など

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information. As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the student's class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な作法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文/リサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、クラスではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
高水準を有する経営学分野の修士論文/リサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめる学術論文の作成を含む一連のプロセスを着々と歩む必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告し、指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、データ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要な追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について	追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得たデータや発見を分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導	分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導	導入部分、要旨、文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査、分析、執筆などの作業は基本的に授業時間外で行います。授業では作業の結果と進捗状況を報告し、指導を受けます。修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究への姿勢、取り組みなどの平常点50％、修士論文/リサーチペーパーの完成度・水準50％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、パソコンを持参します。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023年（論文）、『業界別物流管理とSCMの実践』2022年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021年（論文）など

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information. As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the student's class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、修士課程２年次に在籍する学生を対象に、ビジネスとマネジメントに関するリサーチペーパー作成をするための研究指導を行います。前年度末に行われた研究課題の提案（プロポーザル）をもとにして、昼間の修士課程のなかで担当の指導教員が決定されています。指導教授への配属の決まった院生が履修する科目ですので、それ以外の学生は履修できません。

【到達目標】
一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て意義のあるリサーチペーパーの完成を目指します。研究課題の発見とそのための能力、先行研究の読解と理解力、英語・日本語文献の読解力と会話能力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力、生成ＡＩの利用方法など、高度な思考能力と知的生産性を養い、リサーチペーパーの作成に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業を履修する学生は、そのリサーチペーパー作成の進捗状況に応じて、授業時間を使った個別指導を行います。なお、授業日程と開講曜日については、学生と教員とが話し合って決定します。リサーチペーパーの執筆を予定している学生諸君は、そのテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員からのアドバイスをもらうとともに文章の推敲を行います。本演習は春学期２単位科目ですが、秋学期にも同名の2単位科目が準備されています。授業内容に応じてZoomでのプレゼンテーションを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	リサーチペーパー執筆の年間計画を策定する。教科書の紹介。
第2回	研究計画の作成指導①	リサーチペーパーのテーマと調査・研究・執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	研究計画の作成指導②	リサーチペーパーのテーマと調査計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	リサーチペーパーの研究テーマに適合的な調査方法論について議論する。
第10回	調査方法の検討②	リサーチペーパーの研究テーマに適合的な調査のためのリサーチクエスチョンについて議論する。
第11回	調査方法の検討③	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査の準備を行う。
第12回	調査方法の検討④	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査日程の準備を行う。
第13回	調査方法の検討⑤	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査項目の準備を行う。
第14回	中間報告の準備	リサーチペーパーの中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、講義及び演習（2単位）では授業1回につき4時間以上が標準となります。具体的な課題は下記のとおりです。前期では、このうち14回を行います。
第1回　リサーチペーパーのテーマを構想する。
第2～3回　リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要を作成する。
第4～8回　テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
第9～13回　具体的な調査方法を考案する。
第14回　中間報告のための資料を作成する。
第15回　中間報告のコメントを参照して追加の計画を立てる。
第16～20回　具体的な調査とその報告を行う。
第21～23回　調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
第24～28回　リサーチペーパーを執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎共著(2018)『Ｒによるやさしい統計学』オーム社.
パトリック・Ａ・メロ著『質的比較分析（ＱＣＡ）－リサーチデザインと実践－』千倉書房.
多田和美(2014)『グローバル製品開発戦略ー日本コカ・コーラ社の成功と日本ペプシコ社の撤退ー』有斐閣.
（これらのテキストのうち、いずれを利用するかは、受講生の研究計画にしたがって決定します。授業開始前までに購入する必要はありません。図書館で借りて内容を一瞥すると研究方法を参考にできます。）

【参考書】
①洞口治夫『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018年. ＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。
④小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

【成績評価の方法と基準】
配分: 平常点（50％）、報告（50％）
評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、リサーチペーパーの評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。2024年度からリサーチペーパーの作成指導となりましたので、広い視野で調査に取り組むことが可能になりました。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、スマートフォン、パソコン、ノート、筆記用具は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】
本科目を履修する学生諸君には、国際経営論を履修しておくことをお薦めします。実務に活かす研究とはどのようなものか、理解する助けになるでしょう。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞ Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
④『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
⑤『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
⑥『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
＜論文＞
⑦Organization philosophy: a study of organizational goodness in the age of human and artificial intelligence collaboration, AI &Society (2024). DOI https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6
⑧ "Forecasting foreign exchange rates as group experiment: Actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds", Review of Behavioral Finance, (2023), Vol. 15 No. 5, pp. 652-671. https://doi.org/10.1108/RBF-09-2021-0176

【Outline (in English)】
【Course outline 】This course offers research support for second-year master's students whose faculty advisor is Horaguchi and are writing a research paper on international business.
【Learning Objectives 】A supervisor is assigned based on the research proposal submitted at the end of the preceding year in the daytime master's program. Access to this course is restricted to graduate students assigned to this specific program and is not open to other students.
【Learning activities outside of classroom 】
The standard preparation and review time for a lecture and exercise course (2 credits) is at least 4 hours per class session.
【Grading Criteria /Policy 】
Assessment Weights: Regular performance (50%), Reports (50%)
Evaluation Criteria:
Assessment is based on attendance and weekly reports. The evaluation criteria for the research paper include the soundness of the theoretical framework, the rigor of empirical analysis, logical consistency, originality of the topic, and proficiency in Japanese writing.

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、修士課程２年次生の学生を対象に、リサーチペーパー作成をするための研究指導を行います。前年度末に行われた研究課題の提案（プロポーザル）をもとにして、昼間の修士課程のなかで担当の指導教員が決定されています。配属の決まった院生が履修する科目ですので、それ以外の学生は履修できません。秋学期には、春学期と夏休み期間中に積み上げた調査・研究をもとに、リサーチペーパーの完成を目指します。

【到達目標】
一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高いリサーチペーパーの完成を目指します。研究課題の発見とそのための能力、先行研究の読解と理解力、英語・日本語文献の読解力と正しい発音、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、リサーチペーパーの作成に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業を履修する学生は、そのリサーチペーパー作成の進捗状況に応じて、授業時間内での個別指導を行います。なお、授業日程と開講曜日については、学生と教員とが話し合って決定します。リサーチペーパーの執筆を予定している学生諸君は、そのテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員からのアドバイスをもらうとともに文章の推敲を行います。本演習は春学期２単位科目ですが、秋学期にも同名の2単位科目が準備されています。授業内容に応じてZoomでのプレゼンテーションを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	リサーチペーパーの作成状況を確認する。教科書を参考にした研究水準の理解を行う。
第2回	研究指導①	リサーチペーパーの作成におけるテーマと調査・研究・執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	研究指導②	リサーチペーパー作成のテーマと調査計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第5回	先行研究の検討②	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第6回	先行研究の検討③	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第7回	先行研究の検討④	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第8回	先行研究の検討⑤	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を文章にまとめ、内容を確認する。
第9回	調査の検討①	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第10回	調査の検討②	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第11回	調査の検討③	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第12回	調査の検討④	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な調査が行われたか、確認する。
第13回	リサーチペーパーの執筆と推敲	リサーチペーパーで選んだ研究テーマに適合的な日本語表現を確認する。
第14回	最終報告の準備	リサーチペーパーの最終報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では授業1回につき4時間以上が標準となります。具体的な課題は下記のとおりです。秋学期では、このうち15回から28回までを行います。
第1回　リサーチペーパーのテーマを構想する。
第2～3回　リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要を作成する。
第4～8回　テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
第9～13回　具体的な調査方法を考案する。
第14回　中間報告のための資料を作成する。
第15回　中間報告のコメントを参照して追加の計画を立てる。
第16～20回　具体的な調査を行う。
第21～23回　調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
第24～28回　リサーチペーパーを執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎共著(2018)『Rによるやさしい統計学』オーム社.
パトリック・A・メロ著『質的比較分析（QCA）－リサーチデザインと実践－』千倉書房.
多田和美(2014)『グローバル製品開発戦略ー日本コカ・コーラ社の成功と日本ペプシコ社の撤退ー』有斐閣.
（これらのテキストのうち、いずれを利用するかは、受講生の研究計画にしたがって決定します。授業開始前までに購入する必要はありません。図書館で借りて内容を一瞥すると研究方法を参考にできます。）

【参考書】
①洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018年. ＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。
④小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

【成績評価の方法と基準】
配分: 平常点（50％）、報告（50％）
評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、リサーチペーパーの評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。2024年度からリサーチペーパーの作成指導となりましたので、修士論文よりも広い視野で調査に取り組むことが可能になりました。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、スマートフォン、パソコン、ノート、筆記用具は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】
本科目を履修する学生諸君には、国際経営論を履修しておくことを強くお薦めします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞ Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
④『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
⑤『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009年。
⑥『MBAのナレッジマネジメント』文眞堂、2018年。
＜論文＞
⑦Organization philosophy: a study of organizational goodness in the age of human and artificial intelligence collaboration, AI &Society (2024). DOI https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6
⑧ "Forecasting foreign exchange rates as group experiment: Actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds", Review of Behavioral Finance, (2023), Vol. 15 No. 5, pp. 652-671. https://doi.org/10.1108/RBF-09-2021-0176

【Outline (in English)】
【Course outline 】In the fall semester, we aim to complete research papers based on the investigations and studies accumulated during the spring semester and summer break. This course offers research support for second-year master's students whose faculty advisor is Horaguchi and are writing a research paper on international business.
【Learning Objectives 】A supervisor is assigned based on the research proposal submitted at the end of the preceding year in the daytime master's program. Access to this course is restricted to graduate students assigned to this specific program and is not open to other students.
【Learning activities outside of classroom 】
The standard preparation and review time for a lecture and exercise course (2 credits) is at least 4 hours per class session.
【Grading Criteria /Policy 】
Assessment Weights: Regular performance (50%), Reports (50%)
Evaluation Criteria:
Assessment is based on attendance and weekly reports. The evaluation criteria for the research paper include the soundness of the theoretical framework, the rigor of empirical analysis, logical consistency, originality of the topic, and proficiency in Japanese writing.

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

児玉　靖司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、経営学研究科に属する大学院生に対して修士論文ないしリサーチペーパーの作成に関する指導を行うものである。特に、AIおよびデータサイエンスの理論と実践的応用について学び、課題の解決に向けた分析能力とデータ駆動型意思決定のスキルを養うことを目的とする。AI活用の最新動向を理解し、実際のデータを用いた分析を通じて実践的なスキルを身につける。特に、修士論文は、学術的に新しい知見を必要とする。この演習を通じて知見の発見を目指す。

【到達目標】
1. AI・データサイエンスの基礎理論を理解し、応用力を養う。
2. データ分析の手法（統計分析・機械学習・深層学習）を習得する。
3. PythonやRなどのツールを用いたデータ処理・可視化ができる。
4. 課題に対してデータを活用した意思決定ができる。
5. ケーススタディや実務的なプロジェクトを通じて、理論だけでなく実践的なスキルを磨く。
6. データの収集、整理、分析、可視化、モデリング、評価までの一連のプロセスを理解し、実行できる。
7. 最新のAI技術やデータサイエンス手法を学び、継続的に知識をアップデートできる能力を身につける。
8. AIやデータ分析に関する倫理的課題を理解し、責任あるデータ活用の実践ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は、先行研究レビュー、研究テーマの設定、実践的な演習（分析）、プロジェクトベースの学習を組み合わせた形で進める。各回の授業では、まず理論的な概念や手法について議論を行い、その後、実際のデータを用いた分析演習を実施する。受講生は、PythonやRを活用しながら、与えられた課題に対してデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、結果を考察する。また、ケーススタディを活用し、AIやデータサイエンスの応用について考察を行う。
中盤以降は、プロジェクト活動を進め、課題の解決に向けたデータ分析プロジェクトを設計・実施する。進捗状況を適宜発表し、フィードバックを受けながらブラッシュアップを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	AI・データサイエンスの概要について	自己紹介、論文執筆に関する年間計画の策定を行う。
第2回	研究計画書に関する検討（1）	リサーチクエスチョンを検討する。
第3回	研究計画書に関する検討（2）	論文のテーマと概要を確定する。
第4回	先行研究の検討（1）	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第5回	先行研究の検討（2）	論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第6回	研究に関連する本の検討	研究に関連する本を検討する。
第7回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第8回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第9回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第10回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第11回	中間発表に向けて研究進捗報告とフィードバック（1）	研究テーマについて発表し、議論しプラッシュアップする。
第12回	中間発表に向けて研究進捗報告とフィードバック（2）	研究テーマについて発表し、議論しプラッシュアップする。
第13回	中間発表練習	中間発表の練習を行う。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行い、秋学期からの進め方について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献についても積極的に参照する。

【参考書】
特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】
[春学期評価] 原則として、毎週出席し、課題発表と研究進捗報告を行う。最終的に、中間発表の準備を行う。平常点（40%）,発表内容について（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システムClassroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
研究活動に集中するように心がける。他大学と協同して研究を進めることを考えているので，輪読をしたり，研究発表を積極的に行うことが望ましい。

【実務経験のある教員による授業】
実際に、研究者として論文執筆，問題解決能力を養うように工夫する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 人工知能（AI）、情報学
< 研究テーマ> ディープラーニング、学習解析、コンピュータ科学
< 主要研究業績>
· Memoization in Model Checking for Safety Properties with Multi-Swarm Particle Swarm Optimization,(MDPI,Electronics 2024).
· Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Machine Learning, Learning Analytics & Knowledge Conference (LAK18).
· Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Deep Learning, Proc. of 4th Annual Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI 2017).
· Using Deep Learning to Predict Students' Programming Performance from Behavioral Features, Proc. of LASI-Asia 2017, JASLA, 2017.
· Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.
· Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.
· JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.
· http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses_e1.html

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This seminar provides guidance for graduate students in the Business Administration Graduate School on writing a master's thesis or research paper. Specifically students will learn both theoretical and practical applications of AI and data science with the goal of developing analytical skills and data-driven decision-making abilities for solving problems. By understanding the latest trends in AI and conducting data analysis with real-world datasets. In particular, a master's thesis requires the discovery of academically new insights and this seminar aims to facilitate such discoveries.

[Learning Objectives]

1. Understand the fundamental theories of AI and data science and develop application skills.2. Acquire methodologies for data analysis including statistical analysis, machine learning, and deep learning. 3. Develop proficiency in data processing and visualization using tools such as Python and R. 4. Utilize data for decision-making in problem-solving scenarios.5. Enhance both theoretical and practical skills through case studies and hands-on projects.6. Learn and execute the entire process of data collection, preprocessing, analysis, visualization, modeling, and evaluation.7. Stay updated with the latest AI technologies and data science methodologies and develop the ability to continuously update knowledge.
8. Understand ethical considerations in AI and data analysis and practice responsible data utilization.

[Learning Activities Outside of Classroom]

This seminar combines paper review, research topic selection, hands-on exercises (data analysis), and project-based learning. Each session begins with a discussion of theoretical concepts and methodologies, followed by hands-on exercises using real-world data. Students will use Python or R to collect, preprocess, visualize, and analyze data for assigned tasks and critically interpret their results. Additionally, case studies will be utilized to explore AI and data science applications.

In the latter half of the course, students will work on project-based activities, designing and implementing data analysis projects to solve specific problems. They will present progress reports periodically, receive feedback, and refine their projects accordingly.

[Grading Criteria /Policy]

In principle, students are required to attend classes weekly, present assignments and report on their research progress. At the last class, students will prepare for their mid-term presentation. Evaluation is based on class participation (40%) and presentation (60%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

児玉　靖司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営学研究科に属する大学院生に対して修士論文ないしリサーチペーパーの作成に関する指導を行うものである。特に、AIおよびデータサイエンスの理論と実践的応用について学び、課題の解決に向けた分析能力とデータ駆動型意思決定のスキルを養うことを目的とする。AI活用の最新動向を理解し、実際のデータを用いた分析を通じて実践的なスキルを身につける。特に、修士論文は、学術的に新しい知見を必要とする。この演習を通じて知見の発見を目指す。

【到達目標】

1. AI・データサイエンスの基礎理論を理解し、応用力を養う。
2. データ分析の手法（統計分析・機械学習・深層学習）を習得する。
3. PythonやRなどのツールを用いたデータ処理・可視化ができる。
4. 課題に対してデータを活用した意思決定ができる。
5. ケーススタディや実務的なプロジェクトを通じて、理論だけでなく実践的なスキルを磨く。
6. データの収集、整理、分析、可視化、モデリング、評価までの一連のプロセスを理解し、実行できる。
7. 最新のAI技術やデータサイエンス手法を学び、継続的に知識をアップデートできる能力を身につける。
8. AIやデータ分析に関する倫理的課題を理解し、責任あるデータ活用の実践ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

[概要]

本演習は、先行研究レビュー、研究テーマの設定、実践的な演習（分析）、プロジェクトベースの学習を組み合わせた形で進める。各回の授業では、まず理論的な概念や手法について議論を行い、その後、実際のデータを用いた分析演習を実施する。受講生は、PythonやRを活用しながら、与えられた課題に対してデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、結果を考察する。また、ケーススタディを活用し、AIやデータサイエンスの応用について考察を行う。

中盤以降は、プロジェクト活動を進め、課題の解決に向けたデータ分析プロジェクトを設計・実施する。進捗状況を適宜発表し、フィードバックを受けながらブラッシュアップを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間発表の最終検討	中間発表の最終検討を行い、中間発表をする。
第2回	中間発表に対するフィードバックの検討	中間発表に対するフィードバックについて検討する。
第3回	研究課題についてブラッシュアップ（1）	研究課題についてブラッシュアップ（1）
第4回	研究課題についてブラッシュアップ（2）	研究課題についてブラッシュアップ（2）
第5回	研究課題についてブラッシュアップ（3）	研究課題についてブラッシュアップ（3）
第6回	追加研究の検討または、論文の草稿（1）	追加の研究の検討または、論文の草稿を検討する（1）。
第7回	追加研究の検討または、論文の草稿（2）	追加の研究の検討または、論文の草稿を検討する（2）。
第8回	追加研究の検討または、論文の草稿（3）	追加の研究の検討または、論文の草稿を検討する（3）。
第9回	追加研究の検討または、論文の草稿（4）	追加の研究の検討または、論文の草稿を検討する（4）。
第10回	追加研究の検討または、論文の草稿（5）	追加の研究の検討または、論文の草稿を検討する（5）。
第11回	修論発表に向けて研究進捗報告とフィードバック（1）	修論発表し、議論しブラッシュアップする（1）。
第12回	修論発表に向けて研究進捗報告とフィードバック（2）	修論発表し、議論しブラッシュアップする（2）。
第13回	修士論文発表練習	修士論文発表の練習を行う。
第14回	修士論文発表の最終調整	修士論文を完成させるとともに口述試験についての助言を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献についても積極的に参照する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

[秋学期評価] 原則として、毎週出席し、課題発表と研究進捗報告を行う。最終的に、研究テーマを決定し、修士論文発表を行う。平常点（40％), 修士論文発表について（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度につき、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システムClassroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

研究活動に集中するように心がける。他大学と協同して研究を進めることを考えているので，輪読をしたり，研究発表を積極的に行うことが望ましい。

【実務経験のある教員による授業】

実際に、研究者として論文執筆, 問題解決能力を養うように工夫する。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域> 人工知能（AI）、情報学

< 研究テーマ> ディープラーニング、学習解析、コンピュータ科学

< 主要研究業績>

· Memoization in Model Checking for Safety Properties with Multi-Swarm Particle Swarm Optimization,(MDPI,Electronics 2024).

· Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Machine Learning, Learning Analytics & Knowledge Conference (LAK18).

· Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Deep Learning, Proc. of 4th Annual Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI 2017).

· Using Deep Learning to Predict Students' Programming Performance from Behavioral Features, Proc. of LASI-Asia 2017, JASLA, 2017.

· Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.

· Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.

· JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.

· http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses_e1.html

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This seminar provides guidance for graduate students in the Business Administration Graduate School on writing a master's thesis or research paper. Specifically students will learn both theoretical and practical applications of AI and data science with the goal of developing analytical skills and data-driven decision-making abilities for solving problems. By understanding the latest trends in AI and conducting data analysis with real-world datasets. In particular, a master's thesis requires the discovery of academically new insights and this seminar aims to facilitate such discoveries.
[Learning Objectives]
1. Understand the fundamental theories of AI and data science and develop application skills.2. Acquire methodologies for data analysis including statistical analysis, machine learning, and deep learning. 3. Develop proficiency in data processing and visualization using tools such as Python and R. 4. Utilize data for decision-making in problem-solving scenarios.5.
Enhance both theoretical and practical skills through case studies and hands-on projects.6. Learn and execute the entire process of data collection, preprocessing, analysis, visualization, modeling, and evaluation.7. Stay updated with the latest AI technologies and data science methodologies and develop the ability to continuously update knowledge.
8. Understand ethical considerations in AI and data analysis and practice responsible data utilization.
[Learning Activities Outside of Classroom]
This seminar combines paper review, research topic selection, hands-on exercises (data analysis), and project-based learning. Each session begins with a discussion of theoretical concepts and methodologies, followed by hands-on exercises using real-world data. Students will use Python or R to collect, preprocess, visualize, and analyze data for assigned tasks and critically interpret their results. Additionally, case studies will be utilized to explore AI and data science applications.

In the latter half of the course, students will work on project-based activities, designing and implementing data analysis projects to solve specific problems. They will present progress reports periodically, receive feedback, and refine their projects accordingly.
[Grading Criteria /Policy]
In principle, students are required to attend classes weekly, present assignments and report on their research progress. At the last class, they must finalize their research topic and present their master's thesis. Evaluation is based on class participation (40%) and the master's thesis presentation (60%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士課程の2年生を対象に、リサーチペーパー（RP）・修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週100分間、あるいは、隔週に200分間の授業が行われる。授業の内容は、RP・修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、RP・修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画はRP・修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	研究の構成を検討する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サーキュラーエコノミー,　サステナビリティ情報開示

【担当教員の主要研究業績】
- Kitada, H., Tennojiya, T., Kim, J., &Higashida, A. (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems, 6, 100089.
- Nishitani, K., Kokubu, K., Wu, Q., Kitada, H., Guenther, E., &Guenther, T. (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219.
- Kokubu, K., Nishitani, K., Kitada, H., &Ando, M. (2022). Emergent Responsible Management. Springer, Singapore.
- Kitada, H., &Takehara, M., (2022). Circular Economy in Climate-related Disclosures. Proceedings of the First Australian International Conference on Industrial Engineering and Operations Management, Sydney, Australi

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
·The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士課程の2年生を対象に、リサーチペーパー（RP）・修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週100分間、あるいは、隔週に200分間の授業が行われる。授業の内容は、RP・修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、RP・修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画はRP・修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	研究の構成を検討する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席(50％)、発表・報告(50％)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サーキュラーエコノミー,　サステナビリティ情報開示

【担当教員の主要研究業績】
- Kitada, H., Tennojiya, T., Kim, J., &Higashida, A. (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems, 6, 100089.
- Nishitani, K., Kokubu, K., Wu, Q., Kitada, H., Guenther, E., &Guenther, T. (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219.
- Kokubu, K., Nishitani, K., Kitada, H., &Ando, M. (2022). Emergent Responsible Management. Springer, Singapore.
- Kitada, H., &Takehara, M., (2022). Circular Economy in Climate-related Disclosures. Proceedings of the First Australian International Conference on Industrial Engineering and Operations Management, Sydney, Australi

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
·The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。
The aim of this seminar is to complete a master's thesis which is advanced in content and to be presented at academic conferences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
Themes are set in the overarching area of distribution and Marketing and the dissertation would be completed using thematic research methodology, ranging from theoretical to empirical approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。
Research activities such as literature reviews and data collection, as well as commissioning research subjects, briefing, data analysis and writing should be carried out outside the classroom by the students themselves.

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。
The evaluation items are academic persuasiveness as a master's thesis and practical and theoretical contributions. The thesis would be evaluated on the basis of 60%for completion and 40%for attitude and effort towards the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング
＜研究テーマ＞テリトーリオ、地理的表示保護制度、地域活性化
＜主要研究業績＞木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ:農業が社会を変える』白桃書房.
木村純子・陣内秀信編著(2022)『イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房.
木村純子・中村丁次編著(2022)『持続可能な酪農:SDGsへの貢献』中央法規.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 － 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。
The aim of this seminar is to complete a master's thesis which is advanced in content and to be presented at academic conferences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
Themes are set in the overarching area of distribution and Marketing and the dissertation would be completed using thematic research methodology, ranging from theoretical to empirical approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。
Research activities such as literature reviews and data collection, as well as commissioning research subjects, briefing, data analysis and writing should be carried out outside the classroom by the students themselves.

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。
The evaluation items are academic persuasiveness as a master's thesis and practical and theoretical contributions. The thesis would be evaluated on the basis of 60%for completion and 40%for attitude and effort towards the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング
＜研究テーマ＞テリトーリオ、地理的表示保護制度、地域活性化
＜主要研究業績＞木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ:農業が社会を変える』白桃書房.
木村純子・陣内秀信編著(2022)『イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房.
木村純子・中村丁次編著(2022)『持続可能な酪農:SDGsへの貢献』中央法規.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 － 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表ができるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の３点を目指します。
①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。
②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。
③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	問題意識の明確化①	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
2	問題意識の明確化②	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	先行研究についての指導
5	先行研究の検討③	先行研究についての指導
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法についての指導
8	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
9	第１回中間報告	中間報告での指導
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	調査状況に基づき指導
12	調査実施状況の確認③	調査状況に基づき指導
13	調査実施状況の確認④	調査状況に基づき指導
14	調査実施状況の確認⑤	調査状況に基づき指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房）。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文への取り組み姿勢（30％）と修士論文の内容（70％）で評価します。修士論文の内容については、文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性を基にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
指導方法においてわかりやすさを意識しながら進める予定です。
進展度合いが確認できるように配慮して進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目ならびに基礎的な統計的知識を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門領域等】
researchmap をご参照下さい。

【Outline (in English)】
【Outline】
This class provides the skills required to write a master's thesis on marketing. Students will gain skills for an academic methodology and marketing practices.
【Objectives】
Major course objectives are;
-To get the knowledge in the area of consumer behavior and marketing strategy.
-To learn marketing methodology.
-To create original hypothesis.
-To get presentation skills required to communicate original ideas.
-To write a master's thesis.
The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc.
【Learning activities outside of classroom】
Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】
The grade is calculated by the completeness of a final paper (70%) and the attitude toward the class (30%).

MAN500F1 － 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表ができるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の３点を目指します。
①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。
②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。
③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
第2回	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
第3回	調査実施状況の確認⑦	調査状況に基づき指導
第4回	調査実施状況の確認⑧	調査状況に基づき指導
第5回	調査結果の検討①	調査状況に基づき指導
第6回	調査結果の検討②	調査状況に基づき指導
第7回	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
第8回	第２回中間報告	中間報告での指導
第9回	修士論文執筆の指導①	修士論文執筆の指導
第10回	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
第11回	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導
第12回	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
第13回	修士論文の最終確認①	修士論文執筆の最終指導
第14回	修士論文の最終確認②	修士論文執筆の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房）。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文への取り組み姿勢（30％）と修士論文の内容（70％）で評価します。修士論文の内容については、文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性を基にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
着実に進められるように、進め方において体系立てた工夫を考えます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目ならびに基礎的な統計的知識を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
researchmapをご参照下さい。

【Outline (in English)】
【Outline】
This class provides the skills required towrite amaster's thesis on marketing.Students will gain skills for anacademic methodology and marketing practices.
【Objectives】
Major course objectives are;
-To get the knowledge in the area of consumer behavior and marketing strategy.
-To learn marketing methodology.
-To create original hypothesis.
-To get presentation skills required to communicate original ideas.
-To write a master's thesis.
The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency,etc.
【Learning activities outside of classroom】
Data collection, data analysis and previous studies survey,etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria/Policy】
The grade is calculated by the completeness of a final paper (70%) and the attitude toward the class(30%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文・リサーチペーパー作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
・先行研究をレビューして、先行研究や理論を基に仮説を構築します。
・適切な分析方法を用いて仮説を検証します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文の執筆を行う。
研究内容ついては、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面・オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の整理
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文・リサーチペーパーとしての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku Univrsity), 70, pp.1-36.
長谷川翔平 (2017)，「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」，『経営志林』，53(4)，pp.1-9.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses or research papers regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文・リサーチペーパー作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
・先行研究をレビューして、先行研究や理論を基に仮説を構築します。
・適切な分析方法を用いて仮説を検証します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文・リサーチペーパーの執筆を行う。
研究内容ついては、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面・オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	修士論文・リサーチペーパー執筆の指導
11	論文執筆指導②	修士論文・リサーチペーパー執筆の指導
12	論文執筆指導③	修士論文・リサーチペーパー執筆の指導
13	論文執筆指導④	修士論文・リサーチペーパー執筆の最終指導
14	論文執筆指導⑤	修士論文・リサーチペーパー執筆の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文・リサーチペーパーとしての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku Univrsity), 70, pp.1-36.
長谷川翔平 (2017)，「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」，『経営志林』，53(4)，pp.1-9.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses or research papers regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関するリサーチペーパーあるいは修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度なリサーチペーパーあるいは修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目はリサーチペーペーあるいは修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete research paper or master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関するリサーチペーペーあるいは修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度なリサーチペーペーあるいは修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目はリサーチペーペーあるいは修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete research paper or master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、リサーチペーパー作成のための研究指導を行う。受講者は、先行研究のレビュー、リサーチクエスチョンの構築、データの収集、適切で客観的なデータ分析と考察の各段階を通して、リサーチペーパーの完成を目指す。

【到達目標】
(1)研究に必要な資料の収集ができ、適切に先行研究をレビューできる。
(2)先行研究のレビューに基づき、オリジナルのリサーチ・クエスチョンを立てることができる。
(3)リサーチ・クエスチョンへの答えを得るために行うべき調査方法やデータ収集方法を特定し、実施することができる。
(4)収集したデータを効果的に分析し、リサーチ・クエスチョンへの答えを導くための考察を行うことができる。
(5)リサーチペーパーを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
少人数のゼミ形式で体系的に研究指導を行う。毎回、受講者が各自の研究活動に関する進捗報告を行い、他の受講者とのディスカッションや教員からの指導を通して調査・分析、リサーチペーパーの執筆を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	-研究指導の進め方について確認する。 -リサーチペーパー執筆の年間計画を立てる。
2	先行研究のレビュー（1）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
3	先行研究のレビュー（2）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
4	先行研究のレビュー（3）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
5	先行研究のレビュー（4）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
6	先行研究のレビュー（5）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカションを行う。
7	リサーチ・クエスチョンの構築（1）	-受講者各自の研究内容に基づき、先行研究で明らかにされていることとこれから明らかにされるべきこととを整理する。 -明らかにしたい点を見極め、クエスチョンを立てる。
8	リサーチ・クエスチョンの構築（2）	-受講者各自の研究内容に基づき、先行研究で明らかにされていることとこれから明らかにされるべきこととを整理する。 -明らかにしたい点を見極め、クエスチョンを立てる。
9	調査方法の構築（1）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。
10	調査方法の構築（2）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。
11	調査方法の構築（3）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。
12	調査の実施（1）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。
13	調査の実施（2）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。
14	調査の実施（3）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者の関連研究の文献探索やデータ収集のための調査対象への依頼、データ分析、執筆活動等は各受講者が授業時間外に行うものとする。これら授業外に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じてその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】
進捗状況の報告：40％
ディスカッションへの参加：30％
模擬発表：30％

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.

(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】

This course will provide research guidance for writing a research paper. Students will aim to complete their research through the steps of reviewing previous research, building research questions, collecting data, and appropriate data analysis.

The learning objectives of this course are as follows: Students will be able to (1) collect materials necessary for research and review previous research appropriately, (2) formulate an original research question based on a review of previous research, (3) identify and implement research and data collection methods to answer the research question, (4) effectively analyze and discuss collected data to answer the research question, and (5) complete a research paper. The average weekly time required outside of class will be 4 hours.

Students' grades will be determined based on progress reports (40%), participation in discussions (30%), and mock presentations (30%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習Ⅱ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、リサーチペーパー作成のための研究指導を行う。受講者は、先行研究のレビュー、リサーチクエスチョンの構築、データの収集、適切で客観的なデータ分析と考察の各段階を通して、リサーチペーパーの完成を目指す。

【到達目標】
(1)研究に必要な資料の収集ができ、適切に先行研究をレビューできる。
(2)先行研究のレビューに基づき、オリジナルのリサーチ・クエスチョンを立てることができる。
(3)リサーチ・クエスチョンへの答えを得るために行うべき調査方法やデータ収集方法を特定し、実施することができる。
(4)収集したデータを効果的に分析し、リサーチ・クエスチョンへの答えを導くための考察を行うことができる。
(5)リサーチペーパーを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
少人数のゼミ形式で体系的に研究指導を行う。毎回、受講者が各自の研究活動に関する進捗報告を行い、他の受講者とのディスカッションや教員からの指導を通して調査・分析、リサーチペーパーの執筆を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	-研究指導の進め方について確認する。 -リサーチペーパー完成までの計画を立てる。
2	調査結果の分析（1）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
3	調査結果の分析（2）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
4	調査結果の分析（3）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
5	調査結果の分析（4）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
6	調査結果の分析（5）	-収集したデータを整理する。 -受講者各自が実施した調査の結果を分析する。
7	考察（1）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
8	考察（2）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
9	考察（3）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
10	考察（4）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
11	考察（5）	-データの分析結果から明らかになった点を整理する。 -研究上の貢献を説明する。 -実務上の提言を説明する。
12	リサーチペーパーの仕上げ（1）	-研究全体の結論をまとめる。 -参考文献を整理して記載する。
13	リサーチペーパーの仕上げ（2）	-研究全体の結論をまとめる。 -参考文献を整理して記載する。
14	リサーチペーパーの仕上げ（3）	-研究全体の結論をまとめる。 -参考文献を整理して記載する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者の関連研究の文献探索やデータ収集のための調査対象への依頼、データ分析、執筆活動等は各受講者が授業時間外に行うものとする。これら授業外に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じてその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】
進捗状況の報告：40％
ディスカッションへの参加：30％
模擬発表：30％

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
This course will provide research guidance for writing a research paper. Students will aim to complete their research through the steps of reviewing previous research, building research questions, collecting data, and appropriate data analysis.
The learning objectives of this course are as follows: Students will be able to (1) collect materials necessary for research and review previous research appropriately, (2) formulate an original research question based on a review of previous research, (3) identify and implement research and data collection methods to answer the research question, (4) effectively analyze and discuss collected data to answer the research question, and (5) complete a research paper. The average weekly time required outside of class will be 4 hours.

Students' grades will be determined based on progress reports (40%), participation in discussions (30%), and mock presentations (30%).

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する1章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する1章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, ⅡA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
消費者行動論

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠA will be carried out.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, ⅡB, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ1で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
消費者行動論

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠB will be carried out.

MAN700F1 － 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise in academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIA, students will aim to write a survey paper on previous research and a chapter of the thesis at the level required to complete the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside classroom)

On the advice of their supervisor, students are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals. The doctoral thesis should include at least one article that has passed and published in a peer reviewed or equivalent journal. In the case of a co-written article, students should be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップの「第2段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ1で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise in academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIB, students will aim to write a survey paper on previous research and a chapter of the thesis at the level required to complete the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside classroom)

On the advice of their supervisor, students are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals. The doctoral thesis should include at least one article that has passed and published in a peer reviewed or equivalent journal. In the case of a co-written article, students should be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢA

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢAでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise in academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIA, students will aim to present the overall structure, and main chapters of the doctoral thesis at the level required to complete Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, students will continue to present their research at conferences and submit papers to peer-reviewed or equivalent journals. The doctoral thesis should include at least one article that has passed and published in a peer reviewed or equivalent journal. In the case of a co-written article, students should be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise in academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIB, students will aim to present the overall structure, and main chapters of the doctoral thesis at the level required to complete Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, students will continue to present their research at conferences and submit papers to peer-reviewed or equivalent journals. The doctoral thesis should include at least one article that has passed and published in a peer reviewed or equivalent journal. In the case of a co-written article, students should be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢA

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, ⅢA, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式はオンライン授業として、必要に応じて対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
消費者行動論

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式はオンライン授業として、必要に応じて対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
消費者行動論

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢA

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, ⅢA, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
経営管理論、経営組織論、組織行動論、キャリア論

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, ⅢB, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
経営管理論、経営組織論、組織行動論、キャリア論

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースのステップ３のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財務会計論、会計情報システム論
＜研究テーマ＞
AI環境下における会計ディスクロージャーの課題、電子開示とXBRL
＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年.（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting &Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のためのXBRL入門』（単著）、同文舘、2011年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年.

【Outline (in English)】
< Course outline>
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation.
< Learning Objectives>
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%) and in-class contribution (50%).

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースのステップ３のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ３のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財務会計論、会計情報システム論
＜研究テーマ＞
AI環境下における会計ディスクロージャーの課題、電子開示とXBRL
＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年.（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting &Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のためのXBRL入門』（単著）、同文舘、2011年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年.

【Outline (in English)】
< Course outline>
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation.
< Learning Objectives>
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%) and in-class contribution (50%).

MAN700F1 － 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢA

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員からの助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士課程セミナーⅢAの目標は、博士論文の主要な章に相当する論文を執筆し、博士論文全体を完成させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文の内容に関する学会発表を行い、指導教員の助言を受けながら、関連論文を査読付き学術誌に投稿することが求められます。

【テキスト（教科書）】
指導教員が必要に応じて指導を行います。

【参考書】
指導教員が必要に応じて指導を行います。

【成績評価の方法と基準】
成績は、学会発表、査読付き学術誌への論文投稿、出席、発表などの研究活動への取り組み、およびセミナーにおける研究の進捗や姿勢など、研究成果および/または進捗状況に基づいて決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
サステナブルマネジメント、ESG情報開示、サーキュラーエコノミー

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士課程セミナーⅢAの目標は、博士論文の主要な章に相当する論文を執筆し、博士論文全体を完成させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文の内容に関する学会発表を行い、指導教員の助言を受けながら、関連論文を査読付き学術誌に投稿することが求められます。

【テキスト（教科書）】
指導教員が必要に応じて指導を行います。

【参考書】
指導教員が必要に応じて指導を行います。

【成績評価の方法と基準】
成績は、学会発表、査読付き学術誌への論文投稿、出席、発表などの研究活動への取り組み、およびセミナーにおける研究の進捗や姿勢など、研究成果および/または進捗状況に基づいて決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
サステナブルマネジメント、ESG情報開示、サーキュラーエコノミー

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ，損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する1章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する1章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ，損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)

On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)

Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)

On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)

Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【担当教員の専門分野】
消費者行動論

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【担当教員の専門分野】
消費者行動論

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)

On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of the doctoral seminar is to facilitate the acquisition of advanced expertise on academic knowledge and skills. While receiving advice and feedback from the supervisor on each report, students will endeavor to reach the level of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students will aim to write a “research plan” of the level required to clear the Doctoral Course Workshop I. In accordance with the designated research theme, students are required to submit a report on a survey of major previous papers, research methods and the structure of their doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
On the advice of their supervisor, they are expected to present the content of their doctoral thesis at conferences and prepare relevant papers for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)

Grading is determined by research results, such as conference presentations and submission of papers to peer-reviewed journals; research activities, such as seminar attendance and paper presentations; and research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 – 0007（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップＩＡ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、学生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップＩＡでは、中間報告会での報告内容が、ステップ1クリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
この授業の目標は、学位論文審査の第一段階であるステップ1に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野の先行研究の批判的検討に基づいた研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求される。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加することが求められる。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第6回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日に開催予定である。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅡA、ⅡBを受講することが可能となる。なお、ワークショップＩＡを合格すれば、ワークショップＩＢを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress with their thesis. The interim debrief of the workshop is a good opportunity for students to receive comments and advice from several teachers, as well as for students to share research skills and information with each other.
(Learning objectives)
The aim of Workshop IA is to develop a research proposal and pass Step 1. This requires a presentation that includes (1) a research question based on a critical review of previous research in the subject area, (2) the research methods to be employed, (3) the structure of the thesis, and (4) a writing schedule.
(Learning activities outside classroom)
Make the necessary preparations for presentations at Workshop I. In addition, prepare for conference presentations and submission to peer-reviewed and equivalent journals.
(Grading criteria)
Grading is based on the submitted papers, presentations, questions and answers at the workshop. A- (A minus) or above indicates a passing grade to proceed to the next step, Workshop II.

MAN700F1 – 0008（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップＩＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、学生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップＩＢでは、中間報告会での報告内容が、ステップ1クリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
この授業の目標は、学位論文審査の第一段階であるステップ1に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野の先行研究の批判的検討に基づいた研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求される。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加することが求められる。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第6回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日に開催予定である。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅡA、ⅡBを受講することが可能となる。なお、ワークショップＩＡを合格すれば、ワークショップＩＢを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress with their thesis. The interim debrief of the workshop is a good opportunity for students to receive comments and advice from several teachers, as well as for students to share research skills and information with each other.
(Learning objectives)
The aim of Workshop IB is to develop a research proposal and pass Step 1. This requires a presentation that includes (1) a research question based on a critical review of previous research in the subject area, (2) the research methods to be employed, (3) the structure of the thesis, and (4) a writing schedule.
(Learning activities outside classroom)
Make the necessary preparations for presentations at Workshop I. In addition, prepare for conference presentations and submission to peer-reviewed and equivalent journals.
(Grading criteria)
Grading is based on the submitted papers, presentations, questions and answers at the workshop. A- (A minus) or above indicates a passing grade to proceed to the next step, Workshop II.

MAN700F1 – 0009（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅡA

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅡAでは、中間報告会での報告が、ステップ２クリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅢA、ⅢBを受講することが可能となる。なお、ワークショップⅡAに合格すれば、ワークショップⅡBを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅠAまたはⅠBにおいて、A-以上の評価を得た者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress with their thesis. The interim debrief of the workshop is a good opportunity for students to receive comments and advice from several teachers, as well as for students to share research skills and information with each other, allowing them to improve each other's work.
(Learning objectives)
The aim of Workshop IIA is to fulfil the requirements of Step 2. This includes the submission and presentation of (1) a review article on previous research in the relevant field and (2) at least one of the chapters of the doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
Make the necessary preparations for presentations at Workshop II. In addition, prepare for conference presentations and submission to peer-reviewed and equivalent journals.
(Grading criteria)
Grading is based on the submitted papers, presentations, questions and answers at the workshop. A- (A minus) or above indicates a passing grade to proceed to the next step, Workshop III.

MAN700F1 – 0010（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅡB

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅡBでは、中間報告会での報告が、ステップ２クリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅢA、ⅢBを受講することが可能となる。なお、ワークショップⅡAに合格すれば、ワークショップⅡBを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅠAまたはⅠBにおいて、A-以上の評価を得た者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress with their thesis. The interim debrief of the workshop is a good opportunity for students to receive comments and advice from several teachers, as well as for students to share research skills and information with each other.
(Learning objectives)
The aim of Workshop IIB is to fulfil the requirements of Step 2. This includes the submission and presentation of (1) a review article on previous research in the relevant field and (2) at least one of the chapters of the doctoral thesis.
(Learning activities outside classroom)
Make the necessary preparations for presentations at Workshop II. In addition, prepare for conference presentations and submission to peer-reviewed and equivalent journals.
(Grading criteria)
Grading is based on the submitted papers, presentations, questions and answers at the workshop. A- (A minus) or above indicates a passing grade to proceed to the next step, Workshop III.

MAN700F1 – 0011（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅢA

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅢＡでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得る。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士演習はもとより、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および院生からの助言や批判点を整理した上で、論文を改善する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価を取得した場合、博士論文を提出する権利が与えられる。
なお、博士論文ワークショップⅢAの合格者は、博士論文ワークショップⅢBを受ける必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress with their thesis. The interim debrief of the workshop is a good opportunity for students to receive comments and advice from several teachers, as well as for students to share research skills and information with each other.
(Learning objectives)
The aim of Workshop IIIA is to fulfil the requirements of Step 3. This requires students to submit and present the overall framework of the doctoral thesis and one or more papers corresponding to the main body (chapters) of the doctoral thesis. The thesis must include at least one article published (or to be published) in a peer-reviewed journal or equivalent. If the article is co-authored, a document must be submitted certifying that the person submitting the thesis is the main author.
(Learning activities outside classroom)
Make the necessary preparations for presentations at Workshop III. In addition, prepare for conference presentations and submission to peer-reviewed and equivalent journals.
(Grading criteria)
Grading is based on the submitted papers, presentations, questions and answers at the workshop. A- (A minus) or above entitles the student to submit a doctoral thesis.

MAN700F1 – 0012（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅢＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅢＢでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得る。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士演習はもとより、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および院生からの助言や批判点を整理した上で、論文を改善する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の単位を取得した場合、博士論文を提出する権利が与えられる。
なお、博士論文ワークショップⅢAの合格者は、博士論文ワークショップⅢＢを受ける必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress with their thesis. The interim debrief of the workshop is a good opportunity for students to receive comments and advice from several teachers, as well as for students to share research skills and information with each other, allowing them to improve each other's work.
(Learning objectives)
The aim of Workshop IIIB is to fulfil the requirements of Step 3. This requires students to submit and present the overall framework of the doctoral thesis and one or more papers corresponding to the main body (chapters) of the doctoral thesis. The thesis must include at least one article published (or to be published) in a peer-reviewed journal or equivalent. If the article is co-authored, a document must be submitted certifying that the person submitting the thesis is the main author.
(Learning activities outside classroom)
Make the necessary preparations for presentations at Workshop III. In addition, prepare for conference presentations and submission to peer-reviewed and equivalent journals.
(Grading criteria)
Grading is based on the submitted papers, presentations, questions and answers at the workshop. A- (A minus) or above entitles the student to submit a doctoral thesis.


法政大学
HOSEI University